



福島県立博物館

〒965-0807 福島県会津若松市城東町1-25 TEL0242(28)6000

福島県立博物館

令和2年度

年報 第35号

福島県立博物館

# ごあいさつ



県立博物館の外周を歩くと、季節ごとの風景の移ろいや、ゆったりとした時の流れを感じるものですが、昨年来、目に見えない脅威やその影響がふと脳裏をかすめ、途端に現実に引き戻されてしまうことが時々あります。

令和2年度の年報の内容は、まさしくコロナ禍の中での苦勞しながらの取り組みそのものです。数年後、コロナの終息あるいは治療薬により普段どおりの生活を取り戻すことができた時に、当時の博物館の苦勞の様子を振り返るうえで貴重な資料となるものと考えます。

我々はすっかりコロナ前に戻ろうとしているではありません。たとえば動画の自主制作と配信は、来館の叶わない遠方のお客様が博物館に触れる機会を提供する手段として有効であるなど、コロナをきっかけとした様々な気づきによって博物館の取り組みを改善し、より充実させている側面もあるのは確かです。

令和2年度の取り組みの中で特筆すべきものとしては、文化観光拠点施設として国の認定を受けたことでしょうか。以前から課題の一つであった観光の視点を大いに取り入れ、魅力増進と機能向上を図ります。Wi-Fiをはじめとしたデジタル技術は、今や来館者の満足度に大いに関わる大切なものであり、たとえば手持ちのスマホに多言語解説を表示するなど、多様な来館者へのサービス向上につながるものです。もちろん従前から博物館が大切にしてきたことはしっかり守りながら進めることが大前提です。

当然のことながら、久しく職場の仲間内での飲食はしていません。飲ミニケーションなどという言葉もかつて存在していました。しかし、そんなことをせずとも「風通しの良い職場」、「仲間同士の信頼関係」は築けるものです。これもコロナ禍だからこそ実感できることなのかもしれません。

令和3年10月

福島県立博物館長 鈴木 晶

# トピックス

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぎつつ博物館を楽しんでいただくため、新たな取り組みを多く始めた年であった。また、2011年3月11日に発生した東日本大震災から10年という節目の年でもあった。



企画展「震災遺産を考える一次の10年へつなぐために」開催



Nintendo Switch『あつまれどうぶつの森』を活用した情報発信の開始



新広報紙「なじよな」発刊



新講座・特別講座『詩人のいる博物館』開催

# 目 次

ごあいさつ

トピックス

目次

福島県立博物館の使命と活動方針	1
福島県立博物館第3期中期目標	3
1. 重点目標	3
2. 数値目標	6
新型コロナウイルス感染拡大への対応	8
I 事業の概要	13
1. 資料収集事業	13
(1) 収集展示委員会	13
(2) 受贈・受託	13
(3) 購入	14
(4) 制作	14
2. 保存管理事業	15
(1) 資料の収蔵	15
(2) 登録・整理	17
(3) 貸出	18
(4) 保存管理	19
3. 展示事業	20
(1) 常設展示	20
(2) 企画展示	23
(3) 特集展	30
(4) 指定文化財の公開	31
(5) 展示解説	31
(6) 体験学習室	32
(7) リニューアルの検討	33
4. 調査研究事業	34
(1) 展示資料調査研究	34
(2) その他の調査研究事業	36
(3) 職員の研究活動	36
5. 教育普及事業	39
(1) 講座・講演会	39
(2) けんぱくミュージアムイベント	44
(3) 学校・文化施設との連携	45
(4) 生涯学習・研究支援・家庭教育	50
(5) 動画の作成と配信	52
(6) 博物館友の会活動への支援	53
6. 広報公聴活動および出版事業	55
(1) 広報活動	55
(2) 公聴活動	64
(3) 出版事業	64
7. 地域連携とネットワークの拠点	65
(1) 福島県博物館連絡協議会	65
(2) 磐梯山ジオパーク推進事業	65

(3) ふくしまサイエンスぶらっとフォーム	67
(4) 福島藝術計画×Art Support Tohoku-Tokyo	67
(5) ふくしま歴史資料保存ネットワーク	68
(6) 会津の文化×地域振興プロジェクト協議会	68
(7) 県内博物館PR事業「行こう！ふくしまの博物館」	69
(8) 会津地方の郷土玩具「会津だるま」を活用した観光客誘致事業	69
(9) 福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業 「三の丸からプロジェクト」	70
8. 震災遺産の保全・活用による東日本大震災の共有と継承	71
(1) 震災遺産保全チームの組織	71
(2) 震災遺産の調査・保全	71
(3) 他団体・他機関との連携・協力	71
(4) 普及事業	71
9. 新たな博物館の役割・機能の創出	73
(1) 文化財・自然資料レスキュー	73
(2) ライフミュージアムネットワーク2020	73
(3) 歴史博物館・自然史博物館・美術館における認知症対応プログラム 実践事業	75
II 管理運営	77
1. 組織・職員	77
2. 予算	78
3. 運営協議会の開催	79
(1) 福島県立博物館運営協議会	79
III 利用状況	80
1. 入館者統計	80
(1) 令和2年度入館者統計	80
(2) 入館者の推移	81
(3) 企画展入館者統計	83
2. 出版物販売	86
IV 法規	88
福島県立博物館条例	88
福島県立博物館運営協議会条例	89
福島県立博物館条例施行規則	89
福島県立博物館組織規則	93
福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則	94
福島県立博物館収集展示委員会設置要綱	94
福島県立博物館資料所在調査要領	95
福島県立博物館資料調査員設置要綱	95
福島県立博物館友の会規約	95
V 施設の概要	97
1. 建築概要	97
2. 設備	97
3. 平面図・各室一覧	98
4. 施設の修理・改築	100
5. 沿革	101
VI 利用案内	103

# 福島県立博物館の使命と活動方針

平成19年7月公表 平成25年4月・平成26年6月・平成28年3月・平成31年3月改正

福島県立博物館は、昭和61年に県立の総合博物館として開館し、これまで県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、さまざまな活動を行ってきました。博物館をとりまく社会情勢が変化する中で、多様化する要請に配慮しながら、社会に対する当館の責務を使命として明示し、新しい時代の博物館として目指すべき活動方針をとりまとめ、その内容を公表します。

## ◆使命

福島県は、関東・北陸・東北地方の接するところに位置し、美しく豊かな風土のもと、時代を通して文化交流の地として発展し、特徴のある歴史・文化を形成してきました。また、広大な面積をもつ本県は、中通り・浜通り・会津地域に分かれ、それぞれ異なった風土と生活文化をもっています。

福島県立博物館は、こうしたユニークで多様な歴史・文化が生み出した遺産とその背景にある自然に関する資料を収集・保存し、大切に未来へ引き継ぐとともに、研究を通して、資料のもつ価値を明らかにします。そして、収集した資料や研究の成果を世界に向けて発信するため、さまざまな形で公開します。

人々が地域の課題を調査・研究することを支援し、地域文化の新しい価値を創造することに寄与するとともに、みなさんが博物館を利用しやすいように、人と人との交流を大切にする楽しい環境を整えます。

平成23年3月に発生した東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故は、福島県に大きな被害を及ぼしました。博物館では、この震災を契機として、従来からの活動に加えて、新たな試みを始めてきました。それらを、未来に向けての取り組みとして定着、発展させてゆきます。

これらを基本に、福島県立博物館が担う3つの使命を掲げます。

### I ふくしま発見 博物館

ふくしまの歴史・文化遺産と自然史資料をもとに、ふくしまの歴史・文化そしてそれを育んだ自然に関する情報を提供し、利用者の皆さまとともに、地域文化の価値を学び、新たな文化を創り出します。

### II 出会いふれあい 博物館

文化の多様性を尊重し、地域とすべての人に開かれ、人と人々が自由に交流し語り合える博物館を目指します。そのために、皆さまの心の拠り所となり、自ら学び体験できる場を創出します。

### III 明日に向かう 博物館

震災の継承や博物館相互の連携強化を軸にした未来志向の取り組みを通して、発信力のある力強い博物館を目指します。災害や社会情勢の変化に対応し、行政や文化施設・諸団体と連携して、様々な課題に取り組みます。

## ◆活動方針

使命を果たすため、以下の10項目の活動を実践します。活動方針に沿って、とくに重点的に進める具体的な目標は、期間を定めて策定する「福島県立博物館中期目標」として公表します。

### 〈 使命 I 「ふくしま発見 博物館」 関連 〉

#### 1. 地域の文化遺産の収集と継承

福島県の特徴を表す歴史・文化遺産と自然史資料および震災遺産を系統的に収集し、安全な状態で保存し次世代に伝えます。資料情報はデータベースとして整備し、可能な限り公開・活用します。

#### 2. 最新の研究による新たな資料価値の発見

専門的な研究により、収集した資料の価値を明らかにします。地域の課題と関係したテーマを設け調査を行い、その成果を地域文化の発展と創造のために役立てます。

#### 3. 来るたびに発見がある展示・講座

展示を見るたびに資料の新しい側面を発見できるようにします。新しい資料や研究成果を展示や講座に反映するとともに、ニーズに応じて、さらに詳しい情報を準備し提供します。

### 〈 使命 II 「出会いふれあい 博物館」 関連 〉

#### 4. 楽しめて出会いのある場の創出

居心地がよく、いろいろなことを体験・創造・表現できる博物館を目指します。人と人々が出会う文化的なコミュニケーションの場を設けます。未来を担う子どもたちとともに文化の創造力を育みます。

#### 5. 利用者との協働

利用者の意見を積極的に取り入れて、博物館を運営します。幅広く館外からの協力を得ながら、誰にも開かれた博物館の事業を推進します。博物館の機能を生かした事業の実施を利用者の皆さまとともに目指します。

## 6. 博物館情報の公開と発信

博物館の資料や研究成果および運営に関する情報を公開するとともに、時代の変化に応じた効果的な広報活動により展示など館活動の情報を広く伝え、博物館イメージと認知度の向上を図ります。

## 7. 地域連携とネットワークの拠点

福島県の面積は広大で、多くの学校、社会教育・文化施設、団体があります。これら関係機関等とのネットワークを作り、情報交換・共同研究や利用者への相互紹介、事業の共同実施を行います。会津という観光地に立地することを踏まえ、地元会津の市町村や文化・観光施設・団体等と連携、協働し、新しいタイプのニーズに対応できるよう努めます。

## 〈 使命Ⅲ「明日に向かう 博物館」関連 〉

### 8. 震災遺産の保全・活用による東日本大震災の共有と継承

東日本大震災による多様な出来事を歴史として共有し継承してゆくため、震災に関連するモノと震災を示すバシヨの資料化を行い、常設展示による公開とともに広く利活用することを目指します。

### 9. 新たな博物館の役割・機能の創出

これまでの博物館活動による蓄積を基盤にしつつ、自由な発想によって博物館の役割や機能を拡張していきます。博物館ならではの新たな広がりのある活動を検討することで、社会の課題やニーズに向き合います。

## 〈 3つの使命に共通する基盤として 〉

### 10. 管理運営

利用者の安全確保と快適性に配慮し、施設や設備を保全します。優れた人材を育成し、機能的で効果的な組織運営に努めます。

# 福島県立博物館 第3期中期目標

## 1. 重点目標

2020年度の計画と実績・自己評価

(2021年3月末)

使命	活動方針	重点目標	上段：2020年度の計画
			下段：実績・自己評価
I ふくしま発見博物館	1 地域の文化遺産の収集と継承	① 検索が楽しめるデータベースの構築と公開方法の改善	データベースのテーマを設定する。 各分野に案を募り、6分野20テーマを設定した。またテーマ型データベースは公開資料であることが前提となるため、公開に向けた作業を積極的に行うように各分野へ促した。 <b>計画通り実施</b>
		② 図書利用環境の整備	図書室2層の配架環境を整備する。 図書室2層への図書の移動・配架計画を立案するとともに、2層で保管していた物品類を他所へ移動した。1層の図書を2層へ配架し直す作業を計画通り完了した。更に1層の図書の再配置にも一部着手した。 <b>計画通り実施</b>
		③ 資料の安全な保存	通常モニタリングや環境調査結果を共有する館内の枠組みを整備し、空気環境のリスクマネジメントを構築する。 モニタリングのネットワーク方式化について、機器の仕様を確認しながら県担当課と協議し方向性を決定した。また空調機器の課題について県担当部署等と協議した。環境調査はコロナ禍であることを踏まえ手法や期間を検討し実施した。モニタリングや調査結果を共有する枠組みの整備について内部会議で説明し、組織の在り方や運用方針について検討を加えたが、リスクマネジメントの構築までには至らなかった。 <b>一部計画通り実施</b>
	2 最新の研究による新たな資料価値の発見	④ 多様な連携による新たな研究活動	共同研究組織を立ち上げたり、特定の研究課題組織に参画するなどして、学芸員の専門性を生かした役割を果たし、研究成果を公表する。 国立歴史民俗博物館の共同研究や明治大学科研費による課題研究、会津大学の研究プロジェクト等にそれぞれ学芸員が参画して連携した研究活動を実施し成果を公表した。 <b>計画通り実施</b>
	3 来るたびに発見がある展示・講座	⑤ 何度でも足を運びたい展示づくり	前年度に引き続き企画展や行事と連動したポイント展・テーマ展を実施し、展示室でのPRも工夫する。企画展について多様な利用者層に興味を持っていたけように展示手法を工夫する。 常設展については、企画展や行事と連動したポイント展・テーマ展を計10回実施した（例：企画展「ふくしまの旅」と連動したテーマ展「けんぱくの宝2020 旅によせて」など）。企画展については、親子連れやSNS利用者向けに撮影スポットを設置したり、新型コロナウイルス感染症対策をした展示室づくりを心がけるなど、多様な利用者層に興味を持っていたけように工夫した。 <b>計画通り実施</b>
			⑥ 博物館の魅力が詰まった新しいスタイルの講座の開催



使命	活動方針	重点目標	上段：2020年度の計画
			下段：実績・自己評価
I ふくしま発見博物館	3 来るたびに発見がある展示・講座	⑦ 新しい展示ストーリーの検討	新しい展示ストーリーの検討を開始するとともに、新設館等の情報収集や、来館者モニターができる講座などを試行する。
			<p>学芸員による常設展の既存の展示ストーリーの検証作業を開始した。会津大学との共同研究プロジェクトによる「鑑賞アプリ」の常設展示室への試験導入や展示資料を活かした最新の映像提供技術の情報を収集した。会津若松国際交流協会を来館者モニターとして、展示室の外国語表示や対応について意見交換を行った。</p> <p><b>計画通り実施</b></p>
II 出会いふれあい博物館	4 楽しめて出合いのある場の創出	⑧ 展示室以外の空間の有効活用	<p>無料空間のあり方、活用方法、実現計画を検討し、エントランスホール、体験学習室、相談コーナーの新たな活用を試行する。</p> <p>新型コロナウイルス感染症予防対策を講じた上での無料空間のあり方、活用方法を検討し、体験学習室や相談コーナーを開室した。体験学習室は、学校等との連携成果の展示公開の場として活用したほか、人数制限・時間制限を行いながら大学と連携したワークショップ会場にするなど、オープンスペースとしての活用を試行した。また、使用を中止していた昔のおもちゃの遊び方を紹介する動画（「KKCおしのび殿さんぼ」シリーズ）を作成、配信するなど新たなコンテンツの開発も行った。</p> <p><b>計画通り実施</b></p>
			<p>障がい者および乳幼児や保護者に合わせた学習機会の促進</p> <p>障がい者の学習機会の促進は、当館が事務局を務めるライフミュージアムネットワーク実行委員会のプログラム開発の中で、オンライン見学や動画を活用したミュージアム観覧を、会津特別支援学校中等部やIT企業等と協働して実施した。幼稚園・保育園等の低年齢層には、年齢に応じた解説プログラムを作成・提供した。また、小学生以下の子どもたちが保護者と楽しみながら学べるワークショップを会津大学短期大学部幼児教育学科と考案し、学習機会を設けた。</p> <p><b>計画通り実施</b></p>
II 出会いふれあい博物館	5 利用者との協働	⑩ ボランティアとの協働	<p>ボランティアとの窓口になる職員（ボランティアコーディネーター）を配置し、ボランティアのあるべき姿と協働について議論する。</p> <p>ボランティア対応職員を配置した。ボランティアの目指すべき姿と現時点での課題等をボランティアと作業する各分野担当学芸員と共有した。また新しくできた友の会のサークル（食文化サークル）において、将来ボランティア活動を視野に入れていくことを確認した。協働について改めて意見交換を行った。</p> <p><b>計画通り実施</b></p>
			<p>館の講座等を足がかりに、新しい継続的な学習の形（サークル等）を提案する。また協働のあるべき姿を議論し共有する。</p> <p>当館の民俗講座、防災講座の実績を踏まえ、友の会のサークルとして新たに食文化サークルを提案し、試行的に活動を開始した。将来的にこのサークルの参加者が講師となり学習の輪が広がることで継続的な活動に繋がるように参加者に提案し、目標として共有している。また、美術講座を足掛かりに、仏像鑑賞サークルの立ち上げも協議している。協働について意見交換を行った。</p> <p><b>計画通り実施</b></p>
		⑪ 利用者の自主的な文化活動支援	<p>協働のあるべき姿を議論し、協働による新たな事業運営の枠組み案を作成し、運営体制案（人員の配置等）もあわせて検討する。</p> <p>前年度の最終館長講座の記録動画の上映会を行い、その参加者から当館のあるべき姿について意見をいただいた。あわせて当館の事業運営に繋がる協働のあり方について館内での協議を進め、事業運営の枠組み案を検討し、運営体制案についても事業運営案と合わせて引き続き検討することになった。</p> <p><b>計画通り実施</b></p>
		⑫ 協働による新たな事業運営の枠組みの構築	<p>協働のあるべき姿を議論し、協働による新たな事業運営の枠組み案を作成し、運営体制案（人員の配置等）もあわせて検討する。</p> <p>前年度の最終館長講座の記録動画の上映会を行い、その参加者から当館のあるべき姿について意見をいただいた。あわせて当館の事業運営に繋がる協働のあり方について館内での協議を進め、事業運営の枠組み案を検討し、運営体制案についても事業運営案と合わせて引き続き検討することになった。</p> <p><b>計画通り実施</b></p>

使命	活動方針	重点目標	上段：2020年度の計画
			下段：実績・自己評価
Ⅱ 出会いふれあい博物館	6 博物館情報の公開と発信	⑬ 情報の効果的な周知	<p>広報戦略の立案に基づき、WebサイトおよびSNSの特性に応じた運用の差別化を実施。他団体との連携による広報ツールの充実を図るとともに、展示テーマに適した広報展開を実施する。新広報紙「なじよな」が魅力的な紙面となるよう工夫し、発行を軌道にのせる。</p> <p>企画展や各イベントの内容に応じた広報戦略を立て、広報物の送付先や広報コンテンツ、発信方法等を検討し、広報活動を行った。総括的な情報発信ツールであるWebサイト、速報性の高いTwitter、読み物として機能するFacebookなど、それぞれの特性に応じた使い分けも行った。またコロナ禍における情報発信として、新たに公式YouTubeを立ち上げ、こども向け教育番組、美術ファン層に向けた教養番組、展示ドキュメンタリーなど多様なニーズに応える情報発信ツールとした。</p> <p>夏の企画展「会津のSAMURAI文化」では、会津の武家文化ゆかりの3施設と連携し、SAMURAI文化を紹介する動画の作成配信、SNSによる相互広報を行った。</p> <p>新広報紙「なじよな」は、展示担当者のインタビューや収蔵庫内の資料紹介等、通常の情報発信と異なる切り口で紙面を構成し、当館の多様な魅力を伝えた。</p> <p><b>計画通り実施</b></p>
			<p>掲示物のデザインの統一感の創出を図り、広報物のデザインの検討と試行を行う。各種コンテンツを用い、博物館の「人」「モノ」「コト」の紹介により親しみやすさの印象を向上させる。</p> <p>年間パスポート発売やテーマ展会期変更など「博物館からのお知らせ」を共通のデザインで掲示・発信する試行を行ったが、広報物全体を統一感あるデザインとするまでには至らなかった。</p> <p>紙媒体の広報紙「なじよな」、ラジオ番組「けんぱく徒然語り」、けんぱくYouTubeチャンネル、あつまれどうぶつの森を活用した「#あつ森で飾ろう」など各種コンテンツによって、学芸員それぞれの個性、展示資料の魅力、講座の内容を紹介し、親しみやすい情報発信を行った。</p> <p><b>一部計画通り実施</b></p>
	7 地域連携とネットワークの拠点	⑮ 県内の各機関・団体との連携による新たな文化活動の創造	<p>既存の連携事業の活性化方策を検討・試行し、あわせて新たな連携先（施設・団体等）の発掘と連携方法の検討を行う。</p> <p>福島県博物館連絡協議会の事業内容の充実を理事会等で協議、新施設の見学研修、災害時の資料取り扱い研修を実施した。また「会津の文化×地域振興プロジェクト」協議会を母体に、新たに只見川電源流域振興協議会、福島県観光物産交流協会を連携先とした「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」を策定し、国の認定を受けて事業をスタートさせた。</p> <p><b>計画通り実施</b></p>
Ⅲ 明日に向かう博物館	8 震災遺産の保全・活用による東日本大震災の共有と継承	⑯ 震災遺産の展示公開と利活用	<p>新分野を確立する。新たな常設展示の試行として企画展を開催する。</p> <p>館内で新分野のあり方を議論し、運営協議会、収集展示委員会から意見をいただき、次年度災害分野の確立が決定した。企画展「震災遺産を考える次の10年へつなぐために」では、これまでの活動の蓄積を紹介しつつ、既存の常設展示への接続のしかたも見据えながら展示を構成した。また企画展に合わせて活動をまとめた記録誌を初めて刊行し、常設展に組み込む際の基礎資料と位置づけた。</p> <p><b>計画通り実施</b></p>
	9 新たな博物館の役割・機能の創出	⑰ 地域社会の現状への貢献	<p>子ども、障がい者、高齢者、交通弱者等、様々なタイプの人々に対応した、博物館の資料等を活用したプログラムを考案、試行する。</p> <p>様々な理由により来館が難しい方に博物館体験を届ける試行として、会津特別支援学校中等部・会津支援学校竹田分校・県内複数のミュージアムと協働し、オンライン見学や動画等の通信技術による手法と実物資料の持ち込み、出前授業など実体験による手法を組み合わせたプログラムを考案・実施した。また高齢者福祉施設におけるミュージアムによる回想法プログラム事業に学芸員が参画し、実施に協力した。</p> <p><b>計画通り実施</b></p>

使命	活動方針	重点目標	上段：2020年度の計画
			下段：実績・自己評価
	10 管理運営	⑱ 施設の安全で快適な環境整備	バックヤードのうち研究室・図書室の災害発生時および避難時のリスクアセスメントについて検討する。  研究室や図書室の安全面でのリスクの洗い出しは達成できていないが、重点目標②に合わせ、避難経路確保のための図書落下防止措置を検討した。また令和3年2月に発生した福島県沖地震による博物館被害状況を共有し、地震発生時の行動指針について検討を行った。 <b>一部計画通り実施</b>

## 2. 数値目標（指標）

使命・活動方針に沿って、福島県立博物館の社会的な貢献度をはかる指標として数値化できる目標を設定し、年度ごとに実績を公表します。

(2021年3月末現在)

区分	指標	年間目標	2020実績	備考
館内事業利用者数（展示・行事）		90,000	60,416	（内訳） 展示：58,284人、行事：2,132人

区分	指標	年間目標	2020実績	備考
資料情報の公開	件数	5,000	3,245	
研究成果の公表	件数	30	15	（内訳） 印刷物：11件、学会発表等：4件
行事の実施	回数	100	77	（参考） 中止：50
ホームページ	アクセス件数	430,000	304,261	
館外事業利用者数（学校・公民館事業等）		1,800	2,188	（内訳） ゲストティーチャー事業：1,197、講師派遣事業：991
館外事業利用者数（実行委員会・協議会事業等）		500	159	（内訳） LMN：144（うちオンライン参加53）、磐梯山ジオパーク：15、ふくしまサイエンスプラットフォーム：0

（参考）第3期中期目標から実績を集計し、今後目標値の設定を予定します。

区分	指標	2019実績	2020実績	備考
年間パスポート	販売数	988	1,737	※うち1,200件「買って応援キャンペーン」
	利用者数	4,630	2,442	（内訳） 常設展：1,042、企画展：1,400
Facebook	投稿件数	227	262	投稿数＋シェア数
	フォロワー数	1,135	1,248	
	エンゲージメント数	28,256	28,940	以下の4項目を合計した数値 ・投稿クリック数（リンクのクリックや画像の表示などページを閲覧した数） ・リアクション数（いいね！等） ・コメント数 ・シェア数
Twitter	投稿件数	309	280	ツイート数＋リツイート数
	フォロワー数	1,167	1,507	
	ツイートインプレッション数	3,103,652	1,131,054	ツイートが閲覧された数
YouTube ※2020年度新規	動画数	—	50	
	チャンネル登録者数	—	182	
	視聴回数	—	10,006	
館内事業利用者数（特別プログラム利用者）		4,930	3,009	（内訳） 未就学児：114、学校：2,774、公民館：55、その他展示個別解説等：36、職場体験：1、博物館実習：7、利用指導者研修会：22、大学の課外授業及びゼミ対応
館外事業利用者数（館外で行った当館主催事業利用者）※2020年度新規			19	（内訳） 野外講座：19

## 2021年3月末までの進捗状況について

第3期中期目標（5年間）の2年目を終えた。

「1. 重点目標」について、18項目のうち15項目は年度当初に設定した計画通りに進めることができた。残りの3項目「③資料の安全な保存」「⑭親しみやすさと認知度の向上」「⑯施設の安全で快適な環境整備」は、それぞれ設定した計画通りにできなかった内容が一部あったため、次年度の計画を慎重に設定して最終年度の達成に向けて軌道修正を行った。

「2. 数値目標」については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、さまざまな形で当館を利用していただく機会や人数が減少したため、多くの項目で年間目標の数値を下回ることになった。このような状況下では、来館する形態以外の利用のしかたがより重要になると考え、例えば動画配信数や視聴回数などを数値目標の項目の候補に加えることにした。

### 《補足》2020年度の自己評価の詳細

計画通りできなかった項目		原因の分析・問題点など
1 重点目標	③資料の安全な保存	本年度のうちに「リスクマネジメントを構築する」までに至らなかった点を厳しく自己評価した。次年度からは、館内の組織も改めながら、定期的な検討や共有の機会を設けて着実に改善を進められるようにする。
	⑭親しみやすさと認知度の向上	「デザインの統一感の創出」ができなかった点を厳しく自己評価した。新しい取り組みをしながら、広報デザイン全体の統一感を示すことは難しい課題であるが、次年度も引き続き挑戦する。
	⑯施設の安全で快適な環境整備	バックヤードのリスクアセスメントの検討ができなかった点を厳しく自己評価した。開館時の展示室や来館者への対応を主軸にした災害への対応は、これまでも行ってきたが、本年度の福島県沖地震を契機に、より広い事態に対応できるしくみを目指したい。
2 数値目標	館内事業利用者数（展示・行事）	展示関係の利用者数の内訳を詳しくみると、常設展は40,515人で前年比84%。臨時休館を含む4・5月は615人（前年比6%）と大幅に減少したものの、9～11月は26,858人（前年比187%）と前年よりも大幅に増加した。多くの学校団体が春から秋に教育旅行などを移したことが理由のひとつと考えられる。企画展・特集展は17,769人で前年比32%。前年度は企画展の回数が3回で本年度より1回少ないものの、実行委員会方式で実施した「興福寺と会津」展だけで約4.5万人の利用者があったという事情がある。本年度は、新型コロナの影響により、春の企画展は会期の短縮、夏の企画展は開催規模を縮小せざるを得なかった。また企画展だけではなく、感染症拡大に伴う自由な移動の制限や外出の自粛等が、展示関係の利用者数の減少の原因と考えられる。 行事関係の利用者数は2,132人であるが、これは前年比14%となり、展示関係よりも減少が著しい。行事の回数の減少は、参加者との接触が必要な実技系の行事を中心に感染拡大防止の観点から多くの行事を中止せざるを得なかったためである。実施した講義・実演系の行事の場合も、講堂の収容人数を通常の半分（100名）以下に制限したため、1回の参加者数は通常よりも少なくなった。例年多くの参加者を集めるミュージアムイベントが、密を避けるため、ほぼ実施できなかったことも人数の大幅な減少につながっており、行事関係の利用への新型コロナの影響は大きかった。
	資料情報の公開件数	年間の資料整理計画を分野ごとに作成し、資料整理を実施した。分野ごとの資料整理は必ずしも直接的に資料公開に反映できる内容ではないこと、また大規模コレクションの公開が進んだことから、次第に小規模コレクションのデータ整備等に作業内容がシフトしていることもあり目標値に達しなかった。 各分野の年間の資料整理計画をより緻密なものとし、半期ごとに実績を点検する仕組みをつくって公開実績の底上げを図ることとした。
	研究成果の公表件数	減少の原因として、新型コロナウイルス感染症拡大による学会等の中止に伴う発表機会の減少、それと連動して予稿集や報告書などを含めて執筆機会の減少等が考えられる。
	行事の実施回数	減少の理由は「館内事業利用者数」説明の通り
	ホームページのアクセス件数	減少の原因として、検索機会が多くなる大規模企画展が今年度はなかったこと、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で展示・行事等で博物館を利用する機会が全体的に減少したこと、ホームページ以外のツールを使って情報取得される機会が増えたことなどが考えられる。
	館外事業利用者数（実行委員会・協議会事業等）	減少の理由は「館内事業利用者数」行事関係とほぼ同じ。なおゲストティーチャー等の利用の増加は、防災関係の講座によるもの。

## 新型コロナウイルス感染拡大への対応

令和元年度末から始まった新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大状況は、令和2年度を通じて続き、翌年度へと持ち越された。これまでに前例のない対応を迫られた年であったことから、当館における対応の記録を、本年報の巻頭にまとめて記すことにする。

### 1. 感染拡大状況と対応の推移について

#### (1) 感染拡大のはじまりから最初の緊急事態宣言まで

令和2年初め頃から不安視されるようになっていた新型コロナウイルス感染症の拡大状況について、2月26日に政府が全国一律に学校休校の要請を発表した。この発表を契機に、未曾有の感染拡大状況と、その対応に関する諸問題が顕在化することになった。危機感が高まる中で、年度のかわった4月7日に7都府県を対象に緊急事態宣言が発出され、16日に宣言の対象は全国に拡大された。最初の緊急事態宣言は、当初は5月6日までとされたが、期間は延長されることになった（福島県は14日まで）。

福島県内では、3月7日に初めて感染者が確認され、31日に県は「福島県新型コロナウイルス感染症対策基本方針」を公表した。4月に入って緊急事態宣言の対象が全国に拡大されたことを受けて、県有施設である当館は臨時休館することになった（4月18日公表）。臨時休館決定の第一報（17日）は、年度初めの学芸員会議の最中に本庁の所管課より入り、慌ただしく休館の準備が進められ、4月21日から臨時休館となった。

これ以前に、当館では感染拡大防止対策として、2月末から①予定していた行事・イベントの中止・延期、②体験学習室の閉鎖、③ハンズオンコーナーの撤去、④職員による解説の停止などを実施していた。また年度当初の定例会議（4月2日）で、館内の感染防止対策の状況を再度点検し、必要な追加や変更を加えることになった。この頃は、感染症対策に関する情報もいまだ少なく、また今後の見通しも得られにくい状況の中で、とにかくできるだけ感染リスクを下げるために、おもに不特定多数の来館者が接触するものの使用・共用等を停止・制限するという措置を強化することになった。たとえば、レストコーナーや冷水器の使用等が制限された。また職員に対して基本的な感染対策や毎日の健康管理などが指示・徹底されたのも、この期間からであった。

#### (2) 臨時休館と再開のための準備

臨時休館の期間は、緊急事態宣言の延長に合わせて一度は延長され、再開館は5月16日となった（臨時休館日数22日 当初予定の休館日を除く）。

臨時休館が始まると、感染予防のため職員の在宅勤務等が開始される一方で、並行して再開するための感染拡大防止対策の準備も始められた。

この時期に、その後の感染拡大防止対策の基本的な枠組みが示されることになる。ひとつは、福島県によって「福島県新型コロナウイルス感染拡大防止対策」が5月15日に公表された。県対策本部の策定するこの対策は、感染拡大の状況の推移に応じて、その後も随時改定がなされ、県全体の対策の基本方針となった。もうひとつは、14日付けで公益財団法人日本博物館協会が公表した「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」である（9月18日改定）。当館にとっては、これが国の認定する業種別のガイドラインに相当する。これ以後、この対策方針とガイドラインに沿って、当館では感染拡大防止対策を進めることになる。

とはいえ、これらが公表されたのは、福島県を含む全国の宣言解除の直前であり、実際の感染症対策の準備は、もっと早くから始められていた。再開館に向けての準備では、とくに感染防止対策をとりながらの開館、常設展だけでなく開幕を延期した春の企画展も同時に開催するという一方で、とくに来館者への対応、展示室内の観覧人数の制限などが重視された。エントランスホールの配置を変更し、来館者に対して最初に案内を行う学芸員コンシェルジュを臨時に設置した。受付や売店付近には急ごしらえで飛沫防止措置等が取られ、各展示室には最大入室人数の目安を設定し、それを越えた場合の人数制限の方法が準備された。

短い期間の中で、これまで前例のない方法となる来館者対応について、学芸員・解説員合同で、ときにはシミュレーション等も織り交ぜながら、再開館への準備は急ピッチで進められた。

#### (3) 再開館後の対応

緊急事態宣言が解除された後、福島県では感染防止対策を、6月1日から7月31日までおよそ3週間を単位に段階的に移行（緩和）させていく方針が示された。

この移行期間に、当館においても再開館の際にはできなかった様々な活動について、感染防止対

策をとりながら再開した。たとえば6月下旬に講義系に限って講堂でのイベントを試行・再開し、7月には相談コーナーを再開した。移行期間の終了後、8月1日からは会期を後ろ倒しに変更した夏の企画展が開幕した。

しかし全国的な感染拡大は容易に終息せず、8月19日に会津若松市で初めて感染者が確認され、その後も全国的に感染拡大の波が繰り返されることになる。福島県では、複数の指標を組み合わせで感染状況を総合的に4段階（ステージⅠ～Ⅳ）で示し、それに応じて感染拡大対策を進める方針となった。

年度後半では、1月8日に1都3県を対象に2度目の緊急事態宣言が出され、13日に1都7府県に拡大、その後も宣言の延長と区域の変更を繰り返しながら、3月21日に解除された。福島県では、緊急事態宣言には至らなかったものの、感染の急拡大した福島市に対して、はじめて地域を限定した対策（12月28日～1月12日）が実施された。また感染ステージがⅡからⅢ相当へ移行した1月13日からは「福島県新型コロナウイルス緊急対策期間」に入った（当初2月7日まで、実際には2月14日まで延長）。

当館では、引き続き感染拡大防止対策をとりながら、臨時休館をすることなく年度末を迎えた。年度後半には、補正予算等によって、展示室内のデジタルサイネージや来館者の体温を自動で測るサーモカメラなど新たな機器類も導入された。

なお、年度内に2回行われた当館の運営協議会において、それぞれ感染防止対策の実施状況について報告した。

## 2. 事業等の変更と感染防止対策の実施状況

新型コロナウイルス感染拡大による様々な変更点や、具体的な感染拡大防止措置・対策については、本年報の以下の項目で更に詳しく触れている。

### (1) おもな来館スペース

- 常設展示室 → I 3 (1) イ
- 企画展示室 → I 3 (2) ア～エ  
(3) ア
- 体験学習室 → I 3 (6) ア・イ
- 相談コーナー → I 5 (4) ア

### (2) 来館者対応

- 展示解説 → I 3 (5) イ・ウ
- 学習プログラム → I 5 (3) イ

### (3) イベント

- 講座・講演会 → I 5 (1)
- けんぱくミュージアムイベント → I 5 (2)

### (4) その他

- 指導者向け研修 → I 5 (3) ウ
- 博物館実習 → I 5 (3) キ
- 未就学児連携事業 → I 5 (4) エ
- 子育て世代対応事業 → I 5 (4) オ
- 博物館友の会活動 → I 5 (6)

## 3. 影響と今後の取り組み

### (1) 影響

新型コロナウイルス感染拡大の影響は、さまざまな方面に及んでおり、現時点で総括することは難しい。昨年度の当館全体への影響としては、ひとまず以下のような点があげられる。

まず来館者に対しては、展示室への入場の人数制限を行ったため、入場待ち時間が発生することがあった。学校団体についても、見学時間等の調整を行った結果、希望の日程や時間を変更してもらわざるを得ない場合が生じた。また、予定していたイベント等の中止や変更、人数の制限などによって自由な参加だった頃に比べて様々な制約が生じた。その他にも、平常時ならば提供できるサービス等も一部停止せざるを得なくなった。

年間を通した利用者（展示観覧者・イベント参加者）の人数は、7頁の表中「館内事業利用者数」の項目に詳しく記したが、過去最低の数字となった。春の行楽シーズンと重なった臨時休館や、その後の移動の制限や外出の自粛などがおもな原因と思われるが、利用者の全体的な減少という影響は最も深刻であった。

事業全般についても、さまざまな用務での出張を中止や延期せざるを得なくなったり、たとえば毎月の学芸員会議を会議室でなく講堂で行う等、これまで行ってきた業務のあり方に変更や支障が少なからず生じた。また平常時にはなかったコロナ対策の業務のために業務量全体が増加することになった。

### (2) 今後の取り組み

感染の終息の見通しが立たないため、感染防止対策の取り組みは、今後もしばらく継続していかねばならない。展示室での解説を補完するデジタルサイネージの導入・活用や、イベントを補う書画カメラの活用、動画配信・オンライン参加のフォーラムなど、コロナ禍を契機に始めた新たな取り組みは今後も継続していくことになるだろう。また博物館ならではの活動として、すでに始まっている新型コロナウイルス感染症に関する資料の収集なども今後続く取り組みになるだろう。

月	日	曜	全国および福島県の動向	当館の対応
4	2	木	7 都府県を対象に緊急事態宣言発出（～5月6日）  会津若松市が鶴ヶ城・麟閣・御薬園を18日～5月6日休止発表 緊急事態宣言、区域変更（全国へ拡大 ～5月6日） 福島県緊急事態措置 「福島県新型コロナウイルス感染症対策基本方針」（以下「県対策基本方針」）一部改正  県立図書館で感染者が発生し臨時休館 県立博物館は21日から臨時休館を公表 「県対策基本方針」一部改正	・定例第1会議 5月中旬までの行事の検討、館内全体の点検を2班で実施する
	3	金		・企画推進班・連携交流班で館内の感染防止の対応検討・実施（～4月7日）
	7	火		・企画推進班より今後の対応について提案
	9	木		・臨時打ち合わせ（館長・副館長・事務長・両班長・副班長）臨時休館を含めた今後の対応について、館内・職員への注意事項の徹底
	10	金		・職員への注意喚起（朝礼）
	12	日		・臨時定例会議 臨時休館を含めた今後の対応
	14	火		・社会教育課より県有施設の閉館に関する照会 ・本庁よりマスク・体温計配布 ・特集展「震災遺産を考える」閉幕 ・毎朝の職員の検温・体調チェック・報告の指示（朝礼） ・社会教育課より「県立学校対応マニュアル」送付
	15	水		
	16	木		
	17	金		・学芸員会議（講堂で実施、以後同じ） 新型コロナウイルス今後の対応について連絡
	18	土		・社会教育課より4月21日から臨時休館の連絡
	20	月		・臨時打ち合わせ（館長・副館長・事務長・両班長）
	21	火		・臨時休館のための準備
	22	水		・臨時休館開始
25	土	・臨時打ち合わせ（館長・副館長・事務長・両班長）		
30	木	・定例第2会議 臨時休館中・再開について 5月末までのイベント・行事について ・展示解説員・資料整理員の在宅勤務開始 ・学芸課・総務課職員の在宅勤務開始		
5	1	金	緊急事態宣言延長（全国～31日） 福島県緊急事態措置延長	・受付売店の配置変更など作業
	4	月		・社会教育課より「新型コロナウイルスの感染拡大防止に係る社会教育施設の対応について（通知）」
	7	木		・臨時休館延長の公表
	8	金		・臨時休館延長 ・定例第1会議
	11	月		・社会教育課より15～17日に開館予定ありとの連絡
	12	火		・展示解説員在宅勤務解除（全員出勤）館長より説明、開館のための準備開始
14	木	緊急事態宣言、区域変更（8都道府県を除き解除 福島県解除） 公益財団法人日本博物館協会「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」公表		
15	金	福島県緊急事態措置解除 「福島県新型コロナウイルス感染拡大防止対策」（以下「県感染防止対策」～31日） 「県有施設の一部利用再開について」（危機管理部）	・社会教育課より「社会教育施設の再開について」（通知） ・開館のための全体説明（全員・講堂） ・学芸員会議は中止	

月	日	曜	全国および福島県の動向	当館の対応
5	16	土		<ul style="list-style-type: none"> <li>・再開館</li> <li>・春の企画展「ふくしまの旅」開幕（4月29日開幕を延期）、展示室人数制限（25名）実施</li> <li>・学芸員の総合案内コンシェルジュ開始</li> <li>・臨時定例会議</li> </ul>
	20	水		
	21	木	緊急事態宣言、区域変更（5都道府県を除き解除）	
	22	金	「県対策基本方針」一部改正	
	24	日		・総合案内コンシェルジュ（翌週から土日のみに変更）
	25	月	緊急事態宣言解除（全国）	
	27	水	「県感染防止対策」改定（6月1日から7月31日 3週間ごと段階的に緩和）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定例第2会議</li> <li>・社会教育課より「社会教育施設の今後の対応について」（通知）</li> </ul>
6	1	月	移行期間①（～6月18日）	
	18	木	「県感染防止対策」改定	
	19	金	移行期間②（～7月9日）	
	24	水		<ul style="list-style-type: none"> <li>・定例第2会議 <ul style="list-style-type: none"> <li>7～9月のイベントについて</li> <li>コロナ対策用物品購入について</li> </ul> </li> <li>・講堂での講義系イベント再開（試行） <ul style="list-style-type: none"> <li>事前申込制・最大40名まで ミニ解説会（講堂）</li> </ul> </li> <li>・春の企画展関連講座（講堂）</li> <li>・春の企画展展示解説会（講堂）</li> <li>・春の企画展「ふくしまの旅」閉幕</li> <li>・総合案内コンシェルジュ終了</li> </ul>
	26	金		
	27	土		
	28	日		
7	1	水		<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談コーナー図書利用など再開（消毒）</li> <li>・定例第1会議 <ul style="list-style-type: none"> <li>企画展の入場制限について</li> <li>7～9月のイベントについて</li> <li>売店アクリル衝立設置・見本配架方法変更（消毒）</li> <li>エントランス映像再開</li> </ul> </li> <li>・第1回運営協議会（講堂） <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ対策の現状と課題について報告</li> </ul> </li> </ul>
	2	木		
	7	火		
	9	木	「県感染防止対策」改定	
	10	金	移行期間③（～7月31日）	
	30	木	「県感染防止対策」改定	
	31	金	移行期間終了	
8	1	土		<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏の企画展「会津のSAMURAI文化」開幕（当初7月19日～9月13日の会期を変更）</li> <li>展示室人数制限（25名）実施、毎週土曜夜間開館延長</li> <li>・定例第1会議 <ul style="list-style-type: none"> <li>マスク着用の声かけに関するガイドライン</li> <li>収集展示委員会を书面開催に</li> </ul> </li> <li>・博物館実習実施（～30日）</li> <li>・定例第2会議 学校団体受付の考え方</li> </ul>
	6	木		
	19	水	会津若松市ではじめて感染者判明	
	25	火		
	26	水		
	27	木	「県感染防止対策」改定（4段階の感染状況を参考に今後対応等）	
9	17	木	「県感染防止対策」改定（11月末までのイベント開催制限の考え方等）	
	18	金	日本博物館協会ガイドライン一部改定	
	20	日	会津まつり規模縮小して開催（～22日）	
	22	火		・夏の企画展「会津のSAMURAI文化」閉幕
10	1	木		<ul style="list-style-type: none"> <li>・定例第1会議 オンライン会議アンケート結果</li> <li>・秋の企画展「発掘された日本列島2020」開幕</li> <li>展示室人数制限（25名）実施</li> <li>・定例第2会議 <ul style="list-style-type: none"> <li>12月以降の講堂・入場者数 定員40名→100名</li> </ul> </li> </ul>
	10	土		
	28	水		



月	日	曜	全国および福島県の動向	当館の対応
11	15 19 28	日 木 土	「県感染防止対策」改定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋の企画展「発掘された日本列島2020」閉幕</li> <li>・体験学習室の限定開室</li> </ul>
12	15 16 23 25 28	火 水 水 金 月	福島県の感染状況ステージⅠからⅡへ 「県感染防止対策」改定 福島市に感染拡大防止協力要請（～1月12日）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館内整備休館日に常設展中テーマ解説パネル（説明増加）を更新</li> <li>・定例第2会議 コロナ対応記録の報告</li> <li>・年末年始休館（～1月4日）</li> </ul>
1	8 12 13 14 16	金 火 水 木 土	1都3県を対象に緊急事態宣言発出（～2月7日） 文部科学省「社会教育施設における新型コロナウイルス感染症対策の徹底について」 「県感染防止対策」改定 福島県の感染状況ステージⅡからⅢ相当へ 「県感染防止対策」改定 緊急事態宣言、区域変更（1都10府県に拡大14日～2月7日） 福島県新型コロナウイルス緊急対策期間（～2月7日）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育総務課より「リスク対応について」（通知）特定都道府県への不要不急の出張の中止または見直し在宅勤務の活用など</li> <li>・社会教育課より通知（メール）感染拡大防止対策を取りながら、引き続き利用者の受け入れを行うことなど指示あり</li> <li>・冬の企画展「震災遺産を考える」開幕 展示室人数制限（25名）実施</li> </ul>
2	4 7 12 15 18 26	木 日 金 月 木 金	「県感染防止対策」改定 緊急事態宣言延長、区域変更（1都9府県～3月7日） 福島県新型コロナウイルス緊急対策期間延長（～2月14日） 「県感染防止対策」改定 福島県新型コロナウイルス重点対策期間（～3月31日） 緊急事態宣言、区域変更（1都3県～3月7日） 「県感染防止対策」改定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回運営協議会（講堂） 新型コロナウイルス感染症対策（令和2年度の取り組み）について報告</li> </ul>
3	4 7 12 18 19 21 23 26 30 31	木 日 金 木 金 日 火 金 火 水	「県感染防止対策」改定 緊急事態宣言延長（～3月21日） 宮城県・山形県等で感染拡大 大阪府・兵庫県・宮城県でまん延防止対策 「県感染防止対策」改定 「県感染防止対策」改定 緊急事態宣言終了（1都3県） 「県感染防止対策」改定 福島県新型コロナウイルス重点対策期間延長（～5月9日）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学芸員会議（講堂） 学校・団体申込様式の一部変更</li> <li>・インカムを使用したテーマ展示解説会の試行</li> <li>・冬の企画展「震災遺産を考える」閉幕</li> <li>・デジタルサイネージ設置 総合展示室3台（3月31日に1台追加）</li> <li>・体験学習室の限定開室（～4月23日）</li> <li>・サーモカメラ納品</li> </ul>

# I 事業の概要

## 1. 資料収集事業

### (1) 収集展示委員会

#### ア. 収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12人を委嘱している。

#### 福島県立博物館収集展示委員会 委員名簿

氏名	役職名	備考
有賀 祥隆	東北大学名誉教授、東京藝術大学客員教授	委員長
村川 友彦	福島県史学会会長、元福島県歴史資料館課長	副委員長
岡田 清一	東北福祉大学大学院嘱託教授	委員
原田 一敏	ふくやま美術館長	委員
柳田 俊雄	東北大学名誉教授、東北大学総合学術博物館協力研究員	委員
玉川 一郎	福島県考古学会会長	委員
大石 雅之	岩手県立博物館研究協力員、東北大学総合学術博物館協力研究員	委員
三上 喜孝	国立歴史民俗博物館教授	委員
北野 博司	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授	委員
加藤 幸治	武蔵野美術大学教養文化・学芸員課程教授	委員
角屋由美子	米沢市上杉博物館 上杉文化研究室室長	委員
奥村 弘	神戸大学大学院人文学研究科教授	委員

### イ. 会議

令和2年度にはコロナ禍のため、例年の形での会議の対面開催を行わず、書面開催とした。

書面開催にあたっては、各委員に議事資料を送付（8月19日付け）した後、各委員のコメントを集約し当館側の回答を送付（10月7日付け）、再度各委員の意見をいただき、議事録として作成（11月6日付け）した。

#### 議題

- ① 今後3年間の展示計画について
- ② 令和3年度・令和4年度開催予定企画展について
- ③ 購入予定資料について
- ④ 震災遺産保全プロジェクトの今後のあり方について

### (2) 受贈・受託

#### ア. 歴史資料

##### (ア) 受贈

教育勅語（謄本）ほか	5件	個人
糶売入札所有物払帳ほか	23件	個人
書画貼交屏風	1件	個人
山谷家資料	1件	個人
酒井家集合写真	1件	個人
横山家資料	1件	個人
白虎隊自刃の図ほか	3件	個人
兵事祝台帳ほか	21件	個人
軍靴ほか	4件	個人
ナショナル製真空管テレビほか	5件	個人
県立喜多方桐桜高等学校		
会津藩士御弓新田山中家資料	1件	個人
木刀（白虎刀）ほか	2件	個人
有限会社タカハシ産業		
タブレット（国鉄）ほか	2件	個人
野矢常方和歌	1件	個人

##### (イ) 受託

口上之覚ほか	4件	個人
東北拾壺ヶ国御固道中記ほか	10件	個人

#### イ. 美術資料

##### (ア) 受贈

刀 銘鈴木加賀守貞則ほか	12件	個人
霧氷蒔絵箱ほか	44件	個人
雪村筆「瀟湘八景図帖」	1件	個人
永峰伊水筆「関羽図」	1件	個人
飛翔蒔絵手箱ほか	5件	個人
加藤遠澤筆「山水布袋図」	1件	個人
貨幣図ほか	4件	個人
遠藤香村筆「百老図」ほか	2件	個人
大堀相馬焼テストピース	1件	個人
ハイテクプラザ会津若松技術支援センター		
灰釉駒文盃ほか	16件	個人
染付牡丹文徳利ほか	6件	個人
木地鞍	1件	個人

##### (イ) 受託

佐竹永海筆「秋月野花図」	1件	個人
木造虚空蔵菩薩坐像	1件	個人

板の沢行政区

脇差 銘（表）水心子正秀（裏）享和三年正月吉日ほか	8件	個人
大堀相馬焼駒絵絵手本	1件	個人
雅物繫駒貼付茶碗ほか	12件	個人

ウ. 民俗資料

(ア) 受 贈

窓鋸ほか	10件	個人
板図ほか	45件	個人
竿秤ほか	8件	個人
手湯	1件	個人
会津地方の生活記録写真・フィルム等	1件	個人
絵ろうそく	1件	個人
民俗芸能記録映像DVD・BD	1件	個人
会津唐人凧ほか	2件	個人
祝言飾り折方雛形ほか	2件	個人
古峯神社御札ほか	7件	個人
拍子木ほか	3件	個人
下駄屋の道具ほか	3件	個人
行火ほか	7件	個人
学校用電気ミシン	1件	

三島町立中学校

会津唐人凧	2件	個人
インスタントカメラ (ポラロイド1000) ほか	3件	個人
みの	1件	個人
民俗映像記録DVD・BD	1件	個人
会津だるま木型ほか	4件	個人
下郷町雑根地区「百万遍」行事の藁細工	1件	下郷町雑根区

(イ) 受 託

上行合人形 (頭)	1件	個人
山口弥一郎旧蔵資料	1件	
		磐梯町磐梯山慧日寺資料館

エ. 考古資料

(ア) 受 贈

土師器	1件	個人
-----	----	----

オ. 自然資料

(ア) 受 贈

メタセコイア (広野町産双葉層群足沢層)	1件	個人
黄鉄鉱	1件	個人

(イ) 受 託

宮古層群産アンモナイト	1件	個人
-------------	----	----

(3) 購 入

ア. 自然資料

現生貝類標本 (コンペイトウガイほか)	44件	
白亜紀後期アンモナイト化石 (Ainoceras kamuy)	1件	

イ. 図書資料

(ア) 一般図書

考古分野12冊、歴史分野24冊、自然分野23冊、保存分野15冊、震災遺産2冊  
計70冊

(イ) 定期刊行物

定期刊行物リスト

(令和3年3月31日現在)

	定期購読雑誌	分野
1	考古学研究	考 古
2	宗教研究	民 俗
3	民具研究	民 俗
4	ナショナルジオグラフィック	共 通
5	第四紀研究 (第58巻6号 (2019) までで 購入中止)	自 然
6	ヒストリア	歴 史
7	考古学雑誌	考 古
8	日本民俗学	民 俗
9	信濃	共 通
10	ミュゼ	共 通
11	史林	共 通
12	史学雑誌	歴 史
13	歴史評論	歴 史
14	地方史研究	歴 史
15	日本史研究	歴 史
16	日本歴史	歴 史
17	歴史学研究	歴 史
18	美術手帳	美 術
19	芸術新潮	美 術
20	国華	美 術
21	古代文化	考 古
22	文化財発掘出土情報	考 古
23	考古学ジャーナル	考 古
24	季刊考古学	考 古
25	日経サイエンス	自 然
26	科学	自 然
27	化学	保存科学
28	海洋	自 然
29	地球	自 然
30	月刊文化財	共 通
31	たくさんのふしぎ	共 通
32	ニュートン	共 通

(4) 制 作

ア. 民俗資料

会津だるま	1件
藁人形	1件

## 2. 保存管理事業

## (1) 資料の収蔵

## ア. 博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数の、  
現在までの累計を示す。件数は概数であり、  
「一括」で受け入れた資料も1件と数える。

収蔵資料数 (令和3年3月31日現在)

分野	件数	備 考
考 古	20,235	土器・石器・金属器ほか
民 俗	14,013	生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか
歴 史	22,474	書籍・文書資料ほか
美 術	6,980	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自 然	44,487	化石・岩石・鉱物ほか
震災遺産	375	被災遺物、文書資料、写真ほか
合 計	108,564	

## 令和2年度収蔵指定文化財一覧

(令和3年3月31日現在)

連番	指定者	指定種別	資料種類	指定番号	資料名	点数	単位	備 考
1	国	重要文化財	絵画	1903	絹本著色阿弥陀二十五菩薩来迎図	1	幅	館蔵
2	国	重要文化財	絵画	6	紙本著色蒲生氏郷像	1	幅	寄託
3	国	重要文化財	工芸品	2065	銅鉢	2	口	指定4口中の2口寄託
4	国	重要文化財	工芸品	2187	椿彫木彩漆笈	1	背	館蔵
5	国	重要文化財	工芸品	981	白銅三鈷杵	1	点	寄託
6	国	重要文化財	工芸品	2055	刺繍阿弥陀名号掛幅	1	幅	寄託
7	国	重要文化財	考古資料	352	会津大塚山古墳出土品	一括		寄託
8	国	重要文化財	考古資料	652	荒屋敷遺跡出土品	一括		寄託
9	福島県	重要文化財	絵画	7	絹本著色仏涅槃図・如意輪観音像・愛染明王像	3	幅	寄託
10	福島県	重要文化財	絵画	10	絹本著色松平楽翁像	1	幅	館蔵
11	福島県	重要文化財	絵画	25	絹本著色達磨図	1	幅	寄託
12	福島県	重要文化財	絵画	26	絹本墨画著色寒山図・絹本墨画著色拾得図	2	幅	寄託
13	福島県	重要文化財	絵画	9	絹本著色十六善神像	1	幅	寄託
14	福島県	重要文化財	絵画	3	紙本著色千葉妙見寺縁起	2	巻	寄託
15	福島県	重要文化財	絵画	13	絹本著色名体不離阿弥陀画像	1	幅	寄託
16	福島県	重要文化財	絵画	27	絹本著色熊野曼陀羅図	1	幅	寄託
17	福島県	重要文化財	絵画	28	絹本著色普賢菩薩像	1	幅	寄託
18	福島県	重要文化財	絵画	2	紙本著色両界種子曼荼羅	2	幅	寄託
19	福島県	重要文化財	絵画	6	絹本著色土津神社霊神画像	1	幅	指定9幅中の1幅寄託
20	福島県	重要文化財	彫刻	4	木造大日如来坐像	1	軀	寄託
21	福島県	重要文化財	彫刻	29	木造地藏菩薩坐像	1	軀	寄託
22	福島県	重要文化財	彫刻	81	銅造聖観音菩薩立像(羽黒山湯上神社)	1	軀	寄託
23	福島県	重要文化財	彫刻	23	銅造聖観音菩薩立像(福聚寺)	1	軀	寄託
24	福島県	重要文化財	工芸品	58	銅鉢	1	口	寄託
25	福島県	重要文化財	工芸品	55	青磁牡丹唐草文大瓶	1	口	寄託
26	福島県	重要文化財	工芸品	18	鉄製釣燈籠	1	箇	寄託
27	福島県	重要文化財	工芸品	40	十一面観音版木	1	枚	寄託
28	福島県	重要文化財	工芸品	42	刺繍阿弥陀三尊来迎掛幅	1	幅	寄託
29	福島県	重要文化財	工芸品	43	法然上人像板木(裏面善導大師像板木)附舟板六字名号板木ほか9枚	1	枚	寄託
30	福島県	重要文化財	工芸品	53	大名家婚礼調度等	47	件	寄託
31	福島県	重要文化財	書跡	8	紙本墨書猪苗代兼載書八代集秀逸	1	巻	寄託

連番	指定者	指定種別	資料種類	指定番号	資料名	点数	単位	備考
32	福島県	重要文化財	書跡	10	相馬家系図	1	巻	寄託
33	福島県	重要文化財	典籍	3	家世実紀	277	冊	館蔵
34	福島県	重要文化財	古文書	10	築田家文書	一括		寄託
35	福島県	重要文化財	考古資料	35	流廃寺跡出土金銀象嵌鉄剣	1	口	寄託
36	福島県	重要文化財	考古資料	1	福島信夫山出土品	一括		館蔵
37	福島県	重要文化財	考古資料	14	金銅製双魚袋金具	2	枚	館蔵
38	福島県	重要文化財	考古資料	21	原山1号墳出土埴輪	一括		館蔵
39	福島県	重要文化財	考古資料	28	常世原田遺跡出土品	一括		館蔵
40	福島県	重要文化財	考古資料	2	田村山古墳出土品	一括		寄託
41	福島県	重要文化財	考古資料	46	相馬・双葉地方の弥生時代石器	一括		館蔵
42	福島県	重要文化財	考古資料	23	松野千光寺経塚出土品	一括		寄託
43	福島県	重要文化財	考古資料	20	五職神経塚出土銅製経筒 附 石製外容器 3口	3	口	寄託
44	福島県	重要文化財	考古資料	33	森北1号墳出土品	一括		寄託
45	福島県	重要文化財	考古資料	48	四穂田古墳出土品	一括		寄託
46	福島県	重要文化財	歴史資料	4	絹本著色恵日寺絵図	1	幅	寄託
47	福島県	重要文化財	歴史資料	5	陸奥国会津城絵図	1	鋪	館蔵
48	福島県	重要文化財	歴史資料	15	絹本著色飯豊山山道絵図	1	巻	寄託
49	福島県	有形民俗文化財		16	上行合人形	368	点	寄託
50	福島県	有形民俗文化財		3	(宇内薬師堂) 古絵馬	3	面	指定6面中の3面寄託
51	福島県	有形民俗文化財		31	旧修験高橋家所蔵修験資料	241	点	寄託
52	福島県	有形民俗文化財		38	紙本著色野馬追図	2	鋪	寄託
53	福島県	天然記念物	化石	63	パレオパラドキシア化石梁川標本	1	体	館蔵

## イ. 図書および映像資料

### (ア) 収蔵図書数

(令和3年3月31日現在)

考古分野：28,187冊 民俗分野：5,063冊  
 歴史分野：10,943冊 美術分野：4,813冊  
 自然分野：17,705冊 保存分野：1,904冊  
 震災遺産：135冊 その他：60,759冊  
 合計：129,509冊

### (イ) 図書利用環境の整備

当館の蔵書数は令和3年3月末日現在、129,000冊を超えている。このうち、相談コーナーに配架した約2,700冊以外は、その大半を図書室で収蔵・管理している。

当館の図書室は2層構造であり、全収容量の約2/3が第1層に、約1/3が第2層に割り振られている。博物館の開館当初は蔵書数が少なかったため、蔵書はすべて第1層に配架し、第2層は各分野・班の書類や写真・図面・文献などの資料を保管する書庫として使用してきた。この体制で30年以上が経過したが、ここ数年、蔵書の増加により第1層の書架が収容率100%を超えて配架できない図書が多数生じ、配架の体制を抜本的に更新する必要に迫られていた。そのため、第3期中期目標に図書利用環境の

整備を盛り込んで配架の体制を更新することとした。これにより、令和元年度は図書室の現状を調査し、蔵書の再配置計画の立案に着手した。令和2年度は再配置計画を完成させ、これに基づいて作業を実施することとした。

全体的な計画として、①これまで第2層で保管してきた物品を撤去する ②第1層の蔵書の一部を第2層に移動する ③第1層に空棚が生じるので、第1層の全蔵書を均等にならして再配架する、という3段階のプロセスを経ることとした。このうち①と②を令和2年度中に実施することとした。

①について、第2層で保管していた物品は、担当する分野と班がそれぞれ責任を持って撤去することとした。具体的には、継続保管する物品は研究室、作業室、収蔵庫、事務室、その他のスペースに移動すること、最終的に不要な物品は廃棄することとした。作業期間は令和2年7月～令和3年1月とし、この間、各分野・班が断続的に作業に当たり、期間内に撤去を完了した。

②について、第2層へ移動する蔵書は40,000冊以上ある逐次刊行物を対象とした。

この作業は、重い書籍を階段を使って第1層から第2層へ人力で運び上げ、再配架する作業であり、全工程の中で最も困難が予想された。令和3年2月3日、2月10日の2日間を作業日に当て、学芸員総出で終日作業に当たった。きわめて重労働であったが、短期間で集中的に作業を行い、予定通り完了した。

③については、令和3年3月10日、試行的に一部の図書移動を実施した。これにより作業の要領が確認できたので、令和3年度以降、継続的に実施して行く予定である。

(ウ) 収蔵映像資料数 (令和3年3月31日現在)  
収蔵映像資料総数：1,374点

## (2) 登録・整理

### ア. 資料管理システムの運用

平成25年度中に、それまでのサーバクライアント方式による資料管理システムに換えて、新たにASP方式の博物館資料管理専用システムである早稲田システム開発株式会社製 I.B. Museum SaaSを導入した。現在、県教育委員会のFACEを介してインターネットに接続した端末パソコンよりこの資料管理システムを使用中である。

このシステムでは多数のデータの一括登録や一括修正が可能となり、これらの業務にかかる時間と労力が大幅に軽減された。また、旧システムと比較して経年的なランニングコストが削減された。更に、インターネット上での資料情報の外部公開が可能となった。導入から7年が経過して、資料管理システム本来の目的である資料登録や情報の外部公開が

順調に進められるようになり、システムの運用が軌道に乗った。

また、有償の改修が必要だった一部の登録項目の再構成については、令和元年度に予算が認められたため改修を実施し、以前より入力の手力が大きく軽減された。併せて、これまでローカルシステムで行ってきた帳票・ラベル類の印刷フォームがシステム上に構築できるようになったため、これらの印刷作業にかかる労力が大幅に軽減された。これに伴い、写真の登録についてもローカルシステムへの登録が不要となった。

### イ. 資料の登録・資料情報の外部公開

整理が終了した資料のデータを資料管理システムに入力し、資料の登録を行った。表中の数値は登録済み資料の件数を示す。また、システムの資料情報公開機能を使用してインターネット上で外部に公開した情報の件数も併せて示す。

令和元年度より、博物館中期目標は第3期の1年目となった。この中では資料情報の外部公開件数のみが数値目標として設定されたが、本年度の公開件数は目標値に届かなかった。これまでにデータ整備が比較的簡単な大規模コレクションの公開がかなり進み、残りの資料については公開前のデータ整備に時間と手間がかかることが主な原因と考えられる。

また、情報公開機能の拡充の一環として、第3期中期目標ではテーマ型データベースを構築して公開することが盛り込まれた。中期目標期間内での公開を目指してデータ整備を開始している。

## 登録資料数・資料情報の外部公開数

(令和3年3月31日現在)

資料類別	登録資料 (令和2年度)	登録資料 (累計)	資料情報の外部公開 (令和2年度)	資料情報の外部公開 (累計)
考古資料類	0	12,130	0	3,532
民俗資料類	348	15,208	348	5,580
歴史資料類	130	45,851	2,029	14,717
美術工芸品類	1	6,231	0	36
自然標本類	889	26,533	868	13,131
合計	1,368	105,953	3,245	36,996

## ウ. ボランティア

博物館資料の整理のため、次の通り資料整理ボランティアを受け入れ、資料の整理を行った。新たに考古資料整理ボランティアが活動を開始した。新型コロナウイルスの影響もあり、活動開始が大きく遅れたため、活動自体を縮小せざるを得なかった。

## (ア) 自然資料整理

3名の登録ボランティアとともに、作業内容や日程の調整を行い、協働により作業を進めている。なお活動日数については4日であった。

参加者は桑原功氏 化石標本整理、星総一郎氏 化石標本整理、竹谷陽二郎氏 岩石・化石標本整理に協力いただいた。

## (イ) 古文書整理

登録ボランティアのうち7名が参加し、坂内利子家の整理作業（表題・年代・法量などのデータ採取）を行った。活動は9月

から月1回のペースで行い、令和3年3月までに6日活動した。参加者は大場美弥子、大堀義子、小関栄助、小檜山裕二、佐藤敏子、鈴木清二、星弘明の諸氏。

## (ウ) 民俗資料整理

民俗資料整理ボランティアとして佐々木長生氏を登録、月例の収蔵庫資料整理日の作業等に参加するなど、資料の整理や情報提供の協力を得ている。

## (エ) 考古資料整理

考古資料整理ボランティアとして藤原妃敏氏を今年度より登録、12月から活動を開始し、毎週の資料整理作業に参加いただいた。主に灰塚山古墳出土品の整理を進めた。

## (3) 貸出

## ア. 博物館資料

## 貸出資料一覧

資料名	貸出先	貸出期間	展覧会名
竪矧広板革綴衝角付冑 地板 6点 竪矧広板革綴衝角付冑 衝角板 1点 竪矧広板革綴衝角付冑 伏板 6点 竪矧広板革綴衝角付冑 豎眉庇 2点 鉄製胸当 1点 小札（鋸・頬当） 8点 金銅製双魚佩 1点	群馬県立歴史博物館	令和2年6月20日 ～10月10日	企画展「綿貫観音山古墳のすべて」
単斜輝石斜方輝石安山岩 1点	磐梯山噴火記念館	令和2年7月7日 ～11月30日	企画展「安達太良火山」
図書一・三・四・六・九 5点 長沼弥七郎盛秀判物 1点	奥会津博物館	令和2年9月1日 ～11月30日	特別企画展「中世の奥会津～南山地方をめぐる武士社会の変遷～」
泉崎村原山1号墳出土土埴輪複製 1点	福島県文化財センター 白河館	令和2年9月10日 ～12月26日	企画展「ようこそ！古墳時代へー阿武隈川上流域に暮らした人々ー」
刺繍阿弥陀名号掛幅（当館受託資料） 1幅 刺繍阿弥陀三尊来迎掛幅（当館受託資料） 1幅 阿弥陀三尊来迎板木（当館受託資料） 1点 五輪供養塔板木（当館受託資料） 1点 百万遍念仏の数珠箱・数珠・鉦（当館受託資料） 1組	南相馬市博物館	令和2年9月15日 ～12月15日	企画展「冥界へようこそ」
メタセコイア（福島県双葉郡広野町産） 1点	国立科学博物館	令和3年1月18日 ～4月9日	企画展「メタセコイアー生きている化石は語るー」
千円札3号券 1点	野口英世記念館	令和3年3月18日 ～令和4年3月31日	東北DC特別展「千円札の顔 野口英世の宝物」
十二天図（慧日寺旧蔵）旧軸木 慶長6年銘 1点 十二天図（慧日寺旧蔵）旧軸木 延宝3年銘 1点	磐梯町磐梯山慧日寺資料館	令和3年4月6日 ～令和4年12月3日	常設展

## イ. 写真資料

総数：111件187点

考古：17件 21点 民俗：3件 8点

歴史：53件 94点 美術：30件31点

自然：5件 7点 震災遺産：3件26点

## (イ) 生物被害防除

6月に1回、新収蔵資料などを対象にエキヒュームSを用いた文化財燻蒸を実施し、1,147件燻蒸処理した。6月から8月にかけて1回、低酸素濃度殺虫処理を2件実施した。

## (4) 保存管理

収蔵資料を適切に保存するため、収蔵庫および展示室など主要箇所での保存環境の定期調査、新規収蔵資料の生物被害防除を実施している。

### ア. 保存管理

#### (ア) 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫（一時、第1～第6収蔵庫）、エントランスホール、体験学習室、講堂、事務室、会議室、研究室、図書室、空調機械室など主要なスペースの保存環境を調査した。調査項目は、昆虫、空中浮遊菌、付着菌、空中浮遊塵埃数、空気環境、温度、湿度、照度、紫外線強度である。調査期間は、2月10日～3月3日にかけて調査を実施した。新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、委託事業者とのスケジュール調整や接触機会の軽減などから通常年2回の調査を当年度は1回とし、計測地点や環境測定マーカー類の設置箇所や確認方法を見直し、効率的な調査となるよう努めた。

また通常時の環境モニタリングをワイヤレスデータロガーによる計測方法に切り替えていくために、ネットワークへの接続など条件整備について本庁主務課と協議を進めた。



### 3. 展示事業

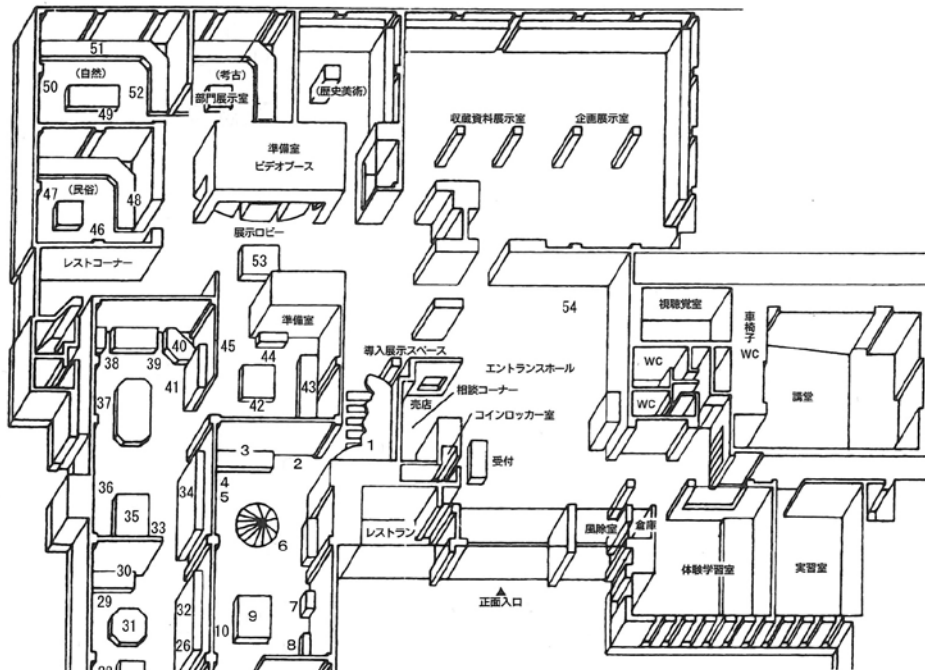
#### (1) 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々の暮らしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間

の6つのテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。平成21年度から、常設展示室内においてテーマ展・ポイント展を実施している。

#### ア. 展示構成

福島県立博物館の展示構成



#### 【総合展示室】

- 1 清戸始横穴墓壁画
- 原始
- 2 福島最古の人間
- 3 水河時代の生活
- 4 最終氷期後半の環境
- 5 環境の変化と生業
- 6 縄文のムラ
- 7 縄文人
- 8 信仰と墓地
- 9 稲作の開始
- 10 再葬の墓
- 古代
- 11 会津大塚山古墳
- 12 原山1号墳の主
- 13 群集する古墳
- 14 ムラの暮らし
- 15 陸奥国の成立
- 16 公民の生活
- 17 在地の仏教
- 中世
- 18 阿津賀志山の合戦
- 19 神仏習合の世界
- 20 好嶋庄の村むら
- 21 南党と北党
- 22 国人一揆
- 23 戦国の群雄

#### ●近世

- 24 奥羽仕置と諸藩の成立
- 25 学問と文化
- 26 庶民の信仰
- 27 会津農書の世界
- 28 町のにぎわい
- 29 山国の神と人
- 30 産業の発達
- 31 海のなりわい
- 32 ゆれうごく封建社会
- 近・現代
- 33 戊辰戦争
- 34 自由民権運動
- 35 福島県の成立
- 36 安積開拓事業
- 37 庶民の生活
- 38 日本の花形産業
- 39 15年戦争下の生活
- 40 戦後の生活
- 41 変わりゆく社会
- 自然と人間
- 42 福島の盆地と平野
- 43 福島の鉱山
- 44 福島の火山と湖
- 45 福島の河川

#### 【部門展示室】

- ◆民俗（雪国・会津の暮らしと祭り）
- 46 雪と山国の暮らし
- 47 植物と仕事の文化
- 48 雪国の折りと祭り
- ◆自然（県土の形成）
- 49 基盤形成の時代
- 50 海の時代
- 51 山脈形成の時代
- 52 段丘形成の時代
- ◆考古（よみがえる会津大塚山古墳）
- ◆歴史・美術（福島の美術）
- ロビー・エントランスホール
- 53 白水阿弥陀堂模型
- 54 二本松提灯祭竹田町太鼓台

## イ. 常設展示室内の新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症の対策として、展示室内にも様々な制限をせざるを得なくなった。まず常設展示室での密集した状態を避けるために室内の滞在人数100名を上限とし、特に団体等の予約を受け付ける際の日安とした。ビデオブース及び総合展示室（近現代）、部門展示室（民俗・自然）にはタッチパネルによりコンテンツを選択して動画を視聴する映像コーナーがあるが、接触感染防止のためこれらは全て使用中止にした。展示ケースの資料観察用に設置してある顕微鏡も同様に使用不可とした。またボタンを押すことで稼働または発光させる模型を総合展示室内に3つ設置しているが、そのうち「好嶋庄の景観」（中世）と「磐梯山の地形模型」（自然と人間）は足踏み式ボタンに切り替え、「安積疎水路」（近現代）はデジタルサイネージを利用して、電光によって用水の開削路が広がるようすを動画で放映した。

さらに展示解説員や学芸員による展示室内での口頭による解説や質問への応答を原則として中止した。質問がある場合には、専用の用紙に連絡先とともに記入してもらい、後日学芸員から回答する対応で代替した。また展示室内でのサービス低下を補うために、展示への理解度向上に向けた対応を新たに進めた。常設展（主に総合展示室）の解説文は、原始や古代などの「大テーマ」と、コーナーごとの「中テーマ」、「資料キャプション」の大きく3つの階層からなっているが、展示解説員の人員不足を主な理由として、これまでも文字による解説の不足が指摘されてきた。そこで、解説文のうち角柱型スタンドに表示されていた200字前後の中テーマ解説文を充実化させるため、新たに400字程度に書き直し、計48点のパネルを作成して壁面等に掲示した。また展示解説員が日頃よく受ける質問を厳選し、Q & Aの形式で分かりやすく見てもらえるように、デジタルサイネージを利用したスライドショーを作成して放映した。

さらに、こうした展示以外の場所についても、個々に感染対策を進めた。常設展示室の出入口付近に手指消毒用アルコールを設置したほか、飲料用の冷水器は使用中止とし、個室トイレには消毒用の便座クリーナーを設置した。また館内各所に置かれている休憩用の椅子の数を減らし、個々の間隔を空けて座れるように設置し直した。また総合展示室内の

休憩所は密閉性が高いため使用中止とした。



足踏み式ボタンによる「磐梯山の地形模型」



新設した中テーマ解説パネル

## ウ. テーマ展

常設展示室内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として全7回開催した。なお、4月21日（火）～5月15日（金）の臨時休館にともない、会期を当初予定から変更した展示もある。

- ①「山口弥一郎のみた東北」  
（部門：歴史・美術展示室）  
前年度～4月12日（日）
- ②「けんぱくの宝2020 旅によせて」  
（部門：歴史・美術展示室）  
4月18日（土）～7月5日（日）  
※4月21日（火）～5月15日（金）は臨時休館
- ③「美しき刃たちー会津編」  
（部門：歴史・美術展示室）  
7月18日（土）～9月23日（水）
- ④「祈りのふくしま4」  
（部門：歴史・美術展示室）  
10月3日（土）～11月8日（日）
- ⑤「ふくしまの焼きもの1」  
（部門：歴史・美術展示室）

11月14日（土）～令和3年1月11日（日）

⑥「山川浩と健次郎」

（部門：歴史・美術展示室）

令和3年1月16日（土）～2月28日（日）

⑦「会津の修験—西会津町旧福寿院の宗教世界」

（部門：歴史・美術展示室）

令和3年3月6日（土）～4月18日（日）



ふくしまの焼きもの1



会津の修験

エ. ポイント展

常設展示室内及びエントランスホールにおいて、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として全21回開催した。

①「郷土玩具で旅するニッポン」

（部門：民俗展示室）

4月17日（金）～6月24日（水）

※4月21日（火）～5月15日（金）は臨時休館

②「宇都宮・会津仕置430周年記念①道中絵図にみる秀吉の通った道」

（総合：近世展示室）

5月16日（土）～6月28日（日）

③「描かれた民俗—暮らしの記録と地域の行事」

（部門：民俗展示室）

6月26日（金）～9月9日（水）

④「宇都宮・会津仕置430周年記念②秀吉がやってきた！」

（総合：近世展示室）

7月1日（水）～8月21日（金）

⑤「みんなの震災遺産」

（展示ロビー）

7月1日（水）～9月20日（日）

⑥「東京オリンピックとその時代」

（総合：近現代展示室）

7月4日（土）～9月11日（金）

⑦「会津藩校日新館の教科書」

（総合：近世展示室）

7月4日（金）～9月27日（日）

⑧「新知見！墓料遺跡」

（総合：原始展示室）

7月18日（土）～9月27日（日）

⑨「友の会化石鉱物探検隊ミニ成果展」

（エントランスホール）

8月1日（土）～9月11日（金）

⑩「会津藩家老田中土佐の短刀」

（総合：近現代展示室）

8月22日（土）～9月27日（日）

⑪「宇都宮・会津仕置430周年記念③なるほど！太閤検地」

（総合：近世展示室）

8月22日（土）～10月25日（日）

⑫「わら細工としめ飾り」

（部門：民俗展示室）

9月11日（金）～11月25日（水）

⑬「斎藤一と会津」

（総合：近現代展示室）

9月12日（土）～9月27日（日）

⑭「磐梯山ジオパーク展」

（エントランスホール）

9月26日（土）～10月30日（金）

⑮「道具とくらしのうつりかわり—食事を彩る道具たち」

（部門：民俗展示室）

11月27日（金）～令和3年2月23日（火・祝）

⑯「古代あいつの仏教文化—湯川村堂後遺跡」

（総合：古代展示室）

令和3年2月12日（土）～2月23日（火・祝）

⑰「チャレンジ！今月の古文書 正月編」

（展示ロビー）

令和3年1月5日（火）～1月31日（日）

⑱「サンゴ化石の世界」

（部門：自然展示室）

令和3年1月30日（土）～3月5日（金）

⑲「チャレンジ！今月の古文書 如月編」

（展示ロビー）

- 令和3年2月2日（火）～2月28日（日）  
 ⑳ 「雛祭りとお人形」  
 （部門：民俗展示室）  
 令和3年2月26日（金）～4月14日（水）  
 ㉑ 「チャレンジ！今月の古文書 弥生編」  
 （展示ロビー）  
 令和3年3月2日（火）～4月4日（日）

## （2）企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、期間を限定して開催している。令和2年度は、4本の企画展示を開催した。

### ア. 春の企画展「ふくしまの旅—懐かしの景色を訪ねて—」

#### （ア）会期

令和2年5月16日（土）～6月28日（日）  
 開館日数：38日間

#### （イ）会場 企画展示室

（ウ）入館者数 1,331人

#### （エ）担当学芸員

歴史・民俗分野：栗原祐斗・阿部綾子・高橋充・筑波匡介・江川トヨ子・内山大介・山口拡

#### （オ）趣旨

福島県立博物館は、観光地・会津若松に立地しており、春や秋のシーズンには、多くの観光客が訪れる。観光業は会津若松に限らず福島県全体にとって重要な産業に成長しているが、本県の観光がいかなる歴史を辿ってきたかは知られていないことも多い。そこで本展では、近・現代の旅行と観光をテーマに、鳥瞰図や絵はがき、観光パンフレット、お土産品、鉄道関係の資料などを、時代や地域の特徴に注目して展示し、観光地としての福島県のあゆみを紹介することを目指した。

#### （カ）展示構成

- 序章 歩いて出発、のんびりと～徒歩の旅～  
 第1章 速いぞ列車、もうすぐだ～鉄道の旅～  
 第2章 ふくしま到着、どこ回ろう～温泉・観光地の歴史を辿る～  
 終章 魅力いっぱい、また来よう～ふくしま旅行の今～

出品点数：

東北汽車旅行振分双六、渋沢栄一書状、機

関車ナンバープレート、駅名標、電車座席455系用、旅館名「なかむらや」表札、摺上橋真景、花水館宿札、東山温泉協会パンフレット、向瀧法被、フラガール衣装、ペナント、赤べこ木型、木刀など325件

#### （キ）関連事業

##### ○展示解説会

日時：6月28日（日）

11:00～11:30、13:30～14:00

場所：講堂

講師：栗原祐斗（当館学芸員）

以下3件のイベントは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止となった。

##### ○記念講演会「鉄道と観光の近現代史」

日時：5月17日（日）13:30～15:00

場所：講堂

講師：老川慶喜氏（立教大学名誉教授）

##### ○ワークショップ「フィルムカメラを知る・撮る・楽しむ」

日時：5月10日（日）10:00～15:30

場所：実習室・鶴ヶ城公園

講師：写真とカメラ サイトウ

##### ○バスツアー「裏磐梯に託した思い～遠藤現夢のゆめ～」

日時：6月7日（日）9:00～16:00

場所：中瀬沼・五色沼近辺

講師：佐藤公氏（磐梯山噴火記念館館長）

竹谷陽二郎氏（磐梯山ジオパーク協議会運営委員長）

#### （ク）成果と課題

近・現代の福島県旅行を主テーマとする展示は、県内博物館の展示を振り返ってみてもあまり例がなく、当館としても初の試みであった。そのため、資料の所在情報が乏しく、手探りの準備となった。例えば、かつては観光地土産の定番であった「ペナント」や「観光提灯」を出品したいと考えても、所蔵先がわからない場合も多かった。展示に向けた調査では、博物館・資料館のほか、県内温泉地の旅館・ホテル、鉄道会社、民芸品店、お土産品の製作工房、駅弁会社などにご協力頂き、人伝に資料の情報が集まっていった。地域に偏りは出てしまったが、福島県内の時代ごとの旅行・観光の特徴と関係資料を展示と図録にまとめることができたのは、本展の成果といえる。課題としては、浜通り方面が手薄になってしまったことが挙げられ、この点については観覧者アンケートでもご指摘を頂いた。



企画展ポスター



展示室風景



展示室内の記念撮影コーナー

今後の課題としたい。

なお、本展はもともと4月29日に開幕し、春の行楽に訪れる方々の来場を見込んで、様々なイベントや仕掛けを用意していた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、4月21日より当館が臨時休館し、開幕は5月16日まで延期した。企画展の関連イベントは、最終日の展示解説会以外すべて中止となった。また展示室内外には、記念撮影用のスポットも用意していたが、感染防止の観点から内容を変えて実施したことも付記しておきたい。

### イ. 夏の企画展「会津のSAMURAI文化―蒲生氏郷と藩士たちの文武―」

#### (ア) 会期

令和2年8月1日(土)～9月22日(火・祝) 開館日数：47日間

#### (イ) 会場 企画展示室

#### (ウ) 主催 福島県立博物館、福島民報社

特別協力 ふくやま美術館

後援 会津若松市、会津若松市教育委員会

協力 一般財団法人会津若松観光ビューロー、会津若松市ナイトタイムエコノミー推進協議会

#### (エ) 入館者数 6,780人

#### (オ) 担当学芸員

歴史分野：高橋充、阿部綾子 美術分野：川延安直、小林めぐみ 自然分野：相田優 考古分野：山本俊、田中敏

#### (カ) 趣旨

会津の歴史といえば、まず戊辰戦争が想起されるが、戦争の舞台にもなった若松城や城下町の基礎は、江戸時代初期の蒲生氏郷の治世に形づくられ、保科正之を祖とする会津松平家の時代に藩政の整備や経済の発展が進んだ。この企画展では、ふくやま美術館の格別の御理解・御協力のもと、特別展示として、氏郷が所持したと伝える国宝「短刀 銘国光(名物 会津新藤五)」を、ゆかりの地で初公開させていただく。さらに当館の収蔵品をはじめ、会津に伝えられた藩士や城・武家屋敷に関する資料を展示公開し、会津の武家文化の伝統をたどる。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の中で、これまでの当たり前の暮らしのありがたさが身に染みて感じられるようになっている。今回の展示の中では、戦時ではな

い日常的な暮らしや文化的な営み、また有名な大名・藩主ばかりでなく多くの無名の武士たちにも目を向ける。このような状況だからこそ、あらためて共感していただけたところもあるのではないだろうか。

福島や会津に住む皆さまに、地元ゆかりの資料を、あらためて一点一点じっくりと観覧していただき、会津の歴史や文化の奥深さを感じていただける企画展を目指した。

#### (キ) 展示構成

プロローグ 430年前の会津一道中絵図にみる秀吉の通った道一

1. 特別展示「会津新藤五」と蒲生氏郷  
「短刀 銘国光(名物会津新藤五)」  
(国宝 ふくやま美術館蔵) ほか
2. 収蔵品でたどる会津の文と武  
「保科正之画像」(県重文 土津神社蔵・当館寄託) ほか
3. 若松城と武家屋敷  
若松城郭内武家屋敷出土資料(会津若松市教育委員会蔵) ほか  
展示資料 歴史・美術資料 68件  
(展示替え資料を含む)  
自然・考古資料 86件

#### (ク) 関連事業

○美術講座「刀匠が触っているのを見てみる 刀剣講座」

日時：8月16日(日) 13:30～14:30

講師：藤安将平氏(将平鍛刀場刀匠)

会場：講堂 要申込・定員40名

○野外講座「鶴ヶ城の石垣を見る、歩く」

日時：9月5日(土) 8:30～10:00

講師：近藤真佐夫氏(会津若松市教育委員会)、相田優(当館学芸員)

場所：鶴ヶ城公園

※福島県立博物館入口集合

要申込・定員20名 参加費50円

○見どころ解説会

日時：8月1日(土)・8日(土)・13日(木)・

14日(金)・15日(土)・22日(土)

9月5日(土)・12日(土)・19日(土)

各日とも17:00～17:30

(受付開始16:30)

講師：高橋充(当館学芸員)

場所：講堂 定員20名

※開催日は、企画展のみ17:00～19:00ま

で開館時間を延長。解説会終了後に自由観覧。

○常設展示室の関連展示

テーマ展「美しき刃たち－会津編」(7月

18日～9月23日)

ポイント展「宇都宮・会津仕置430周年記念② 秀吉がやってきた！」(7月1日～8月21日)

「会津藩校日新館の教科書」(7月4日～9月27日)

「会津藩家老田中土佐の短刀」(8月22日～9月27日)

「宇都宮・会津仕置430周年記念③ なるほど！太閤検地」(8月22日～10月25日)

「斎藤一と会津」(9月12日～9月27日)

○館外の連携

若松城天守閣郷土博物館 特集展示「刀」(7月18日～9月8日)

会津若松市ナイトタイムエコノミー(七日町通り) 8月8日・21日

動画制作・配信「KKCなんばん先生シリーズ」御薬園編・茶室麟閣編・鶴ヶ城公園弓道場編

#### (ケ) 成果と課題

新型コロナウイルス感染症の拡大により、当初の計画を大幅に変更し、全体的に規模を縮小して実施することになった。当初は7月18日～9月13日としていた会期を変更し、観覧料も変更した。また準備が間に合わなかったため図録は作成せず、ふくやま美術館発行の刀剣図録を販売した。展示室内での混雑を避けるため、およそ25名を目安に入場を制限し、室内の人数の把握の方法や展示物のレイアウトの工夫、夜間開館延長など、コロナ禍における企画展の様々な感染症対策の試行を行った。入場者数は、規模縮小後に想定した人数に近いものとなり、大きな混乱はなく会期を終えることができた。

展示内容については、当初想定していた東京オリンピック・パラリンピックによる外国人を含む観光客の来館が期待できなくなったことから、県内および地元の方々の来館をイメージして内容を組み立て直した。会津の武家文化に関する資料を全国各地から集めて展示することにも多くのリスクが伴うことから、展示資料の借用先を絞り込み、館蔵・寄託資料の割合を大幅に増やすことになった。歴史・美術・考古・自然など諸分野合同という当初からの方針は継続し、とくに身近な資料を見直し、再評価することで展示に活かすことを重視した。

関連行事や連携展示についても、感染症対策を最優先させた結果、当初の計画に比

会津の文化  
SAMURAI  
2020  
8/1 SAT - 9/22 TUE

前期：8/1～8/30  
後期：9/1～9/22  
会場：福島県立博物館 企画展示室

【主催】福島県立博物館・福島民報社 【特別協力】ふくやま美術館  
【協賛】会津若松市・会津若松市教育委員会  
【協力】一般財団法人 会津若松観光ビューロー・会津若松市ナイトタイムエコノミー推進協議会

【休館日】毎週月曜日(8月10日・9月21日は開館)  
【開館時間】9:30～17:00(入場は16:30まで)  
※毎週土曜日(9月12日)は9:30～14:00  
※企画展に限り19:00まで観覧時間を延長します(入場は18:00まで)。  
【観覧料】一般・大学生 700円(20名以上の団体560円) / 高校生以下 無料  
※企画展に限り観覧料を徴収いたします。  
※9月21日(敬老の日)はほとんども無料で観覧いたします。  
【年間パスポート】1,500円  
※ご購入日より1年間当館の常設展・企画展を何回でもご覧いただけます(企画展は福島県立博物館主催のみ有効)。

蒲生氏郷と藩士たちの文武  
福島県立博物館 令和2年度夏の企画展

会津のSAMURAI文化チラシ表



国宝の展示状況



入場制限



野外講座



茶室隣閣での撮影

して、十分に展開できない部分は多かった。その中で、「KKCなんばん先生シリーズ」御薬園編・茶室隣閣編・鶴ヶ城公園弓道場編などの動画を制作・配信したり、若松城天守閣郷土博物館の特集展示や会津まつり等市内の行事とゆるやかに連携した事業を展開できたことは成果であった。

なお、本展の成果や課題の詳細については、当館紀要に研究ノート「企画展『会津のSAMURAI文化－蒲生氏郷と藩士たちの文武－』実施報告」及び「企画展『会津のSAMURAI文化－蒲生氏郷と藩士たちの文武－』の成果」として公表した。

ウ. 秋の企画展「発掘された日本列島」

(ア) 会 期

令和2年10月10日(土)～11月15日(日)

開館日数：32日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 主 催 文化庁 福島県立博物館  
福島民報社 福島民友新聞社  
全国新聞社事業協議会

(エ) 入館者数 6,156人

(オ) 担当学芸員 考古分野：高橋満

(カ) 趣 旨

文化庁では、国民が埋蔵文化財に親しみ、その保護の重要性に関する理解を深める機会として、全国で毎年9,000件近く行われる

発掘調査のうち近年特に注目された成果を広く公開する「発掘された日本列島」展を全国数か所の公立博物館等を巡回して例年開催している。当館では17年ぶりの開催となった。

文化庁による中核展示の「新発見考古速報（速報展）」では近年、発掘調査成果が注目された縄文時代から近世の7遺跡の出土品約150点を公開した。このうち古代では群馬県高崎市の史跡多胡郡正倉跡に関連して「多胡碑」レプリカが出品されたが、高崎市のご厚意により「山上碑」・「金井沢碑」（ともにレプリカ）の出品があり「上野三碑」が勢ぞろいすることになり、関連した講演会を実施した。さらに特集1「日本の自然が育んだ多様な地域文化」として、多様な気候や自然環境と共生し、育まれた地域の文化によって形作られた我が国の多様な歴史や文化を、旧石器時代から古墳時代にかけての全国的に著名な46遺跡の調査成果を約250点の出土品で紹介した。特集2「記念物100年—我が町が誇る史跡・名勝・天然記念物—」では地方自治体が記念物をテーマに実施している様々な取り組み16件をパネル等で紹介し、記念物のもつ魅力や可能性を発信した。

また列島展開催各館が独自に開催する地域展示として近年の発掘調査で多様な副葬品や古代の王者の人骨が発見された喜多方市灰塚山古墳（古墳時代中期）の出土品を県内初公開。このほか東北地方で最も古い埴輪列が確認された須賀川市団子山古墳（古墳時代前期）、古墳時代後期では東北地方最大級の大きさとなる可能性が指摘された、いわき市塚前古墳などの調査成果を公開し、県内各地域で明らかになった古墳時代研究の最前線を速報した。

#### (キ) 展示構成

- 1 新発見考古速報（速報展）
- 2 特集1「日本の自然が育んだ多様な地域文化」
- 3 特集2「記念物100年—我が町が誇る史跡・名勝・天然記念物—」
- 4 地域展「ふくしま古墳発掘フロンティア」

#### (ク) 関連事業

- 講演1 「「発掘された日本列島2020」展 特集1の見どころ」

日時：10月10日（土）13時30分～15時

場所：講堂

講師：芝康次郎氏（文化庁）

- 講演2 「櫛からたどる古墳時代の日本列島と東アジア —会津大塚山古墳・灰塚山古墳の櫛が語ること—」

日時：10月31日（土）13時30分～15時

場所：講堂

講師：木沢直子氏（（公財）元興寺文化財研究所）

- 講演3 「ユネスコ世界の記憶「上野三碑」を読み解く」上野三碑普及推進会議講師派遣事業

日時：11月15日（土）13時30分～15時

場所：講堂

講師：角田真也氏（高崎市教育委員会）

- みどころ解説会

日時：10月24日（土）13時30分～14時30分

11月3日（火・祝）10時30分～11時30分、13時30分～14時30分

場所：講堂

講師：高橋満・平澤慎（当館学芸員）

#### (ケ) 成果と課題

全国の発掘調査成果に触れることができる展示であり、当館での開催が17年ぶりであったこともあり、会期は短かったが多くの来場者にめぐまれた。1日の平均観覧者数は192.3人であり、考古学を主題とする企画展ではここ20年で最も多い観覧者数となった。また図録の売り上げも好調で、出版元から仕入れた部数をすべて売り切った。観覧者における購入比率は5.7%となり、図録販売率も高かった。

好調な観客動員の要因として、広報戦略があげられる。文化庁で作成した全国版ポスターとリーフが全国に掲示されたことに加え、当館独自のポスター・リーフを作成して配付する2段階の広報により長期間の広報が行えた。また展覧会の協力機関の一つである全国埋蔵文化財法人連絡協議会に加盟している県をはじめ福島市・郡山市・いわき市の発掘調査組織を通じて職員や発掘調査作業員等への広報も実施した。

列島展は地元新聞社とともに主催する形式であるが、今回は福島民報社と福島民友新聞社の両社が主催に入ることとなった。これは、県内で開催される各種催事において異例のことであり、もちろん当館でも初めてのことである。この結果、県内の新聞購読世帯の大部分に対し新聞を通じた広報が可能となり、その効果は大きかったと推察される。両紙面には5段1/2のカラー刷りの広告のほかに前触れ記事、さらに当館学



芸員による寄稿のほか2,020人目と5,000人目の来場記念セレモニーなど会期を通じて記事を掲載していただいた。また新たな広報戦略として、新聞社を通じて県内の新聞販売店約230店舗へのポスター掲示を依頼した。

このほか、開催を周知する手立てとして、文化庁調査官による列島展紹介映像を開幕前に当館エントランスホールで放映（開幕後は全国の自治体による史跡名勝天然記念物紹介映像に切り替え）や、会期前の図録販売開始、早目の広報看板設置など事前の宣伝効果や会場の雰囲気をも高める手立てを実施した。

アンケート結果による来場者動向では、居住地が会津若松市を含む県内からの割合が約80%と高率であった。これは前年同期に開催した同じく考古系の企画展「あにまらずANIMAL×ZOO どうぶつの考古学」の約65%をはるかに上回っており、コロナ禍における県外への外出意欲の低下傾向を示しているものとみられる。来場者の年齢層は50代以上が約75%を占め、高齢者層の関心が高かった。これも子ども連れのファミリー層をターゲットにした結果、各世代が同等の割合となった「どうぶつの考古学」展と大きく異なっている。企画展に関する情報取得はIT系の比率が下がり、ポスターや新聞の割合が多かったのは、上記の年齢層の上昇と地元新聞社2社の主催によるものと考えられる。アンケートでは、解説パネルの情報が少なく、図解や出土地や地図などの詳しい情報を求める声とともに解説の文字数が多いという意見も少数あった。巡回展のパッケージとなっているため開催館では対応できない案件でもあったが、今後の参考にした。また展示資料件数が多く展示什器類を「総動員」し動線が長くなった結果、観覧の順番が分からないとの回答もあったが、展示ケースに順路案内を表示する対応した以降はこうした指摘はほぼなくなった。なお列島展は来場者による展示品の写真撮影が可であったため、撮影のシャッター音が気になるとの回答もいくつかあった。

コロナ対応として展示室内の観覧人数25名を目安とすることで密を避けることにした。結果的に30分を一コマとすると会期中の土日祝日を中心に90コマで入場制限（入場待ち）が生じた。入場者数の把握は、春

の企画展以来実施しており、夏の企画展からプレゼンテーションソフトを用いデジタル表示して来館者や館スタッフが入場動向を把握できるようにした。さらに秋の企画展からはプレゼンテーションソフトに来場者数を表示させるログを取得し、リアルタイムの観覧者数と単位時間当たりの入場者小計を把握できるようにした。これを基に来場者の動向が把握できるようになり、混雑情報をSNSなどで発信できるようになった。混雑情報は延べで約2万回の閲覧があった。その結果、混雑情報のアナウンス前後で、土曜日の15時30分以降の来場動向に変化が生じている。



発掘された日本列島2020ポスター



会場の様子

## エ. 企画展「震災遺産を考える 次の10年へつなぐために」

### (ア) 会期

令和3年1月16日(土)～3月21日(日)  
開館日数：54日間

### (イ) 会場 企画展示室

### (ウ) 観覧者数 3,265人

### (エ) 担当学芸員

震災遺産保全チーム(筑波、阿部、内山、大里、栗原、高橋満、塚本、弦巻)

### (オ) 趣旨

ふくしま震災遺産保全プロジェクトは、東日本大震災を「歴史」と位置づけ、震災が産み出したモノや震災を示すバシヨを「震災遺産」と名付けて、収集・保全、そして公開する取り組みを平成26年度から実施してきた。本展覧会では、東日本大震災の発生から10年目において、改めてこれまでに収集・保全した「震災遺産」と向き合うことで、次の10年に向けて何を考えていくべきなのか、来館者と共有することを目的とした。

### (カ) 展示構成

第1章 東日本大震災を考える 「震災遺産が伝える地域の足跡」「大地の動き 自然の営み」「止められた日常 日常化した非日常」地震・津波・火災と原子力発電所の事故を伝える震災遺産とともに、東日本大震災を振り返った。

第2章 震災遺産から考えたこと 「場所を保全する」「文字を保全する」「時間を表現する」「物語を継承する」学芸員が震災遺産を収集するとき、何を考えていたのか、集められた震災遺産をどう読み解いたのか。震災遺産とどのように向き合ってきたかを紹介した。

第3章 震災遺産が伝える事「復旧 取り戻すために」「残す 経験を伝えるために」「考える これからをどう生きるのか」「復興 集めた震災遺産がなにを語るのか、伝えられるのか、震災遺産を関係者の言葉を紹介し、来館者とともに震災遺産を考えた。

出品点数 富岡町災害対策本部跡関連資料、浪江町避難所資料他、合計174件(館藏品、個人から借用品を含む)

### (キ) 関連事業

○上映会「Life 生きてゆく」

日時：令和3年2月11日(木・祝)  
13時30分～15時40分

会場：講堂

○上映会「アニメーション『無念』」

日時：令和3年2月28日(日)  
13時30分～14時30分

会場：講堂

○防災講座「楽しいそなえ」

日時：令和3年3月21日(日)  
13時30分～14時30分

会場：講堂

講師：渡邊浩二氏(地域活動サポートセンター 柏崎)

○フォーラム「震災遺産を考える 次の10年へつなぐために」

日時：令和3年3月6日(土)  
13時30分～16時

会場：講堂

講師：佐藤公氏(磐梯山噴火記念館館長)  
二上文彦氏(南相馬市博物館学芸員)  
瀬戸真之氏(東日本大震災・原子力災害伝承館学芸員)  
筑波匡介(当館学芸員)

○見どころ解説会

※各回30分程度 4回実施

日時：令和3年1月16日(土) 13時30分～、  
1月30日(土) 13時30分～、2月13日(土) 13時30分～、3月11日(木) 13時30分～

会場：講堂

講師：当館学芸員

### (ク) 成果と課題

例年、冬期間の特集展として「震災遺産を考える」を実施してきたが、東日本大震災の発生から10年を迎えることもあり、今までの研究成果を広く社会へ還元するために企画展として開催することとした。

今まで、同じ名称を使った特集展として無料で行ってきたが今展覧会を有料にしたこと、数年ぶりの大雪であったこと、新型コロナウイルス感染症などの影響も受け来館者数は苦戦であった。であるが、今までできなかったチラシ・ポスターの配布など広報に注力することができ、新規来館者を多く獲得することができた。広報においては、一定の成果があったと考えている。加えて昨年度から新聞掲載などの情報発信は意識して行っており、新聞紙の掲載も全国紙だけでなく、全国各地の地方紙にも取り上げられた。また子ども向けの新聞紙面に

もわかりやすく掲載されるなど情報発信においては一定の成果があったと考えている。

満足度はアンケート結果からは、94%の来館者より観覧の価値ありと評価を頂けたことは励みとなった。今まで蓄積した研究成果を発揮できたものと考えている。また冬期間の開催であり当初より来館者数では苦戦することは予想できたので、記録誌(図録)の編集に力点を置いたことも、多くを頒布することにつながり、通信販売も広く全国から問い合わせを頂いている。

博物館での研究とは異なる分野の研究者も多く来館された。関連イベントとして実施したフォーラムでは、現場で活躍する研究実践者からも、たくさんの質問を頂くことができ話題が補填され、内容がより充実したものとなった。また参加いただいた研究者からも今後移動展や連携した研究などの相談をいただいております、新しい展開を期待している。

アンケート結果からは、自由記述の中に移動展示や継続的な展示の要望が多くあった。今後は他地域での開催や移動展示などを含めて検討を進めたい。



フォーラム「震災遺産を考える」

### (3) 特集展

特集展は、新しく収集した寄贈・寄託資料を中心に、特定のテーマに基づいて一定の期間開催する展示会である。令和元年度は、冬季特集展として「震災遺産を考えるーそれぞれの9年ー」を開催した。企画展示のように特別の観覧料金を設定せずに無料で観覧できるように対応した。

#### ア. 特集展「震災遺産を考えるーそれぞれの9年ー」

##### (ア) 会 期

令和2年2月11日(火・祝)～4月12日(日)  
開館日数：54日間(令和2年度の会期11日間)

##### (イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 後 援 公益財団法人 福島員イノベーション・コースト構想推進機構

##### (エ) 観覧者数

237人(会期中の累計観覧者数2,323人)

##### (オ) 担当学芸員

震災遺産保全チーム担当学芸員

##### (カ) 趣 旨

ふくしま震災遺産保全プロジェクトは、東日本大震災を「歴史」と位置づけ、震災が産み出したモノや震災を示すバシヨを「震災遺産」と名付けて、収集・保全、そして公開する取り組みを平成26年度から平成28年度まで実施してきた。本展示では、これまでに収集・保全した震災遺産に関わった人たちの証言から、震災遺産を振り返り、それぞれが過ごしてきた時を共有することをめざした。

##### (キ) 展示構成

命 半杭一成 牛がかじった柱のレプリカ  
繰り返した避難生活から感謝の日々へ 伊藤まり 浪江中学校避難所資料等



震災遺産を考えるポスター

負けたままではいけない 金谷清子 旧  
相馬女子高避難所資料等  
ふるさとへの想い 浪江新聞販売センター資  
料等  
情報の架け橋として 鈴木新聞舗資料等  
光の鳥 子どもたちのメッセージ  
富岡は負けん！ 横断幕レプリカ、通行許  
可証等  
大熊町の記憶 フロッタージュ作品  
福島県生涯学習課所蔵資料 東日本大震  
災・原子力災害伝承館所蔵予定資料  
出品点数 104件

#### (ク) 関連事業

- ・今年度予定していた展示解説会は新型コロナ  
ウイルス感染症の感染拡大防止のため、  
中止となった。  
日時：4月11日（土）13時30分～

### (4) 指定文化財の公開

令和2年度の展示で以下の指定文化財の公開  
を行った（館蔵・寄託品などは除く）。

#### ア. 国指定

〈国宝〉

- (1) 短刀〈銘国光（名物会津新藤五） 1口  
ふくやま美術館  
（企画展「会津のSAMURAI文化－蒲生氏郷  
と藩士たちの文武－」にて展示公開）

〈重要文化財〉

- (2) 磐城檜葉天神原遺跡出土品のうち 2点  
檜葉町教育委員会（福島県）  
（総合展示室：原始にて展示公開）

#### イ. 県指定（福島県指定）

〈重要文化財〉

- (1) 関和久官衙遺跡出土品のうち 墨書土器  
4点 福島県
- (2) 根岸官衙遺跡出土品のうち 軒丸瓦 1  
点 いわき市
- (3) 夏井廃寺跡出土品のうち 軒丸瓦 2点  
いわき市
- (4) 森北1号墳出土品のうち 石製品および  
鉄製品 4点 会津坂下町  
（以上4件は、総合展示室：古代にて展示公  
開）

### (5) 展示解説

#### ア. 展示解説員

平成20年代初頭の大規模な人員削減以来、現  
在まで展示解説員は13名で業務を続けている。  
例年同様、令和2年度は常設展示室内の監視  
員2名と、企画展開催中には展示予算の中で

監視員1名を予算化したが、展示解説員自体  
の人員の不足が恒常的に続いており、解説や  
案内業務等に支障をきたしている。展示解説  
員の主な仕事は展示の解説業務（通し解説・  
部屋送り解説）に加えて、展示室内の監視や  
設備等の状況把握、チケットや刊行物等の販  
売業務を含めた受付、館内の案内、体験学習  
室の管理・運営、団体対応など幅広い。組織  
としては、研修係、資料係、体験係の3つの  
係に分かれ、それぞれが全体に共通する仕事  
と係の仕事とを日々進めている。

研修係は、企画展やテーマ展等の各展示担  
当学芸員が行う研修のほか、新人解説員の研  
修や、展示解説員のスキルアップのための冬  
期の閑散期研修などの研修計画の策定、さら  
に企画展開催時に展示解説員の人数不足を補  
うための学芸員の「立番」の準備などを行う。  
資料係は図録などの刊行物や展示室内におけ  
る配布資料などの管理のほか、受付・モギ  
リ・展示室などにおける掲示物や物品等の管  
理を担当している。体験係は体験学習室にお  
ける玩具や着付け衣装の管理、資料作成のほ  
か、体験学習室の使用法を含めた全般的な管  
理を行っている。それぞれの係には班長・  
副班長を置き、特に3名の班長は展示解説員  
の出勤・休暇の管理など全体を統括する業務  
や、班長会議の実施などを通じた学芸課・総  
務課との連絡調整業務、団体予約に関する仕  
事の調整などを担当している。

#### イ. 展示解説員の新型コロナウイルス感染症対策

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の  
感染拡大にともない、接客を中心とする展示  
解説員の業務に大きな影響をもたらした。年  
間を通して展示室内での解説業務は中止とな  
り、また感染状況に応じて団体の受け入れな  
ども制限を設けたほか、物や人の接触を多く  
伴う体験学習室は閉室もしくは限定的な開室  
にならざるを得なかった。特に臨時休館中は  
接客業務ができなくなったため、在宅勤務に  
切り替えて自主研修や各種資料の作成を進め  
たほか、再開館にあたっては感染対策を行っ  
たうえでの来客対応のシミュレーションなど  
を事前に進めた。再開館後、総合ガイダンス  
（受付・売店）やモギリにはアクリルパーテ  
ーションを設置し、館内各所にアルコール消  
毒液を配置した。マスク未着用の来館者に対  
しては、声かけの際のガイドラインを作成し  
て着用の呼びかけを行ったり、アルコールに  
よる手指消毒も勧めた。さらに、来館日の記

録のためのチケットへの日付印の押印や、接触の多い様々な場所や物への消毒作業、来館者の密を避けるための展示室内の人数管理、さらに設定人数を超過した場合の人数制限措置の実施など、これまでにない多くの業務が加わった。

本来の業務が大幅に制限されて感染対策に多くの時間と人手を割かざるを得ない状況が続いたが、例えば口頭での解説の代替策として普段多く寄せられる質問をQ&A形式でデジタルサイネージを使って表示したり、個々のスキル維持のために体験学習室の着付けや展示解説の研修・練習を進めるなど、できることから仕事を進めており、通常業務に戻る日々に備えている。



臨時休館中の再開館シミュレーション



見本図録の消毒作業

#### ウ. 学芸員

企画展および特集展の開催中は展示解説のために職員を配置する場が増えることになり、展示解説員だけでは解説員の昼休みや休憩時間の減員に対応できない状況であるため、学芸員が代わって展示室に立つことになっている。原則1コマ45分である。

また、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、臨時休館後の春の企

画展期間中（5月16日～24日の開館日、および5月30日～6月28日の土日）はエントランス入口に「コンシェルジュ」を設置し、学芸員が終日、感染防止対策の周知やマスク着用のお願ひ等の来館者対応を行った。コンシェルジュを含め、令和2年度の立ち番は年間433回（内、コンシェルジュ80回）を数えた。

また、企画展、テーマ展等の展示については、公民館、研究団体などからの依頼に応じて、担当分野の学芸員が展示解説を実施してきたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、学芸員による展示室内での対面による展示解説は原則休止した。代替措置として「見どころ解説会」などの形で、感染対策をした上で講堂内でスライド上映などによる展示紹介を開催した。

#### (6) 体験学習室

エントランスホール隣に設置してある無料で使用できる場所。囲炉裏のついた畳敷きの座敷と木のフローリングの部分がある。昔のおもちゃが用意されていて、自由に遊べるほか、季節ごとに昔の着物を着ることができる。着付けは衣服の上からだがかなり本格的で好評を得ている。また、資料に触れるハンズオンコーナーを常設することで、子どもたちも博物館に親しむことのできる空間作りを目指している。この部屋には展示解説員が常駐し来館者に対応している。

#### ア. 開室状況

新型コロナウイルス感染症の感染拡大にともない時代衣装の着付けや昔のおもちゃ等、体験学習室は物や人の接触を多くともなうため6月末までは閉室にならざるを得なかった。そのため開室に向けて感染症対策を講じた様々な運用方法を模索、試行してきた。

感染症対策として利用時間の制限、おもちゃの区分け、おもちゃや絵本使用後の消毒の徹底、ディスタンスの確保のための滞在スペース確保等の感染症対策を行い、利用者には入室前に消毒や利用の際のお願ひを展示解説員から伝える等の対策を勧め、開室に向けて新たな運用方法のマニュアル化を図り、準備を進め、7月から土日のみの限定的な日数で運用を開始した。

展覧会の会期中は、体験学習室に展示解説員の人員確保ができなかったために展示を中心とした方法で運用し恒常的に開室、それ以外の期間ではおもちゃや積み木等、体験した

り遊んだりすることができる方法で運用したが、土日だけの限定的な日数で開室せざるを得なかった。しかし、折り紙やお絵かきセット等新たに体験や工作ができるものを用意したり、展示資料と関連した塗り絵を提供したりして工夫を重ねながら開室し、利用者に体験しながら学べる場を提供した。

## イ. 資料展示

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、企画展会期中では体験学習室の新たな試みとして資料や作品展示を中心とした運用方法で開室した。

展示については、市内の高校生が当館で公開された屏風絵を鑑賞し、その学びを生かして描いたオリジナルの屏風作品、当館開催の考古学講座「縄文土器をつくろう」で制作した土器を展示した。また、企画展「震災遺産を考える」と連動させて博物館実習生がプログラムの中で実施した「ミニ防災講座」で制作した解説パネルや防災グッズ等の展示を行う等、当館の資料や講座、授業やプログラム等で制作した成果展を行った。

新たな体験学習室の運用方法として、利用者の作品や成果を披露する場として活用したことで、来館者の入室促進や展示室への誘導、当館関連の講座やプログラム利用者の達成感や満足感の向上につながった。



体験学習室開室の様子



福島県立葵高等学校  
「大須賀清光から学ぶ私の屏風絵」作品展の様子

## (7) リニューアルの検討

当期中期目標における重点目標「新しい展示ストーリーの検討」を進めるため、既存展示の見直し作業と最新の展示手法と展示構築動向を把握するための情報収集をテーマに展示リニューアルを検討した。

既存展示の見直しには、当館の現況展示制作する際の「展示基本計画」を基に、展示構想と具体化された現況展示を比較し、展示目的の達成状況を検討した。また来館者目線を想定し、博物館実習生をモニターとして近世における民俗系展示の理解から課題抽出を試みた。さらにインバウンド対応が果たされていない当館の現状について会津若松市の国際交流協会の協力を得て観覧モニターも行き、意見交換を行った。

年度の後半は、最新の県内の展示施設の一つである「中間貯蔵工事情報センター」のヒアリングに協力し、最新の展示動向の情報を得るとともに、当館の展示目的や運営状況について再認識する機会となった。また会津大学と連携し、来館者の動線や展示観覧の印象の知識化を計測する仕組みがもたらす成果について実地しながら検討する事業を行った。また本年度開始した「三の丸からプロジェクト」の一環として、最新の映像コンテンツ作成・提供技術について知見を得た。

## 4. 調査研究事業

### (1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向けて、新たな研究成果と展示資料の収集のため、考古・歴史・民俗・美術・自然・保存科学の各分野がテーマを設定して調査を実施している。令和2年度は、以下の7テーマの調査を実施した。

#### ア. 考古資料による原始・古代の画期の再検討

##### (ア) 分野 考古

##### (イ) 趣旨

I 縄文時代後半期から弥生時代初頭とII古墳時代終末期から奈良時代（6世紀末～8世紀）の2つの時期を取り上げ、当館収蔵の当該期の考古資料を中心に取り上げ、資料の有する社会的背景を考察し、本県における原始・古代の時代変遷の画期を検討し考古地域史の確立を目指すものである。

##### (ウ) 調査概要

県内出土古人骨の共同研究を東京大学と継続し、新地町三貫地貝塚出土人骨の年代及び同位体のデータを取得した。県指定重要文化財の泉崎村原山1号墳出土埴輪（館蔵）および本宮市天王壇古墳出土埴輪（本宮市蔵）の形象埴輪の3D計測を実施し、県内の出現期の形象埴輪群の詳細観察・比較が可能となるデータ整備を推進した。

#### イ. 災害史の学際的研究と災害史展示の構築

##### (ア) 分野 震災遺産保全チーム

##### (イ) 趣旨

東日本大震災の発生以来、災害史の研究はこれまで以上に盛んに行われるようになった。これまで当館では、慶長大地震や磐梯山噴火などに関する資料の収集や会津藩の社倉制の研究、山口弥一郎資料の研究など多様な災害に関わる調査研究を進めてきたが、いずれも個々の分野が断片的に行ってきた活動であった。東日本大震災や原発事故のような大規模災害の経験を後世に語り継いでいくためには、自然史や歴史、民俗、考古、保存科学等の分野が総合的に資料を調査研究していく必要があり、また学際的な見地から歴史上の災害を整理し直し、資料調査を進めたうえで展示に反映していくことも求められる。本研究では東日本大震災と災害史に関する資料の収集や調査研究を分野横断的なチームで進め、将来的な常設展示のリニューアルにおいてそれら

を福島県の歴史として位置づけることを目指す。

##### (ウ) 調査概要

今まで調査研究した成果として、「震災遺産を考える 次の10年へつなぐために」とした企画展を実施した。聞き取り調査を追加し、資料関係者の想いや考えとともに、学芸員の取り組みを記録として残すことをした。災害史は、災害を乗り越えてきた人々の復興の歴史でもある。今回はとくに復興について、それぞれ関係者の考えをまとめた。これらの証言は今後福島県内各地の災害・復興史と比較する資料であると考えている。また今年度は調査・研究成果を取りまとめた記録誌の作成に力点を置いた。記録誌作成にあたっては資料調査とともに必要に応じて写真の再撮影を行った。記録誌を作成したことにより、多くの異なる分野の研究者と繋がることができた。企画展の協力依頼や移動展の実施など資料活用に関して相談も受けるようになり今後の活動につなげていきたい。

#### ウ. 浜通りにおける古生代大型化石の研究

##### (ア) 分野 自然

##### (イ) 趣旨

県内では浜通りを中心に古生代（約5億4000万年前～約2億5000万年前）の地層が分布している。これらの地層の中には豊富に化石を産する層準があり、これまでも地元の化石収集家などによって多くの化石が発見されてきた。

2017年に当館の学芸員によって相馬地域のデボン紀の地層から“県内最古の新種化石”が発見されるなど、現在でも浜通りの古生代の地層からは新たな化石が発見され続けている。これらの中には論文等で発表されていない貴重なものも含まれていることから、鑑定を行い、成果を論文として記録・公表する。ポイント展などでそうした化石を展示する機会を設ける。

##### (ウ) 調査概要

化石産地の現地調査を行い、新たに古生代大型化石を採取した。鑑定作業については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のために外部研究者と直接やり取りができず、オンラインによる予察的な検討にとどまった。

## エ. 福島県成立前後の近代資料の調査研究

### (ア) 分野 歴史

#### (イ) 趣旨

会津藩が関わった戊辰戦争は、県内外の研究者や歴史愛好家の興味を惹き、絶えず研究が行われている。一方で明治時代を迎えた近代ふくしまの歴史研究となると、等閑にされてきた感が否めない。県全体の歴史を扱った『福島県史 4 近代編 1』(昭和46年)も刊行から45年以上が経過し、見直しの時期に入ったといってもよい。そこで本事業では、近代ふくしまの出発点である県の成立前後に起こった事象(地方行政の整備、学校建設、地租改正等)を研究し、戊辰戦争からの戦後復興、そして浜通り・中通り・会津という3地域が初めてひとつになった「福島県」誕生の道程を明らかにする。

#### (ウ) 調査概要

年度当初は、国立国会図書館憲政資料室の三島通庸関係文書や国立歴史民俗博物館の大久保利通家資料などの調査を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、すべて中止した。県内の施設も休館や利用制限を実施していたこともあり、調査は見送り、これまでに調査した古文書資料の解読など館内で出来る研究を行った。

## オ. 収蔵資料活用に向けた本県薫文化の研究

### (ア) 分野 民俗

#### (イ) 趣旨

当館で開館当初に収蔵された薫製の大人形資料群は、本県を中心に新潟、東北・関東および各県の資料を収蔵し、全国的にも稀有な一大コレクションである。当館の既存資料の価値をさらに高めるため、企画展等でのその再活用を念頭に、関連資料収集と追加調査を進める。本事業により行事分布の再検討や製作過程の詳細な調査記録を作成し、あわせて実物資料を製作し収集・保全する。また博物館と地域住民とが連携することで、薫に関わる伝統技術の継承に寄与し、地域活性化の一助とする。

#### (ウ) 調査概要

令和2年度は、柳津町胄中地区に伝わる「ニンギョウマンギョウ」行事の薫人形について調査し、展示用資料として製作した。年間を通して、現地との調整(4～5月)、薫の購入(5月)、現地での薫人形製作・記録(11月)、行事調査(2月)、薫人形の展示用支持具製作(2～3月)等を実施した。資料

製作にあたっては柳津町役場・県内マスコミにも情報共有し、事業について広報した。

また2～3月には、近年廃絶した下郷町大字白岩字雑根地区に伝わる百万遍の薫細工を調査し、地域住民の協力のもと、製作過程を記録撮影するとともに展示資料として再現製作し寄贈いただいた。

## カ. 神社仏閣に伝世する料紙に関する研究

### (ア) 分野 保存科学

#### (イ) 趣旨

和紙は、伝世品の主要な素材の一つであり、古文書や古典籍などは和紙を基底材とする紙本文化財である。保存科学の観点より、料紙調査および保存状態調査を実施して、神社仏閣に伝世する料紙の特徴および保存性を明らかにすることを目的とする。

#### (ウ) 調査概要

県内の伝世資料について所在調査を実施した。

## キ. 会津地方の仏像・仏画の調査研究

### (ア) 分野 美術

#### (イ) 趣旨

会津地方は仏教美術の宝庫だが、その一方で、調査がなされず存在が知られていない仏像・仏画、かつて調査されたものの十分な認知がされていない仏像・仏画も多数ある。また、多くの寺院・堂が無住となり、地域の世帯で管理していることも少なくない。今後の管理体制に不安を抱える地域もあり、仏像・仏画の現状の確認は急務と言える。調査はより広い見地からの検証、修復の緊急性の判断等のため、大学等研究機関研究者および仏像彫刻修復家と共働で調査研究を行う。それらの成果をもとに、会津の仏教文化を紹介する講座・展覧会を開催するとともに、今後の保全体制の基盤づくりにつなげる。

#### (ウ) 調査概要

会津地方の北エリアを中心に調査を実施。喜多方市竹屋観音堂仁王像について、本格的調査を実施するための事前調査を行い、調査計画を立てた。喜多方市板ノ沢虚空蔵堂虚空蔵菩薩像、喜多方市福聚寺観音像について仏像・祭礼の調査及び所蔵地区への聞き取りを行い、テーマ展「祈りのふくしま4」で紹介した。



## (2) その他の調査研究事業

### ア. 古文書整理事業

古文書類の調査・研究は、福島県の歴史をさぐるために欠かせない。しかし古文書を歴史資料として活用するためには、1点ずつ整理を行い、表題・年代・形態・法量・状態などのデータを採取した上で、博物館資料として登録する必要がある。このため、購入・寄贈・寄託などにより当館で受け入れた古文書の整理・登録作業を行っている。また古文書原本を状態よく保存し後世に伝えていくため、古文書をマイクロ撮影し、原本のかわりに閲覧用に提供している。

令和2年度は、五十島真仁家寄贈資料および石井健司家寄託資料の整理を行い、このうち五十島真仁家寄贈資料については登録まで終了した。また登録済みだが、未公開であった松崎達夫家寄贈資料（若松城下薬種問屋資料）の一部を公開した。マイクロ撮影は、前年度に引き続き「築田家追加寄託資料」と新たに「松崎達夫家寄贈資料」の撮影を行った。「築田家追加寄託資料」は平成26年度より撮影を継続してきたが、令和2年度の撮影をもって予定していた資料の撮影は終了した。

## (3) 職員の研究活動

### ア. 研究成果の公表（職員の氏名あいうえお順）

#### (ア) 印刷物（単行本・自治体史・図録・報告書・紀要・学術雑誌）

阿部綾子 2021.3「第一章 藩主と藩士」『第六章 城下町と商業・交通』『相馬市史 第5巻 資料編Ⅱ 近世1』 福島県相馬市

猪瀬弘瑛・矢部淳 2021.3「福島県東白川郡塙町に分布する中新統久保田層からオオミツバマツの産出」『福島県立博物館紀要』第35号 p.73-76 福島県立博物館

内山大介・筑波匡介・高橋満・弦巻優太・大里正樹・栗原祐斗・塚本麻衣子・阿部綾子 2021.1『震災遺産を考える一次の10年へつなぐためにー』 福島県立博物館

内山大介 2020.9「書評 坂本要編『東国の祇園祭礼ー茨城県霞ヶ浦周辺地域を中心にー』」『民俗芸能研究』第69号 民俗芸能学会 p.103-107

内山大介 2020.12「書評 北海道民具事典編集委員会編『北海道民具事典Ⅰ生活用具』」『民具研究』第161号 日本民具学会 p.60-63

内山大介・小澤弘道 2021.3「越後大工の会津への出稼ぎー近世の阿賀川流域を中心にー」『福島県立博物館紀要』第35号 p.109-

135

内山大介 2021.3「会津田島祇園祭」・「二本松の提灯祭り」植木行宣監修・福原敏男他編『山・鉾・屋台の祭り研究事典』 思文閣出版 p.307-312

内山大介 2021.3「会津鋸の生産と流通ー鋸鍛冶と金物卸商の近現代ー」佐野賢治編『現代民俗学考ー郷土研究から世界常民学へー』 春風社 p.581-601

大里正樹 2020.4「死と儀礼」『民具学事典』丸善出版 pp.102-104丸善出版

大里正樹 2021.3「写真資料から見える会津の風景ー小滝清次郎氏寄贈写真からー」『福島県立博物館紀要』35 p.59-71 福島県立博物館

杉崎佐保恵・鈴木晴彦 2021.3「装潢文化財の保存修理に関する体験型講座の事例報告ー保存科学講座「和紙にふれる」実施報告ー」『福島県立博物館紀要』第35号 p.39-58 福島県立博物館

高橋充 2020.4「相馬攻めから蘆名攻めへ」南奥羽戦国史研究会編『伊達政宗ー戦国から近世へー』 p.93-105 岩田書院

高橋充 2020.8「全体解説」『史料解説・解題』『相馬市史』第四巻 資料編Ⅰ中世 福島県相馬市

高橋充・小林めぐみ・塚本麻衣子 2021.3「企画展『会津のSAMURAI文化ー蒲生氏郷と藩士たちの文武ー』実施報告」『福島県立博物館紀要』35 p.1-20 福島県立博物館

高橋充・阿部綾子・相田優・田中敏・山本俊 2021.3「企画展『会津のSAMURAI文化ー蒲生氏郷と藩士たちの文武ー』の成果」『福島県立博物館紀要』35 p.21-38 福島県立博物館

高橋満（監修）2020.11「土器土器&アニマルズ」『読売KODOMO新聞』第505号p.10-11 読売新聞東京本社

高橋満 2020.11「新たな目で見えた文化財 ふくしま震災遺産保全プロジェクト」『ビジュアル版考古学ガイドブック』シリーズ 遺跡を学ぶ別冊05 新泉社

高橋満 2021.2「受賞に寄せて 震災遺産の備忘録」『博物館研究』令和3年3月号 公益財団法人日本博物館協会

平澤慎 2020.7「古墳時代 東北」『考古学ジャーナル』742号p.55-56 ニューサイエンス社

## (イ) 学会発表

内山大介 2020.10.4～11「教師・山口弥一郎の地域文化研究―フィールドの危機と民俗学的実践―」(グループ発表「民俗文化研究の持続性と多様性の展開―研究と現地を往還する拠点構築に向けて」) 日本民俗学会第72回年会 オンデマンド開催

内山大介 2020.10.25「多様化する文化政策と民俗学」現代民俗学会 第50回研究会「民俗学の論点2020」オンライン開催

内山大介 2020.12.6「体験と実践のフィールド学―昭和期東北の農村問題と山口弥一郎―」現代民俗学会第52回研究会「農民俗学／農村問題から民俗学史を拡張する」オンライン開催

内山大介 2021.3.20「震災・原子力災害に向き合う博物館～資料保全から地域と記憶の継承へ～」地底の森特別講座「ミュージアムと災害」第2回 仙台市富沢遺跡保存館・地底の森ミュージアム

大里正樹 2020.9.19「民俗調査者として見た柳津町の民俗」ライフミュージアムネットワーク2020連続オープンディスカッション「奥会津の周り方第2回 清の眼・根っこの眼 それぞれの地域学」やないづ町立斎藤清美術館

## イ. 他団体による委嘱等

阿部綾子：相馬市史編さん調査執筆員 相馬市教育委員会

阿部綾子：郡山市文化財保護審議会委員 郡山市教育委員会

阿部綾子：史跡若松城跡御三階復元検討会委員 会津若松市教育委員会

猪瀬弘瑛：ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携コーディネーター

内山大介：共同研究「地域における歴史文化研究拠点の構築」共同研究員 国立歴史民俗博物館

内山大介：医学部講義「芸術と文化(博物館・美術館にみる芸術と文化)」福島県立医科大学

内山大介：会津の御田植祭調査委員会副委員長

内山大介：八戸地方えんぶり調査委員会調査委員

内山大介：郡山市文化財保護審議会委員 郡山市

内山大介：会津美里町郷土資料館(仮称)整備検討委員会委員 会津美里町

内山大介：日本民俗学会理事・評議員

内山大介：日本民具学会理事・評議員

内山大介：現代民俗学会研究企画委員

内山大介：福島県民俗学会事務局長

内山大介：文化財保存修復学会第43回大会実行委員 文化財保存修復学会

大里正樹：会津坂下町史編さん専門委員 会津坂下町教育委員会

大里正樹：須賀川市文化財保護審議会委員 須賀川市

大里正樹：南島文化研究所特別研究員 沖縄国際大学南島文化研究所

大里正樹：福島県民俗学会事務局 福島県民俗学会

大里正樹：文化庁 調査員(文化財第一課) 文化庁文化財第一課

大里正樹：三島町史編さん専門委員 三島町教育委員会

川延安直：喜多方市美術館収集委員会委員 喜多方市教育委員会

川延安直：「ふるさとの風景展」審査員 喜多方市美術館

川延安直：いわき市文化財保護審議会委員 いわき市教育委員会

川延安直：須賀川市文化財保護審議会委員 須賀川市教育委員会

川延安直：白河市文化財保護審議会委員 白河市教育委員会

川延安直：福島県文学賞エッセー・ノンフィクション部門審査委員

川延安直：福島大学芸術による地域創造研究所研究員 福島大学

川延安直：やないづ町立斎藤清美術館運営協議会委員

栗原祐斗：熊谷市史編集委員(近代・現代専門部会 特別調査員)

小林めぐみ：福島芸術計画運営委員会委員 福島県

小林めぐみ：会津漆器技術後継者訓練校講師 会津漆器協同組合

小林めぐみ：やないづ町立斎藤清美術館運営協議会委員 柳津町

小林めぐみ：会津若松市文化のまちづくり事業委員会委員 公益財団法人会津若松文化振興財団

小林めぐみ：只見町ユネスコエコパーク支援委員会委員 只見町ユネスコエコパーク推進協議会

小林めぐみ：只見町ぶなと川ミュージアム運営委員会委員 只見町

小林めぐみ：福島大学芸術による地域創造研究所研究員 福島大学  
 小林めぐみ：無形文化財（工芸技術）の公開・活用に関する検討会委員 文化庁  
 小林めぐみ：福島市文化財保護審議会委員 福島市  
 小林めぐみ：須賀川市文化財保護審議会委員 須賀川市  
 小林めぐみ：いわき芸術文化交流館アドバイザー いわき市  
 佐藤洋一：南会津町伝統的建造物群保存地区保存審議会委員  
 佐藤洋一：共同研究『「聆涛閣集古帖」の総合資料学的研究』共同研究員 国立歴史民俗博物館  
 杉崎佐保恵：文化財保存修復学会第43回大会実行委員 文化財保存修復学会  
 高橋 充：二本松城跡整備検討委員会委員 二本松市教育委員会  
 高橋 充：向羽黒山城跡調査整備委員会委員 会津美里町教育委員会  
 高橋 充：相馬市史編さん専門委員 相馬市教育委員会  
 高橋 充：会津藩主松平家墓所及び名勝会津松平氏庭園整備指導会議委員 会津若松市教育委員会  
 高橋 充：神指城跡調査指導委員会委員 会津若松市教育委員会  
 高橋 充：阿津賀志山防塁調査・整備指導委員会委員 国見町教育委員会  
 高橋 充：棚倉町中世城館等調査指導委員会委員 棚倉町教育委員会  
 高橋 充：会津坂下町史編さん委員会委員 会津坂下町  
 高橋 充：北塩原村城館等保存・整備・活用検討委員会委員 北塩原村教育委員会  
 高橋 充：小峰城跡石垣検討委員会委員 白河市  
 高橋 充：堂後遺跡及び勝常寺跡調査指導委員会委員 湯川村教育委員会  
 高橋 充：只見町文化財調査委員 只見町教育委員会  
 高橋 充：医学部講義「芸術と文化（博物館・美術館にみる芸術と文化）」福島県立医科大学  
 高橋 満：「資源利用史 研究クラスター」研究推進員 明治大学  
 高橋 満：富岡町アーカイブ施設整備識者検討部会委員 富岡町  
 田中 敏：会津坂下町史編さん委員 会津坂

下町教育委員会  
 田中 敏：御三階復元検討委員会委員 会津若松市教育委員会  
 田中 敏：会津藩主松平家墓所整備指導会議委員 会津若松市教育委員会  
 田中 敏：白河市天王山遺跡検討委員会委員 白河市  
 塚本麻衣子：喜多方市文化財保護審議委員 喜多方市教育委員会  
 塚本麻衣子：会津坂下町仏像等悉皆調査委員会委員 会津坂下町教育委員会  
 筑波匡介：長岡造形大学 非常勤講師  
 筑波匡介：大熊町アーカイブ施設等整備検討委員会

## ウ. 研究助成金等

### (ア) 科研費奨励研究

杉崎佐保恵：古墳時代の金属製象嵌製品の製作技法の解明と保存修復のための診断技術の確立  
 高橋満 科研費・基盤研究 (C)「霞ヶ浦沿岸における縄文時代土器製塩史復元のための基礎的研究」研究代表者  
 高橋満 科研費・基盤研究 (A)「日本列島における製塩技術史の解明」研究分担者

## 5. 教育普及事業

### (1) 講座・講演会

当館では館長と学芸員による各種講座を開催しているが、そのほかにも、外部に講師を依頼しさまざまな講座・講演会等を実施している。令和2年度の各講座開催数は77、総参加者数は2,151人であった。今年度は新型コロナウイルス

感染症の感染対策として講座の中止・延期を行ったことに加え、定員を制限しての開催となったため、講座数・参加者数ともに昨年度と比較し大幅に下がることとなった。以下は個別講座・講演等の一覧である。

#### 令和2年度講座・講演会等の回数と参加者数

テーマ	回数	参加者数
(1) 館長講座	1	23
(2) 特別講座	3	142
(3) 考古学講座	2	40
(4) 民俗講座	6	102
(5) 歴史講座	5	129
(6) 自然史講座	2	43
(7) 保存科学講座	3	65
(8) 美術講座	6	154
(9) 防災講座	1	28
(10) 実技講座	1	11
(11) 実演	1	31
(12) 企画展関連行事（記念講演・シンポジウム・講座・展示解説等）	26	604
(13) ポイント展ミニ解説会	6	90
(14) けんぱくミュージアムイベント	5	313
(15) 子育て世代対応事業	5	225
(16) 後援事業	2	91
(17) ライフミュージアムネットワーク事業	1	20
(18) 友の会事業	1	40
(19) 共催事業	0	0
(20) 体験的学習事業	0	0
計	77	2,151

#### 令和2年度講座・講演会等行事一覧

##### (1) 館長講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
最終講座「座談会 福島県立博物館 これまでの10年・これからの10年」上映会	赤坂憲雄（前館長）・川延安直（副館長）・佐々木長生（福島県民俗学会会長／元当館学芸員）・竹谷陽二郎（磐梯山ジオパーク／元当館学芸員）・森幸彦（大熊町教育委員会／元当館学芸員）	2月20日（土）	23

##### (2) 特別講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
特別講座①「詩人のいる博物館 ふくしまを書く」	和合亮一（詩人） 千葉青藍（書道家）	9月12日（土）	33
特別講座②「詩人のいる博物館 会津を語る、詩を語る」	和合亮一（詩人） 佐藤巖太郎（小説家）	1月31日（日）	53
特別講座③「詩人のいる博物館 ふくしまを写す」	和合亮一（詩人） 岩根愛（写真家）	3月28日（日）	56

## (3) 考古学講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
歩いて学ぶ会津大塚山古墳	平澤慎 (学芸員)	11月7日(土)	20
勾玉をつくろう	平澤慎 (学芸員) 田中敏 (学芸員)	3月20日(土)	20

## (4) 民俗講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
ポイント展でまなぶ！ふくしまの民俗②「描かれた民俗」	大里正樹 (学芸員)	8月23日(日)	18
民俗講座「いまさら聞けないこづゆのアレコレ」	江川トヨ子 (学芸員)	12月6日(日)	9
記録映像で見るふくしまの暮らし①鶏足神社の浜下り		12月20日(日)	10
記録映像で見るふくしまの暮らし②中ノ沢こけし製作のわざ		1月17日(日)	14
記録映像で見るふくしまの暮らし③冬木沢参りの習俗 記録編		2月21日(日)	32
記録映像で見るふくしまの暮らし④只見川流域のひな流し		3月21日(日)	19

## (5) 歴史講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
企画展先取り講座⑤「旧盆の帰省と小旅行ー郡山から「若松へー」	佐藤洋一 (学芸員)	6月27日(土)	18
はじめてさんの古文書講座①	阿部綾子 (学芸員)	10月17日(土)	20
はじめてさんの古文書講座②	栗原祐斗 (学芸員)	11月21日(土)	19
はじめてさんの古文書講座③	高橋充 (学芸員)	12月19日(日)	18
テーマ展を味わう講座「山川浩と健次郎」	佐藤洋一・栗原祐斗 (学芸員)	2月6日(土)	54

## (6) 自然史講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
化石博士の発掘最前線	猪瀬弘瑛 (学芸員)	8月8日(土)	30
鶴ヶ城の野鳥	古川裕司 (野鳥研究家)	11月8日(日)	13

## (7) 保存科学講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
保存科学講座 2回連続講演会「装飾古墳壁画をまなぼう！」1回目「国指定史跡・清戸迫横穴の保存管理について」	吉野高光 (双葉町教育委員会)	9月21日(土)	24
保存科学講座 2回連続講演会「装飾古墳壁画をまなぼう！」2回目「朱とベンガラー日本列島の古墳にみる二つの赤ー」	志賀智史 (九州国立博物館)	9月27日(日)	22
博物館の舞台裏 講演バージョン	杉崎佐保恵 (学芸員)	2月27日(日)	19

## (8) 美術講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
刀匠が触っているのを見てみる刀剣講座	藤安将平 (将平鍛刀場刀匠)	8月16日(日)	37
よくわかる仏教美術1「場所～仏像はどこにいる？」	塚本麻衣子 (学芸員)	10月11日(日)	27
よくわかる仏教美術2「儀礼～何を祈る？どう祈る？」	塚本麻衣子 (学芸員)	10月25日(日)	35
よくわかる仏教美術3「人～つくらせる人、つくる人」	塚本麻衣子 (学芸員)	11月1日(日)	34
やさしい焼きもの講座1ー大堀相馬焼の歴史	原恵理子 (学芸員)	11月28日(土)	14
やさしい焼きもの講座2ー大堀相馬焼のいま・これから	小野田利治 (大堀相馬焼協同組合理事長)	12月12日(土)	7

## (9) 防災講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
ミニ防災講座 楽しいそなえ	筑波匡介 (学芸員)	9月1日(火)	28

## (10) 実技講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
からむしにふれる～からむし縄のマスク作り～	加藤萌絵 (からむし作家・研究家) /田嶋紀佳 (からむし織研修生)	1月23日 (土・祝)	11

## (11) 実演

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
昔語り	会津民話会の皆さん	3月27日(土)	31

## (12) 企画展関連行事

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
展示解説会	栗原祐斗 (学芸員)	6月28日(日)	29
企画展「会津のSAMURAI文化」内覧会 (報道・友の会)		7月31日(金)	35
見どころ解説会	高橋充 (学芸員)	8月1日(土)	12
見どころ解説会	高橋充 (学芸員)	8月8日(土)	5
見どころ解説会	高橋充 (学芸員)	8月13日(木)	7
見どころ解説会	高橋充 (学芸員)	8月14日(金)	10
見どころ解説会	高橋充 (学芸員)	8月15日(土)	4
見どころ解説会	高橋充 (学芸員)	8月22日(土)	16
野外講座「鶴ヶ城の石垣を見る、歩く」	近藤真佐夫 (会津若松市教育委員会) 相田優 (学芸員)	9月5日(土)	19
見どころ解説会	高橋充 (学芸員)	9月5日(土)	5
見どころ解説会	高橋充 (学芸員)	9月12日(土)	10
見どころ解説会	高橋充 (学芸員)	9月19日(土)	5
企画展「発掘された日本列島2020」内覧会 (報道・友の会)		10月9日(金)	34
講演会「発掘された日本列島2020」展一特集1の見どころ	芝康次郎 (文化庁調査官)	10月10日(土)	40
見どころ解説会	高橋満 (学芸員)	10月24日(土)	20
講演会「櫛からたどる古墳時代の日本列島と東アジア —会津大塚山古墳・灰塚山古墳の櫛が語ること—	木沢直子 (元興寺文化財研究所)	10月31日(土)	39
見どころ解説会	平澤慎 (学芸員)	11月3日 (火・祝)	43
講演会「ユネスコ世界の記憶 上野三碑を読み解く」	角田真也 (高崎市教育委員会)	11月15日(日)	40
企画展「震災遺産を考える」内覧会 (報道・友の会)		1月15日(金)	22
見どころ解説会	当館学芸員	1月16日(土)	18
見どころ解説会	当館学芸員	1月30日(土)	2
上映会 映画「Life—生きていく」		2月11日 (木・祝)	77
見どころ解説会	当館学芸員	2月13日(土)	17
フォーラム「震災遺産を考える 次の10年へつなぐために」	佐藤公 (磐梯山噴火記念館)・二上文彦 (南相馬市博物館)・瀬戸真之 (東日本大震災・原子力災害伝承館)・筑波匡介 (学芸員)	7月27日(土)	64
見どころ解説会	当館学芸員	3月11日(木)	19

## (12) 企画展関連行事

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
防災講座「楽しいそなえ」	渡邊浩二 (地域活動サポートセンター柏崎)	3月21日(日)	12

## (13) ポイント展ミニ解説会

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
ポイント展「道中絵図にみる秀吉の通った道」ミニ解説会	高橋充(学芸員)	6月26日(金)	19
ポイント展「秀吉がやってきた!」ミニ解説会	高橋充(学芸員)	8月7日(金)	24
ポイント展「なるほど!太閤検地」ミニ解説会	高橋充(学芸員)	9月11日(金)	13
ポイント展「チャレンジ!今月の古文書 正月編」ミニ解説会	阿部綾子(学芸員)	1月29日(金)	10
ポイント展「チャレンジ!今月の古文書 如月編」ミニ解説会	栗原祐斗(学芸員)	2月26日(金)	13
ポイント展「チャレンジ!今月の古文書 弥生編」ミニ解説会	高橋充(学芸員)	3月26日(金)	11

## (14) けんぱくミュージアムイベント

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
夏休みナイトミュージアム	当館学芸員	8月29日(土)	47
親子で楽しむコンサート	善久(オカリナ)、榊原聡子(ピアノ)	9月20日(日)	40
けんぱくクリスマスコンサート	井上仁一郎(ギター)、榊原聡子(キーボード)、 渡邊奈美(朗読)	12月13日(日)	93
けんぱく映画会 アニメーション「無念」		2月28日(日)	49
会津の彼岸獅子	本滝沢獅子舞保存会の皆さん	3月7日(日)	84

## (15) 子育て世代対応事業

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
親子でたのしむワークショップ	会津大学短期大学部幼児教育学科の皆さん	8月13日(木)	38
親子でたのしむワークショップ	会津大学短期大学部幼児教育学科の皆さん	8月14日(金)	31
親子でたのしむワークショップ	会津大学短期大学部幼児教育学科の皆さん	8月15日(土)	52
親子でたのしむワークショップ	会津大学短期大学部幼児教育学科の皆さん	9月21日(月)	83
幼児向けワークショップ「おめんをつくろう」	会津大学短期大学部幼児教育学科の皆さん	1月9日(土)	21

## (16) 後援事業

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
会津若松市立幼・小・中学校長会議	会津若松市教育委員期学校教育課	11月18日(水)	40
会津民俗研究会 公開講演会	会津民俗研究会	3月14日(日)	51

## (17) ライフミュージアムネットワーク事業

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
フォーラム「土地の記憶とミュージアム」	山下美晴(舞鶴引揚記念館館長) 吉岡宏高(NPO法人炭鉱の記憶推進事業団理事長) 岩名泰岳(鳥ヶ原村民芸術「密の木」)	1月24日(日)	20

## (18) 友の会事業

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
友の会講演会「はやぶさ2と福島」	出村裕英(会津大学教授)	3月13日(土)	40



歴史講座「はじめてさんの古文書講座」



自然史講座「化石博士の発掘最前線」



美術講座「刀匠が触っているのを見てみる刀剣講座」



民俗講座「いまさら聞けないこづゆのアレコレ」



防災講座「楽しいそなえ」



考古学講座「歩いて学ぶ会津大塚山古墳」



親子で楽しむワークショップ



実演「昔語り」



## (2) けんぱくミュージアムイベント

福島の文化や博物館の活動について、気軽な雰囲気の中で知っていただくための催し。県民の皆様に博物館を身近に感じてもらうことで、今まで博物館に縁遠かった人々を含め、様々な人の集う空間になるよう企画し、5件実施した。

なお、年度当初には開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止になったイベントは下記の通りである。

「玄如節と日本の民謡～民謡で旅するふくしま～」、「会津磐梯山・市民盆踊り」

### ア. 夏休みナイトミュージアム

(ア) 日 時 令和2年8月29日(土)  
17時～19時30分  
※博物館閉館後

(イ) 会 場 福島県立博物館 常設展示室

(ウ) 参加者数 47人

(エ) 講 師 学芸員

(オ) 内 容

いつもと違う雰囲気の真っ暗闇な展示室の中を、懐中電灯の光を頼りに見学する「ナイトミュージアム」は、例年人気の高いイベントである。新型コロナ感染症対策として、入館者を時間ごとの少人数制として対応した。直接の資料解説は行わずグループ毎の探索ミッションとし、関係した資料をシートにまとめて解説の代わりとした。参加者への退館時の聞き取りでは概ね良好な回答を頂いている。



夏休みナイトミュージアム

### イ. 親子で楽しむコンサート

(ア) 日 時 令和2年9月20日(日)  
13時30分～14時30分

(イ) 会 場 福島県立博物館 講堂

(ウ) 参加者数 40人

(エ) 出 演 善久(オカリナ)、  
榊原聡子(ピアノ)

### (オ) 内 容

普段は博物館になかなか来館できない子育て世代の親子に焦点を当て、小学生児童およびその保護者を対象にコンサートを開催した。子どもたちに馴染みのある選曲ながら、普段は聞く機会の少ない楽器であるオカリナの歴史や特徴について解説していただくことで、より広い意味で音楽に親しむ機会となった。



親子で楽しむコンサート

### ウ. けんぱくクリスマスコンサート

(ア) 日 時 令和2年12月13日(日)  
13時30分～15時

(イ) 会 場 福島県立博物館 講堂

(ウ) 参加者数 93人

(エ) 出 演 井上仁一郎(ギター)、  
榊原聡子(キーボード)、  
渡邊奈美(朗読)

### (オ) 内 容

普段は博物館になかなか来館できない子育て世代の親子を中心に、幅広い層を対象にしたコンサートを開催した。馴染みのあるクリスマスソングから、クリスマスに関わるスペイン民謡など、多様な選曲のコンサートとなった。また、ギターの伴奏に乗せて、佐野洋子作の『百万回生きたねこ』



けんぱくクリスマスコンサート

の朗読を行った。当館では絵本の読み聞かせも継続的に行っており、二つのイベントを接続することで、より多くのイベントがあることを周知し参加していただく機会となった。

#### エ. けんぱく映画会 アニメーション「無念」

(ア) 日 時 令和3年2月28日(日)

13時30分～14時30分

(イ) 会 場 福島県立博物館 講堂

(ウ) 参加者数 49人

(エ) 内 容

毎年恒例の映画会を講堂を会場に開催した。当初、春の企画展「ふくしまの旅」に合わせて5月23日に映画「フラガール」を上映する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となり、改めて冬の企画展「震災遺産を考える」と連動させて企画しなおした。「無念」上映終了後に、「浪江ちち牛物語」も追加で上映した。どちらも一社まち物語制作委員会による東日本大震災の記憶を伝える作品であり、来場者とともに発生から10年を振り返る機会となった。



けんぱく映画会「無念」

#### オ. 会津の彼岸獅子

(ア) 日 時 令和3年3月7日(日)

13時30分～14時30分

(イ) 会 場 福島県立博物館 講堂

(ウ) 参加者数 84人

(エ) 出 演 本滝沢獅子舞保存会の皆様

(オ) 内 容

三匹の獅子が踊る三匹獅子舞は福島県内に広く分布しているが、会津若松市周辺では春の彼岸に踊られる「彼岸獅子」として親しまれている。通常は無病息災、五穀豊稔を祈って地区ごとに舞われるが、地区外の方々にも「会津の文化」として親しんで

いただくために、彼岸に先駆けて館内での実演を開催した。また、当該団体は後継者育成のために中学生を踊り手として活動しており、当イベントは次世代への伝統芸能の継承を助ける場としても機能し始めている。新型コロナウイルス感染症の感染防止対策のため、会場を予定していたエントランスホールから講堂に移して開催した。



会津の彼岸獅子

#### (3) 学校・文化施設との連携

県内外の学校団体や文化施設主催団体との連携をはかり、次の事業を実施している。

##### ア. 展示室での自主学習(しおり・ワークシート)

新型コロナウイルス感染症の感染防止対応のため、展示室での密集を避けられるよう常設展示室を個人で見学できるワークシート(「キミだけの「たからもの」をさがそう!」)をあらたに作成し、6月の再開館時から利用していただけるようにした。同ワークシートは各校持参のしおりなどに綴じ込んで利用することができるように、当館ホームページで公開し、あらかじめダウンロードしていただけるようにしている。

##### (ア) 博物館見学のしおり(小・中学生用)

主に修学旅行などの班行動などで活用されていたワークシートであるが、新型コロナウイルス感染防止対策のため配布を中止した。班行動の児童・生徒への学習支援が課題である。

##### (イ) キミだけの「たからもの」をさがそう!

展示室内で興味をもった資料や展示品を見つけて、図やスケッチを交えながら内容をまとめるワークシートで、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点を踏まえながら個人の興味・関心に基づいて、主体的に学ぶことができる内容とした。

福島県立博物館 を見学した日： 月 日

**ミッション：博物館でキミだけの「たからもの」をさがそう！**  
 すてきなもの・かっこいいもの・ふしぎなもの…博物館には様々な「たからもの」があります。  
 その数、なんと100,000点！ このうち、展示室には約1,200点が展示されています。  
 このなかから、キミだけの「たからもの」を探し出して、みんなにおしえよう！

ミッションを完了するための方法

- ◆ステップ1 常設展示室をよく観察して、どんなものがあるのか確認しよう
- ◆ステップ2 「たからもの」の中から、キミのお気に入りの4つ探し出そう！
- ◆ステップ3 ナンバーワンの「たからもの」のデータをつくらう！

◆展示室をよく観察して、お気に入りの4つ探し出そう！  
 (わくの中に名称を書いて、見つけた場所の地図と矢印でつないでね)

れい：

赤糸おとし大よろい

このなかから、わたしが選んだナンバーワンの「たからもの」は…… (次へ)

「キミだけの「たからもの」をさがそう！」

### イ. 学習プログラム

従来から各団体のニーズに応じたきめ細かい事前相談に取り組み、幅広い年齢層に対応できるプログラム作りに工夫改善を図ってきた。新型コロナウイルス感染症の影響下にお

いても、学校団体については日常の授業と博物館の見学を効果的に結び付けることができる活動メニューを準備し、子供たちの「文化に親しむ心の醸成」の支援を継続するべく「学習講座」として再編し、講堂等でのレクチャーによる展示室案内等をおこなった。

実物資料に接することは、多様なものの見方や考え方を育む上でとても有効である。今年度は接触機会の低減を図りながら、子供たちが博物館の資料を用いながら体験学習の展開を模索した。また、幼児に向けて昨年度試行した「未就学児対応学習プログラム」のうち冬季プログラムについても、協力園の園児たちに試行した。検証を元に、今後本格実施していく予定である。

＜団体利用プログラム＞ 事前申込制、定員50名（6月～9月）→定員100名（10月～）

◆学習講座【ふくしまの歴史・地域の歴史】（30分～50分）

◆体験学習プログラム【昔の道具】（40～60分）

- ・「展示解説」については、新型コロナウイルス感染症拡大への対策から中止した。
- ・「バックヤードツアー」は学芸員養成課程にかかる大学生に限定して実施した。
- ・体験学習プログラムのうち「紙すきハガキづくり」については、接触機会の低減を試行するため、少人数グループに対して実施した。

### 令和2年度学習プログラム対応事業実施状況（学校対応・公民館対応・展示個別解説）

No.	実施日	団体名	内容	滞在時間(分)	参加人数
1	6月10日(水)	会津若松市立一箕小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」、2展開	120	130
2	6月16日(火)	会津若松市立湊小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	45	13
3	6月19日(金)	会津若松市立東山小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」、2展開	70	66
4	6月25日(木)	翔洋学園高等学校会津学習センター	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	90	27
5	7月21日(火)	会津若松市立鶴城小学校(4年)	学習講座「水と私たちの暮らし」	60	44
6	8月28日(金)	郡山市立永盛小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	60	50
7	9月1日(火)	仙台市立大沢小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	75	31
8	9月3日(木)	川俣町立川俣南小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	90	27
9	9月4日(金)	いわき市立江名小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	80	40
10	9月4日(金)	須賀川市立稲田小学校(小3)	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	120	31
11	9月8日(火)	三島町立三島中学校(中1)	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	60	10
12	9月8日(火)	猪苗代町立吾妻中学校(中1)	学習講座「保科正之と土津神社」	90	14
13	9月9日(水)	新潟市立上所小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	90	4
14	9月10日(木)	いわき市立小名浜東小学校	学習講座「戊辰戦争と会津」、2展開	120	78
15	9月10日(木)	大玉村立大山小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	60	41
16	9月11日(金)	郡山市立白岩小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	75	4
17	9月11日(金)	中島村立滑津小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	90	18
18	9月17日(木)	本宮市立白岩小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	60	31

## 令和2年度学習プログラム対応事業実施状況（学校対応・公民館対応・展示個別解説）

No.	実施日	団体名	内容	滞在時間 (分)	参加人数
19	9月18日(金)	いわき市立上遠野小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	50	31
20	9月18日(金)	加美町立東小野田小学校	学習講座「戊辰戦争と会津」	60	2
21	9月18日(金)	いわき市立草野小学校	学習講座「日新館太郎の生活」、2展開	110	79
22	9月18日(金)	いわき市立好間第一小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	60	53
23	9月18日(金)	西郷村立羽太小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	60	9
24	9月24日(木)	市貝町立赤羽小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	60	50
25	9月24日(木)	燕市立小池小学校	職業インタビュー・学芸員の仕事	90	41
26	9月24日(木)	浪江町立津島小学校	職場見学・博物館の仕事(LMN連携事業)	60	1
27	9月25日(金)	会津若松市立城北小学校(小3)	体験学習「昔の道具」	60	50
28	9月29日(火)	桑折町立伊達崎小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	90	20
29	9月30日(水)	山元町立坂元小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	90	7
30	10月1日(木)	郡山市立行徳小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	60	59
31	10月2日(金)	いわき市立高久小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	90	21
32	10月8日(木)	いわき市立郷ヶ丘小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」、2展開	120	95
33	10月8日(木)	加茂市立須田小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	50	16
34	10月8日(木)	桑折町立釀芳小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	60	49
35	10月9日(金)	いわき市立磐崎小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	60	86
36	10月14日(水)	田村市立船引小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」、2展開	60	120
37	10月15日(木)	湯川村立笈川小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	65	20
38	10月16日(金)	須賀川市立小塩江小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	90	14
39	10月16日(金)	郡山市立安子島小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	60	12
40	10月20日(火)	福島市立福島第一中学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」、2展開	120	95
41	10月21日(水)	いわき市立小名浜東小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	60	79
42	10月23日(金)	東日本国際大学附属昌平高等学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」、2展開	80	173
43	10月27日(火)	会津若松市立東山小学校	あいづっこ人材育成プログラム「雪国会津の暮らし」	60	44
44	10月28日(水)	いわき市立綴小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	60	10
45	10月28日(水)	白河市立信夫台第一・第二・大屋小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	90	38
46	10月30日(金)	南会津町立伊南小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	120	7
47	10月30日(金)	泉崎村立泉崎第二小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	90	36
48	11月5日(木)	郡山市立高瀬小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	80	48
49	11月5日(木)	伊達市立大田小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	60	15
50	11月10日(火)	猪苗代町立翁島小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	60	9
51	11月10日(火)	福島市立杉妻小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」、2展開	60	121
52	11月11日(水)	仙台市立高砂小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	70	74
53	11月11日(水)	福島市立清水小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	60	80
54	11月12日(木)	会津ザベリオ学園小学校	学習講座「戊辰戦争と会津」	90	22
55	11月25日(水)	喜多方市立第三小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	90	18
56	11月27日(金)	いわき市立勿来第二中学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	120	26
57	11月27日(金)	郡山市立湖南小中学校(5・6年)	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	90	35
58	12月17日(木)	湯川村立勝常小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	60	14
59	1月20日(月)	会津若松市立川南小学校(3年生)	体験学習「昔の道具」	75	17
60	1月20日(水)	石巻市立広淵小学校	学習講座「ふくしまの歴史・地域の歴史」	80	19
61	1月29日(金)	福島県立葵高等学校	テレプレゼンス・ロボットの見学	90	12
62	2月9日(火)	会津若松市立湊小学校	体験学習「昔の道具」	60	13
63	2月18日(木)	会津若松市立行仁小学校	体験学習「昔の道具」	60	49
64	2月26日(金)	会津慈光こども園	雪踏み体験	60	48
65	3月2日(火)	会津若松市立謹教小学校	体験学習「昔の道具」	60	51
			学校・公民館・各種団体合計(2,647)		

### ウ. 指導者向け研修

今年度は「新型コロナウイルス対策に留意した団体学習」をテーマに、学校教育・生涯教育関係者を対象に博物館利用指導者研修会を実施した。令和2年8月4日(火)に22名の参加者による実施。博物館のもつ多様な学習プログラムをお伝えすることで当館の学習支援活動の、学校や公民館における活用の推進を図った。ワークショップを実施する予定であったが、接触機会の低減をはかるために講義中心とした。

#### 令和2年度 博物館を活用した教育プログラム研修会

時間	内容	場所
13:00～13:10	開会挨拶	講堂
13:10～14:05	講座「新型コロナウイルス対策に留意した団体学習」	
13:35～14:05	ワークショップ「〈昔の道具〉を使った学校教育と公民館活動」	
14:20～14:50	講座「日新 館太郎に聞く！会津藩校日新館の日常」	
15:40～15:55	活動紹介「福島こども芸術計画」	
15:55～16:00	閉会挨拶	

### エ. 学習用具・教材等の貸出

学校での授業づくりや生涯教育関連施設における活動等を支援するため、考古・歴史・民俗・自然の各分野で学習用具・教材等の貸出を行っている。

○学習用具・教材等の貸出実績はなかった。

### オ. ゲストティーチャー

当館学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、学校等教育機関の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当している。

令和2年度の実施回数は11回で、参加者は1,197人であった。

#### ゲストティーチャー実施一覧

No.	月 日	講 師	分野	内 容	実施先	科 目	受講者数
1	8月28日	阿部綾子	歴史	戊辰戦争についての講話	会津若松市立東山小学校	6学年 総合的な学習の時間	62
2	9月1日	小林めぐみ	美術	地域に根差す日本の伝統文化を学ぶ(会津型と日本の文様)	会津若松市立第二中学校	2学年 美術	82
3	9月2日	筑波匡介	震災	いのちを守る学習①	下郷町立江川小学校	全校生徒 総合的な学習の時間	54
4	9月10日	筑波匡介	震災	東日本大震災の惨状を理解する資料の見学と講話(震災遺産講座)	喜多方市立第一中学校	1・2学年 防災学習会	157
5	10月12日	筑波匡介	震災	いのちを守る学習②	下郷町立江川小学校	全校生徒 総合的な学習の時間	54
6	10月29日	弦巻優太 猪瀬弘瑛	自然	「大地のつくり」「変わり続ける大地」	会津若松市立湊小学校	6年生 理科	11
7	11月11日	筑波匡介	震災	地域合同防災訓練での体験コーナーでの指導	喜多方市立第一中学校	全校生徒 総合的な学習の時間	263
8	11月12日	筑波匡介	震災	あいづっこ人材育成プロジェクト事業「地域から学ぶ」防災学習「震災遺産を考える」	会津若松市立第二中学校	全校生徒 総合的な学習の時間	259
9	12月10日	筑波匡介	震災	授業参観を機会に、生徒保護者にも防災・減災の知識を身に付けさせる。	只見町立只見中学校	1・2学年、保護者 総合的な学習の時間 (授業参観)	99
10	2月24日	筑波匡介	震災	企画展震災遺産を考える展示解説	会津若松市立第二中学校	2年生 総合的な学習の時間	86
11	3月5日	筑波匡介	震災	震災遺産から考える防災教育	会津美里町立高田中学校	3年生 総合的な学習の時間	70
受講者数合計							1,197

### カ. 職場体験

児童・生徒の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成に寄与すべく、職場体験を受け入れている。令和2年度は1校からの要請があり、当館における業務を幅広く体験してもらった。また仕事そのものだけでなく職員の働く気持ちや生き方についても伝えられるように意識して対応することを心掛けた。

○職場体験受け入れ実績（生徒のみ）

- ・三島町立三島中学校  
（2年生：1名） 2日間

後日当館公式YouTubeで公開した。

実習期間 8月25日（火）～8月30日（日）

### 実習生所属大学一覧

No	大学名	人数
1	帝京大学	2
2	淑徳大学	1
3	山形県立米沢女子短期大学	1
4	国土館大学	1
5	昭和音楽大学	1
6	日本女子大学	1
合 計		7

### キ. 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習を実施している。令和2年度は県内出身および県内大学に在学する学生7名を受け入れた。演習では、「新型コロナウイルス禍において博物館に来館できない方に博物館・美術館からの学び楽しさをどのように伝えることができるか」というテーマで動画作成を行った。動画の内容考案、準備、撮影を実習生が行ったことで資料についての知識を深め、資料をよりわかりやすく伝える技術を培い、企画力・発信力の育成につながった。制作した動画は、



令和2年度博物館実習の様子

### 福島県立博物館 令和2年度博物館実習日程・内容

月日	時 間	内 容	担 当	場 所	
8月 25日	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	実習担当(弦巻・山本・筑波)	第2会議室	
	9:00～ 9:10	実習生紹介	実習担当(弦巻・山本・筑波)	事務室	
	9:10～ 9:40	オリエンテーション	実習担当(弦巻・山本・筑波)	第2会議室	
	9:40～10:30	福島県立博物館の概要	副館長	第2会議室	
	10:30～11:15	博物館の企画運営・展示	企画推進班(内山)	第2会議室	
	11:15～12:00	博物館の資料と調査研究	企画推進班(内山)	第2会議室	
		－昼食－			
	13:00～16:00	施設・設備の見学 導線調査	実習担当(弦巻・山本・筑波)		
	16:00～16:40	動画作成について(趣旨説明など)	実習担当(弦巻・山本・筑波・原)	第2会議室	
16:40～17:00	実習日誌の作成・提出	実習担当(弦巻・山本・筑波)	第2会議室		
26日	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	実習担当(弦巻・山本・筑波)	第2会議室	
	9:00～12:00	歴史資料の取り扱い	歴史分野(高橋充・阿部・栗原・佐藤洋)	第2会議室	
		－昼食－			
	13:00～16:00	考古資料の取り扱い	考古分野(高橋満・山本・平澤・田中)		
	16:00～16:40	動画作成について	実習担当(弦巻・山本・筑波・原)	第2会議室	
16:40～17:00	実習日誌の作成提出	実習担当(弦巻・山本・筑波)	第2会議室		
27日	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	実習担当(弦巻・山本・筑波)	第2会議室	
	9:00～12:00	自然資料の取り扱い	自然分野(猪瀬・弦巻・相田)	実習室	
		－昼食－			
	13:00～16:00	民俗資料の取り扱い	民俗分野(大里・内山・江川・山口)	第1収蔵庫	
	16:00～16:40	動画作成について	実習担当(弦巻・山本・筑波)	第2会議室	
16:40～17:00	実習日誌の作成提出	実習担当(弦巻・山本・筑波)	第2会議室		

福島県立博物館 令和2年度博物館実習日程・内容

月日	時間	内容	担当	場所
28日	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	実習担当(弦巻・山本・筑波)	第2会議室
	9:00～12:00	美術資料の取り扱い	美術分野(小林・塚本・原・川延)	第2会議室
	—昼食—			
	13:00～15:30	資料の保存	保存科学分野(杉崎)	実習室
	15:30～16:40	動画作成について	実習担当(弦巻・山本・筑波)	第2会議室
16:40～17:00	実習日誌の作成提出	実習担当(弦巻・山本・筑波)	第2会議室	
29日	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	実習担当(弦巻・山本・筑波)	第2会議室
	9:00～12:00	震災遺産について	震災遺産チーム	
	—昼食—			
	13:00～14:30	図書資料の取り扱い	長澤・相田	第2会議室
14:30～16:40	動画作成	実習担当(弦巻・山本・筑波)		
16:40～17:00	実習日誌の作成・提出	実習担当(弦巻・山本・筑波)	第2会議室	
30日	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	実習担当(弦巻・山本・筑波)	第2会議室
	9:00～12:00	動画作成	実習担当(弦巻・山本・筑波)	第2会議室
	—昼食—			
	13:00～15:30	博物館動線調査 or 動画作成	実習担当(弦巻・山本・筑波)	
	15:30～16:15	実習日誌の作成・提出	実習担当(弦巻・山本・筑波)	第2会議室
	16:15～17:00	まとめ 実習を終えて(感想・意見交換)	実習担当(弦巻・山本・筑波)	第2会議室

(4) 生涯学習・研究支援・家庭教育

ア. 相談コーナー

相談コーナーは、学芸員が来館者からの質問や相談に答えたり、来館者が自発的に学習したりするためのスペースとしてエントランスホールの一隅に設置されている。相談コーナーには展示図録・報告書・紀要など当館の刊行物、および博物館資料に関連した図書を配架している。図書は図鑑・事典類、調べ学習への対応、見て楽しむ本の3項目を重視して選定し、来館者が自由に閲覧できる。現在の配架図書数は2,713冊である。

本年度は新型コロナウイルス感染症対策の実施により、相談コーナーの運用も例年とは大きく異なるものとなった。

4月21日～5月15日の間は博物館が臨時休館となった。5月16日に再開したが、この日から6月30日までの間は相談コーナーを閉鎖し、利用が中止された。

7月1日に相談コーナーの利用を再開した。その際、利用済み図書の返却箱を設け、利用者に対して、利用した図書はもとの書架に戻さず、返却箱に入れていただくよう表示で促した。返却箱に入れられた図書は、毎日閉館後に箱ごと図書室へ運び、最低でも24時間のウィルス不活性化時間を経たのちに相談コーナーの書架へ戻すこととした。これらの作業には、主として図書担当資料整理員(司書)

が当たった。

なお、返却箱へ返却された図書の月別冊数を表に示す。また、返却箱を利用した不活性化処置は令和3年度も継続する予定である。

相談コーナー図書返却箱に返却された図書の月別冊数 (令和2年7月～令和3年3月)

月	開館日数	返却冊数
7	27	50
8	27	115
9	27	94
10	27	126
11	25	92
12	23	23
1	24	52
2	22	34
3	26	64
計	228	650

イ. 資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し、実施している。

分野別特別観覧件数：

考古：4件55点 歴史：9件143点

民俗：2件8点 震災遺産：1件32点

計16件238点

### ウ. 講師派遣

大学や公民館、研究団体などからの依頼に応じて、学芸員を講演会や講座に講師として派遣している。

令和2年度の派遣回数は23回で、参加者は991人であった。

### エ. 未就学児連携事業

多様な利用者層に対応したプログラムの開発として、昨年度協力園の園児たちに試行したプログラムを、今年度はさらに検証の上本格的に実施していく予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大している状況を鑑み、本格的な実施を中止し、これまで未実施だった冬季のプログラムを協力園と試行することとし、「雪ふみ俵とカンジキ体験」を行った。



雪ふみ俵とカンジキ体験

### オ. 子育て世代対応事業

「博物館でもよみきかせ」「親子で探検！博物館のウラ側」「子どもミニミニ博物館」を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大している状況を鑑みいずれも中止した。その代替として「親子で楽しむワークショップ」を実施した。読み聞かせボランティア団体として連携している会津大学短期大学部幼児教育学科の先生と学生と打合せを重ね、感染拡大防止がとれる内容を考案し下記の通り実施した。

#### 第1回目

令和2年8月13日(木)・14日(金)「病魔退散！みんなの力でアマビエづくり」

令和2年8月15日(土)「シャボンで描こうすずしいうちわ」

\*場所：体験学習室・前庭 各日6回実施  
定員：各回5グループ 実施時間：20分

#### 第2回目

令和2年9月21日(月・祝)「大きな○○をつくってコロナをふきとばそう！」

\*場所：体験学習室 6回実施 定員：各回5グループ 実施時間：20分

#### 第3回目

令和3年1月9日(土)「アレ・コレ・コラージュ おめんづくり～ガラクタをつかってor 自然物をつかって～」

\*場所：体験学習室 2回実施 定員：各回5グループ 実施時間：30分



親子で楽しむワークショップ  
—病魔退散！みんなの力でアマビエづくり



## 講師派遣一覧

No.	月日	講師	分野	演題・内容等	主催	参加者
1	9月11日	川延安直	美術	江戸時代の絵画	まちなかコンシェルジュ勉強会	14
2	9月16日	筑波匡介	震災	防災教育「震災遺産講座」	国立磐梯青少年交流の家	48
3	9月18日	高橋充	歴史	お城の話	まちなかコンシェルジュ勉強会	20
4	9月21日	高橋充	歴史	蒲生氏郷 歴史講演・座談会	会津まつり協会	108
5	9月25日	川延安直	美術	江戸時代の会津の絵画	まちなかコンシェルジュ勉強会	10
6	9月30日	高橋充	歴史	福島県の城・町・博物館	福島県立医科大学	15
7	10月7日	内山大介	民俗	医療と民俗Ⅰ 妊娠と出産	福島県立医科大学	15
8	10月14日	内山大介	民俗	医療と民俗Ⅱ 死と葬送	福島県立医科大学	15
9	10月18日	高橋充	歴史	会津の経塚についてー松野千光寺経塚を中心にー	喜多方市中央公民館	54
10	10月21日	筑波匡介	震災	自ら考え、家族と共有して防災力を上げる児童の育成	下郷町立江川小学校	28
11	10月21日	猪瀬弘瑛	自然	化石の宝庫・福島県	福島県立医科大学	15
12	10月25日	筑波匡介	震災	記憶／記録の検証とこれからの10年	みやぎボイス連絡協議会 (一社)日本建築学会災害委員会 他	203
13	10月27日	筑波匡介	震災	防災講座「楽しいそなえ」～震災遺産から学ぶ～	あいづわくわく学園	24
14	11月6日	筑波匡介	震災	防災講座「楽しいそなえ」～震災遺産を考える～	会津若松市生涯学習総合センター	9
15	11月8日	筑波匡介	震災	六中生防災ワークショップ、ミニ防災講座	会津若松市北公民館	25
16	11月13日	平澤慎	考古	会津の古墳時代	まちなかコンシェルジュ勉強会	16
17	11月17日	塚本麻衣子 江川トヨ子	美術 民俗	仏像のキホン・見方のおすすめ いまさら聞けないこづゆのアレコレ	昭和村公民館	23
18	11月18日	高橋満	考古	蒲生氏郷と若松城下町の誕生	会津若松市区長会	138
19	11月18日	筑波匡介	震災	震災遺産を考える	福島県高等学校新聞連盟県大会	80
20	11月20日	川延安直	美術	江戸時代の会津の絵画	まちなかコンシェルジュ勉強会	17
21	1月8日	塚本麻衣子 高橋充	美術 歴史	日本遺産会津の三十三観音めぐりの醸成	極上の会津プロジェクト協議会	45
22	1月23日	平澤慎	考古	灰塚山古墳がつくられたころー古代喜多方の謎に迫るー	喜多方市中央公民館	50
23	3月19日	高橋充	歴史	蒲生氏郷と若松の城・町の誕生	大人の休日倶楽部趣味の会	19
参加者数合計						991

## (5) 動画の作成と配信

今年度、初の試みとして、学芸課連携交流班広報担当を中心に動画の制作を行った。年度当初は当館FacebookおよびTwitterに動画を直接アップロードして公開していたが、5月からは動画共有サービスYouTube公式チャンネルの運用を開始し、YouTube上に動画をアップロードし、WebサイトやSNSで公開情報を発信した。

内容としては、当館の常設展等を素材とした子ども向け学習コンテンツの「こどもけんぱくちゃんねる」シリーズや、美術講座の代替となる「にちようはくぶつかん」シリーズ、また企画展と連動した「会津のSAMURAI文化×なんばん先生」シリーズ等を制作・公開するとともに、博物館実習生が演習で制作した動画や、特

別講座の記録動画、ライフミュージアムネットワーク関連動画（制作：ライフミュージアムネットワーク実行委員会、福島県立博物館事務局）を公開した。なお、「会津のSAMURAI文化×なんばん先生」では、館内での動画撮影だけでなく、一般財団法人会津若松観光ビューローとの連携で御薬園や茶室麟閣での撮影、また会津若松弓道会の協力により鶴ヶ城公園弓道場での撮影を行った。

YouTube当館公式チャンネルでは、令和2年度中に50本の動画を公開、チャンネル登録者数は年度末までに182人、合計視聴回数は10,006回であった。動画制作は、コロナ禍で来館しづらい状況が続く中、自宅でも楽しみながら学べる機会を提供しようというねらいのもとに開始さ

れたものであった。しかしながら、動画を公開することにより、県外など遠隔地の方にも当館に触れる機会を提供できること、静止画像よりもわかりやすく資料紹介ができること、学芸員が出演することで当館により親しみを持ってもらえることなど、博物館の新たな情報発信ツール、教育普及ツールとしての可能性がひらけたという側面があった。

一方で、動画を館内で自主制作する場合、編集作業に時間がかかることから、学芸員の他業務との兼ね合いもあり数多くは制作できない。動画公開を博物館の情報発信手段として定着させていくためには、たとえば編集作業が比較的容易な短い動画をコマース的に発信していくなど、動画公開計画を工夫していく必要がある。

## (6) 博物館友の会活動への支援

当館は、福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して広報紙「なじよな」の送付、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等、研究活動の支援などを行っている。

### ア. 友の会の概要

①発足 平成元年3月10日

②設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

③総会の開催

令和3年3月13日(土)に開催した。令和2年度の事業・会計決算報告と令和3年度の事業・予算案を審議し、承認された。また、各サークルの活動報告が行われた。

④令和2年度会員数

個人会員：119 家族会員：28

高校生会員：0 賛助会員：4 合計：151

### イ. 令和2年度事業概要

#### (ア) 講演会等の開催

##### ○奥州仕置フォーラムの開催

夏の企画展「会津のSAMURAI文化」の関連事業として、博物館との共催で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となった。

##### ○総会開催時講演会の開催(オンライン開催)

日時：令和3年3月13日(土)14:30

講師：公立大学法人会津大学教授  
宇宙情報科学研究センター長  
出村裕英氏

演題：はやぶさ2と福島

会場：博物館講堂

来場者：40名

#### (イ) 研修旅行

今年度実施を計画していた研修旅行は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で中止となった。

#### (ウ) 会報の発行

第122号・第123号の会報を発行し会員に配布した。鈴木晶新館長のご挨拶、企画展内覧会に参加された会員から寄せられた貴重なご意見などを掲載した。

#### (エ) 博物館事業への協力

##### ○博物館展示観覧

##### ○友の会会員向け企画展内覧会への参加

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、参加申し込み・定員制とし、展示室での解説は行わず、講堂での解説、展示室での自由観覧という開催形態をとった。

7月31日(金)「会津のSAMURAI文化」

29名参加

10月9日(金)「発掘された日本列島2020」

17名参加

1月15日(金)「震災遺産を考える」

10名参加

##### ○博物館講座への協力

博物館の各種講座へ多くの会員が参加した。



企画展「会津のSAMURAI文化」内覧会のようす

福島県立博物館友の会  
講演会『はやぶさ2と福島』

2021（令和3）年  
3/13（土）

総会：13:30～14:20 ※開場：13:00  
講演会：14:30～16:00 ※聴講無料  
★講演会は、オンライン開催となる予定です。

◇会場 福島県立博物館講堂  
◇講師 公立大学法人会津大学教授  
宇宙情報科学研究センター長  
出村 裕英氏

◇定員 100名（要申込）  
※友の会会員60名 一般40名  
電話（0242-28-6000）または博物館受付カウンター  
でお申込みください。  
※2/13より受付開始  
共催：福島県立博物館



○新型コロナウイルス感染症の状況により予定が変更になる可能性もあります。予めご了承ください。  
○ご参加の際は、マスクの着用と検温にご協力ください。  
○当日、体調に不安のある場合は参加をご遠慮ください。



イラスト 池下幸尚  
お問い合わせ：福島県立博物館友の会事務局（福島県立博物館内）  
☎ 0242-28-6000

福島県立博物館友の会  
令和2年度総会

講演会「はやぶさ2と福島」の広報チラシ

ウ. サークル活動

化石・鉱物探検隊、古文書愛好会の2サークルが、それぞれの目的に向かって積極的に活動している。サークルごとに主体的に計画し、自立した活動となっている。また、今年度は新たなサークル設立へ向けた動きも現れ、そのための検討も行われた。

(ア) 化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成11年に設立された。会員数35名。野外での巡検や化石・鉱物の採集、研修会等の活動を行っており、博物館の行事にも随時協力している。

令和2年度は次の活動を行った。

- ① 7月18日・26日 成果展搬入・展示準備
- ② 8月1日 化石・鉱物探検隊ミニ成果展  
～9月11日
- ③ 9月27日 田代鉱山・（重晶石・閃亜鉛鉱・オパール他）
- ④ 10月18日 真米鉱山（磁硫鉄鉱・硫砒鉄鉱・螢石）
- ⑤ 12月6日 化石・鉱物学習会
- 令和3年
- ⑥ 3月7日 総会 研修会

(イ) 古文書愛好会

平成14年度に発足した古文書愛好会は随時20～25名が参加し、活動を続けてきた。メンバーは5つの班に分かれ、チームを組んで古文書の解説・考察にあたっている。テキストには当初から県指定文化財の築田家文書（福島県立博物館寄託）を使用している。築田家は江戸時代に若松城下の検断（町役人）を務めた家で、その文書は城下の様子を伝える良質な資料であり、解説を通して少しずつ会津藩の歴史についての知見を深めている。令和2年度は前年度から解説を続けてきた会津藩の江戸産物会所にかかわる記録「御国産一件壺」を読み終え、続けて「御国産一件 式」を読み進め、会津藩の産物の流通について学んだ。

令和2年度の活動人数は18名で、前年度に引き続き毎月第2土曜日の午前中に開催し、班ごとに順番に発表を行い、毎回最後に文字・内容の検討を行った。なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点より上半期は活動を休止し、10月より活動を再開した。会場は例年の実習室より広い講堂でコロナ対策を取りながら行った。



友の会化石・鉱物探検隊学習会の様子



古文書愛好会例会

## 6. 広報公聴活動および出版事業

### (1) 広報活動

#### ア. 広報用印刷物

博物館の広報を目的とする印刷物は下記一覧表の通り発行した。

令和2年度は、新広報媒体として「なじよな」の配布をはじめた。「なじよな」は「どんな」を意味する方言で、展示の魅力やイベント紹介、最新ニュースやおすすめ情報・スタッフ紹介など、博物館をより身近に感じ、「次はどんな？」と楽しみにしていただけるよう命名した。今後「なじよな」は、年度当初の特別号（令和2年度はイベント案内号）

の他、展示やイベントの多寡に応じて2・3ヶ月に一回の発行を予定している。令和2年度は、2020年8・9月号（2号）、10・11月号（3号）、12・1月号（4号）、2021年2・3月号（5号）、4～6月号（6号）、2021特別号の6回分を発行した。なお2020年の4～6月までは従来の「博物館だより」で情報発信し（136号・最終号）、7月については新型コロナウイルス感染症の影響による夏の企画展の会期変更・イベントの中止に伴い広報を見送った。

福島県立博物館 令和2年度 広報用印刷物の印刷部数と送付先

種類	サイズ	印刷数	主な送付先
ポスター	B2	企画展「会津のSAMURAI文化」1,500枚 企画展「発掘された日本列島2020」2,500枚 企画展「震災遺産を考える～次の10年へつなぐために」3,000枚 次年度企画展「会津の絵画」3,000枚	県内小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 博物館友の会会員（町貼り協力者） 県内市町村教育委員会 会津方部 県出先機関 県教育事務所
リーフレット	A4 「震災遺産を考える」はA3 二つ折り	企画展「会津のSAMURAI文化」20,000枚 企画展「発掘された日本列島2020」40,000枚 企画展「震災遺産を考える～次の10年へつなぐために」30,000枚 次年度企画展「会津の絵画」40,000枚	県内および近県の新聞社・放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 博物館友の会会員（町貼り協力者） 県内市町村教育委員会 会津方部 県出先機関 県教育事務所 その他、福島民友・福島民報への新聞折込み（会津若松市内の購読世帯）
新広報物『なじよな』 2号～6号、2021特別号	A2 4つ折り	20,000枚×6回=120,000枚	県内の放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 県内市町村教育委員会 会津方部 県出先機関 県教育事務所
年間催し物案内	22.0×40.0cm 観音折り	45,000枚×1回=45,000枚	県内の放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 県内市町村教育委員会 会津方部 県出先機関 県教育事務所
プレス・リリース (企画展の記者発表などマスコミ向けイベント情報の提供)	A4 (館内印刷)	随時	県内新聞社・放送局・タウン情報誌 場合により近県のマスコミに提供 県政記者クラブ 会津若松市記者クラブ



うぶつの森」(以下「あつ森」)では、オリジナルの絵や模様をデザインして、壁紙、家具、衣装などに使用できる「マイデザイン」という機能があり、国内外の美術館・博物館が収蔵資料等の画像をマイデザイン用にドット絵に変換してデータを公開している。「あつ森」のマイデザイン公開は県内の公立文化施設では初の試みということもあり、まず県教育委員会(教育庁)社会教育課や県総務部広報課に確認・調整を行った。技術面では、すでにマイデザインを公開していた県外の公立文化施設から情報収集をした上でデータを作成し、公開に至った。

7月に公開した「#あつ森で飾ろう」第1弾では、「ふくしまの郷土玩具」をテーマに、会津の赤べこや起き上がり小法師をはじめ、当館収蔵の福島県内の郷土玩具から10点(+当館シンボルマーク1点)の画像データのQRコードを公開した。公開に際して、同時期に開催していた当館ミニ展示「行こう!ふくしまの博物館 第4回 三春郷土人形館所蔵郷土玩具展」を合わせて紹介した。

10月に公開した第2弾では、「ふくしまのはにわ ~原山1号墳」をテーマに、秋の企画展「発掘された日本列島2020」に合わせて、当館収蔵資料の中から、泉崎村の原山1号墳出土のはにわ8点(+おまけのデータ1点)をピックアップし、画像データのQRコードを公開した。

当館の「#あつ森で飾ろう」は、ゲーム用データを公開するだけでなく、それぞれの資料の解説文も掲載しているのが特徴で、福島県の文化や歴史について、楽しみながら学べる内容となっている。

公開後、人気のゲームソフト関連のコンテンツということで新聞やネットニュースを中心に注目され、SNS上では「あつ森」プレイヤーが当館のマイデザインを実際に利用したゲーム画像を投稿するなどの反響があった。「#あつ森で飾ろう」は、ゲーム用のコンテンツとしてだけでなく、広報活動や資料紹介の一環としての効果が得られる取り組みとなった。

今年度のもう一つの新たな取り組みとして、360度カメラを活用した展示室内の紹介を行った。360度カメラはこれまでも震災遺産関連の調査で使用されていたが、これを広報にも利用しようという試みである。360度カメラRICOH THETAで撮影した画像を館内から専用ページ(<https://theta360.com/users/361391>)にアップロードできるようネットワーク設定を整え、アップロードした360度画像については当館ホームページやSNSで情報発信をした。今年度

は企画展「発掘された日本列島2020」で6点、「震災遺産を考える」で3点の画像を公開した。専用ページ上では閲覧者も画像を回す操作をしながら会場の様子を見ることができ、今後多方面での活用が期待できるコンテンツである。

令和2年度ホームページアクセス件数(ページ数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
16,294	18,898	24,630	35,838	37,542	34,826
10月	11月	12月	1月	2月	3月
31,711	22,209	14,046	23,106	19,549	25,612
合計					
30,4261					

#### オ. ソーシャル・ネットワーキング・サービス

当館ではより身近で親しみやすいかたちでの広報活動を目指し、ソーシャル・ネットワーキング・サービスを活用した広報を行っている。平成27年度末(3月25日)より「Facebook(フェイスブック)」の公式ページ(<https://www.facebook.com/fukushimamuseum/>)を公開しているほか、新たに平成30年7月4日からは「Twitter(ツイッター)」の公式ページ(<https://twitter.com/fukushimamuseum>)を公開した。

令和2年度末時点でのFacebookの投稿件数は262回(前年度より35件増加)、フォロワー数は1,248件(同113件増加)であった。Twitterの投稿件数は280件(前年度より29件減少)、フォロワー数は1,507件(同340件増加)であった。Twitterの投稿件数が減少したのは、前年度にTwitterでシリーズ投稿していた資料紹介の一部を、YouTube動画での紹介に切り替えたことによる。

#### カ. 記事・放映

当館では、令和元年7月より、喜多方シティエフエム株式会社との協力によりラジオ番組「けんぱく徒然語り」を放送。毎週日曜日9時~9時30分の30分番組として、福島県立博物館からのおすすめの情報、福島に関することなどを学芸員やテーマに応じた特別ゲストとご紹介している。令和2年度は、52回の放送を行った。

また、新聞・雑誌・テレビ・ラジオ・インターネット等の取材に基づいた記事・放映等は次のとおりである。

#### (ア) 春の企画展「ふくしまの旅 -懐かしの景色を訪ねて-」関連

・福島民友新聞社/YouTube動画 みんなのミュージアム散歩(5月18日公開)

- ・福島民報／「新しい日常」一歩ずつ 緊急事態解除後、初の週末 人出戻り始める 各施設、予防対策万全に（5月17日記事）
- ・福島民報／県立博物館の企画展「ふくしまの旅」県内の風情伝える 明治～昭和の資料紹介（5月18日記事）
- ・福島民報／県立博物館企画展「ふくしまの旅」鉄道や観光 歴史紹介 展示内容の動画配信 福島民報新聞チャンネル（5月21日記事）
- ・福島民報／福島民報ナビTime ふくしまの旅 懐かしの風景を訪ねてー（6月4日記事）
- ・ラジオ福島／ラジオ福島「人街ネットふくしま」、ふくしまFM（6月6日放送）
- ・福島民報／福島県立博物館、26～28日まで企画展解説会や講座（6月7日記事）
- ・朝日新聞／展示品からたどる懐かしの福島の旅 28日まで県立博物館（6月25日記事）
- ・福島民報／どこいこ おでかけスポット情報（6月26日記事）
- ・福島民報／本県の鉄道史紹介 県立博物館「旅」企画展 温泉や観光地も解説（6月30日記事）

#### （イ）夏の企画展「会津のSAMURAI文化ー蒲生氏郷と藩士たちの文武ー」関連

- ・福島民報／氏郷の国宝・短刀を公開 来月1日から武家文化展（7月8日記事）
- ・福島民報／サムライ文化きょう開幕 県立博物館 名刀50年ぶり展示（8月1日記事）
- ・福島民報／きょうから8月 侍文化、夏の桜枝岐歌舞伎…（8月1日記事）
- ・福島民報／「会津のSAMURAI文化」開幕 来月22日まで県立博物館（8月2日記事）
- ・福島民報／侍の“魂”堪能 県立博物館 初の日曜日 歴史ファンら来場（8月3日記事）
- ・福島民報／国宝の短刀注目 武家文化紹介 蒲生氏郷に焦点（8月9日記事）
- ・福島民報／1590人目に佐藤さん（郡山）若松県博のサムライ文化展（8月13日記事）
- ・福島民報／日本刀の魅力紹介 県立博物館 刀匠藤安さん解説（8月18日記事）
- ・福島民報／侍文化展 入場3000人 県立博物館（8月23日記事）
- ・福島民報／会津のSAMURAI文化展ー文武をたどる 上 若松城の石垣に光（8月30日記事）
- ・福島民報／会津のSAMURAI文化 後期展が開幕（9月2日記事）
- ・ラジオ福島／「レディ・オン」（9月3日放送）
- ・福島民報／鶴ヶ城の石垣「検証」県立博物館企画展で講座（9月6日記事）
- ・福島民報／会津のSAMURAI文化展ー文武をた

- どる 下 「煙草盆」に能の演目（9月6日記事）
- ・福島民報／侍文化展 入場5000人 県立博物館 佐々木さんに記念品（9月15日記事）
- ・福島民報／県立博物館の侍文化展 閉幕まで1週間（9月16日記事）
- ・福島民報／会津のSAMURAI文化 あすまで県立博物館（9月21日記事）
- ・福島民報／「侍文化展」きょう閉幕 県立博物館（9月22日記事）
- ・福島民報／「会津のSAMURAI文化」閉幕 若松の県立博物館（9月23日記事）

#### （ウ）秋の企画展「発掘された日本列島2020」関連

- ・福島民報／10月10日から県立博物館 若松で遺跡発掘調査巡回展（6月9日記事）
- ・福島民報／見どころ解説 上 県内の古墳時代に焦点 灰塚山（喜多方）の出土品初公開（9月27日記事）
- ・福島民報／見どころ紹介 上 全国の出土品400点終結（9月30日記事）
- ・福島民報／見どころ解説 下 地域文化写す出土品 近年注目の遺跡紹介（10月2日記事）
- ・福島民報／見どころ紹介 下 県内古墳時代に焦点 灰塚山（喜多方） 縦櫛に注目（10月7日記事）
- ・福島民報／全国60遺跡の発掘調査の成果一堂に新発見考古速報展 あす開幕（10月9日記事）
- ・福島民報／全国の埋蔵文化財集結 若松「発掘された日本列島」あす開幕（10月9日記事）
- ・福島民報／発掘された日本列島展 若松できょう開幕（10月10日記事）
- ・福島民報／新発見考古速報展きょう開幕 造形美を堪能 来月15日まで県立博物館（10月10日記事）
- ・福島民報／全国遺跡調査成果一堂に 若松「発掘された日本列島展」開幕（10月11日記事）
- ・福島民報／400点の出土品並ぶ 県立博物館の新発見速報展 文化庁調査官が講演（10月11日記事）
- ・福島民報／若松「発掘された日本列島」展 土器、埴輪に地域性 文化財調査官が講演（10月13日記事）
- ・福島民報／県立博物館の新発見考古速報展 ファン展示見入る（10月13日記事）
- ・ラジオ福島／県内催事告知（10月14日放送）
- ・福島民報／どこいこ おでかけスポット情報 話題の場所（10月16日記事）
- ・NHK福島／ニュース645（10月18日放映）
- ・福島放送（10月20日放映）

- ・福島テレビ（10月21日放映）
- ・福島民報／家族連れらが見入る 福島県立博物館の新発見考古速報展 開幕から1週間（10月18日記事）
- ・福島中央テレビ／昼のニュース 発掘された日本列島2020について（10月23日放映）
- ・福島民報／発掘された日本列島2020 来館者2020人に（10月25日記事）
- ・福島民友／縄文土器には地域性 県立博物館「発掘された日本列島展」学芸員みどころ解説（10月26日記事）
- ・Japaaan／考古学ファン必見♪「あつまれどうぶつの森」で使える埴輪や土器のマイデザインを福島県立博物館が公開（10月30日記事）
- ・福島民友／県立博物館「あつ森」飾ろう 埴輪画像の提供開始 開催中企画展に合わせ（11月1日記事）
- ・福島民報／会津地方の古墳解説 若松で日本考古展関連講演（11月1日記事）
- ・福島民友／県立博物館で講演会 灰塚山古墳出土の櫛を解説（11月2日記事）
- ・福島民報／人気ゲーム「あつまれ どうぶつの森」県立博物館 埴輪データ提供（11月3日記事）
- ・福島民友／埴輪表現方法に地域性 県立博物館「発掘された日本列島」古墳の副葬品解説（11月5日記事）
- ・福島民友／窓 県立博物館 充実した企画展（11月7日記事）
- ・福島民友／大塚山古墳の歴史学ぶ 現地も訪れ様子を確認（11月8日記事）
- ・福島民報／「発掘された日本列島2020」展 来館5000人に 佐藤さん（若松）に記念品（11月12日記事）
- ・福島民友／来場者5000人突破 佐藤さん（若松）に記念品「発掘された日本列島2020展」（11月12日記事）
- ・福島民友／若松の企画展あす閉幕「発掘された日本列島2020」（11月14日記事）
- ・福島民報／新発見考古学速報展あす閉幕 熱心なファン集う（11月14日記事）
- ・福島民報／県立博物館の新発見考古速報展きょう閉幕（11月15日記事）
- ・福島民友／「発掘された日本列島」閉幕（11月16日記事）
- ・福島民友／「発掘された日本列島」閉幕 先人の歩み理解 県立博物館（11月16日記事）
- （エ）冬の企画展「震災遺産を考える 一次の10年へつなぐためにー」関連
  - ・NHK福島放送局（6月27日取材）
  - ・NHK福島放送局（7月31日取材）
  - ・NHK福島放送局（8月1日取材）
  - ・朝日新聞／天声人語 震災遺産とコロナ遺産（11月26日記事）
  - ・エフエム会津（12月2日取材）
  - ・シティ情報ふくしま（12月2日取材）
  - ・福島民報／「震災遺産」で博物館活動奨励賞（12月4日記事）
  - ・河北新報／東北の美術館・博物館（12月30日記事）
  - ・河北新報／東北の美術館・博物館 震災遺産を考える 次の10年へつなぐために（12月30日記事）
  - ・毎日新聞／美術館・博物館ガイド 震災遺産を考える（1月5日記事）
  - ・福島民友／予告 震災遺産を考える 広告（1月7日記事）
  - ・福島民報／予告 震災遺産を考える 広告（1月7日記事）
  - ・テレビユー福島／ふくしま防災ガイド 防災について（1月7日取材）
  - ・MONMO／Museum 福島県内、近県で開催されるおすすめ企画展（1月10日記事）
  - ・福島民報／あぶくま抄（1月14日記事）
  - ・福島民友／震災遺産詳細な図録に 県立博物館が作成（1月15日記事）
  - ・福島民友／震災10年 震災の記憶後世に（1月16日記事）
  - ・福島民報／10年の軌跡記録誌に（1月16日記事）
  - ・福島民報／一緒に復興考えたい（1月16日記事）
  - ・福島民報／震災遺産で教訓つなぐ 県立博物館きょう開幕（1月16日記事）
  - ・読売新聞／震災遺産つなぐ企画展 保存の取り組みも紹介（1月16日記事）
  - ・テレビユー福島／げっきんチェック（1月16日放映）
  - ・伊勢新聞／物が伝える津波と原発事故 福島、震災遺産の企画展（1月17日記事）
  - ・東奥日報／「震災遺産」が伝える原発事故、津波の記録（1月17日記事）
  - ・山梨日日新聞／被害物語る「震災遺産」（1月17日記事）
  - ・福島民友／あの日忘れない「震災遺産」県立博物館企画展開幕（1月17日記事）
  - ・福島民報／ジオラマや壁紙並ぶ 企画展震災遺



- 産を考える開幕（1月17日記事）
- ・毎日新聞／遺産に被災者の思い添え「復興考えるきっかけに」（1月17日記事）
- ・河北新報／かお 人の営み物語残す（1月19日記事）
- ・沖縄タイムス／時の人 震災遺産通し教訓伝える（1月19日記事）
- ・毎日新聞／美術館・博物館ガイド 震災遺産を考える（1月19日記事）
- ・朝日新聞／震災遺産 次の10年へ（1月19日記事）
- ・福島中央テレビ（1月19日取材）
- ・福島放送／県内ニュース（1月19日放映）
- ・福島映像企画／キビタンGO（1月20日取材）
- ・岩手日報／物が伝える被害の実情 福島で「震災遺産」企画展（1月20日記事）
- ・愛媛新聞／この人 物だけ残しても仕方がない。まつわる物語残さねば（1月20日記事）
- ・福島民友／震災10年 震災遺産から考える復興（1月20日記事）
- ・ふくしまFM／キビタンスマイル（1月21日取材）
- ・熊本日新聞／時の人 物にまつわる物語残さねば（1月22日記事）
- ・福島民友／ミュージアム散歩 企画展見どころ解説会（1月22日記事）
- ・福島テレビ／県内ニュース（1月22日放映）
- ・秋田魁新聞／「震災遺産」企画展 手書きメモ、惨状物語る（1月23日記事）
- ・北海道新聞／ひと2021（1月23日記事）
- ・京都新聞／時の人（1月26日記事）
- ・第三文明／「震災10年特集」震災遺産を考える記録誌について（1月28日取材）
- ・ふくしまFM／キビタンスマイル ふくしまからチャレンジをはじめよう（1月28日、29日放送）
- ・高知新聞／ひと 物にまつわる物語残さねば（1月29日記事）
- ・北國新聞／今日の人（1月29日記事）
- ・会津地域連携センター、エフエム会津／広報誌スマイル通信（1月29日取材）
- ・TBSラジオ／森本毅郎スタンバイ 震災から10年～「震災遺産」と「思い出の品」（2月1日放送）
- ・宮崎日日新聞／ひと（2月2日記事）
- ・毎日新聞／美術館・博物館ガイド 震災遺産を考える（2月2日記事）
- ・読売KODOMO新聞／震災遺産で記憶をつなぐ（2月4日記事）
- ・徳島新聞／人「物」にまつわる物語残す（2月7日記事）
- ・岩手日報／時の人（2月8日記事）
- ・北日本新聞／けさの人 物にまつわる物語残さねば（2月9日記事）
- ・毎日新聞／美術館・博物館ガイド 震災遺産を考える（2月9日記事）
- ・福島テレビ／キビタンGO 震災遺産を考える次の10年へつなぐために（2月10日放送）
- ・神戸新聞／人（2月11日記事）
- ・静岡新聞／使われなかった伝言板（2月17日記事）
- ・福島民友／ミュージアム散歩 企画展震災遺産を考える次の10年へつなぐために（2月19日記事）
- ・福島民報／文化 「復興」とは何か 震災遺産展（2月19日記事）
- ・福島民友／どこいこ おでかけスポット情報（2月19日記事）
- ・Kyodo News Plus（2月19日取材）
- ・ARDドイツ公共放送ラジオ（2月19日取材）
- ・福島民報／震災報道写真を紹介（2月21日記事）
- ・しんぶん赤旗／復興の在り方問う 震災遺産を考える（2月24日記事）
- ・北海道新聞／耳を澄ませば ぼろぼろの写真を胸に（2月28日記事）
- ・ふくしま防災ガイド／福島県の防災・減災学習施設（2月28日記事）
- ・中日新聞／刻む あの日の福島 「震災遺産」収集 継承へ知恵絞る（3月1日記事）
- ・神戸新聞／あの日の福島伝える数千点 進む撤去「時間との闘い」（3月1日記事）
- ・西日本新聞／「あの日」が変えた日常残す 震災原発事故の「遺産」収集（3月1日記事）
- ・中国新聞／原発事故「遺産」が語る 収集する福島の博物館企画展（3月3日記事）
- ・日本経済新聞／ものに宿る震災の物語 記録を「残す」から「伝える」へ（3月3日記事）
- ・京都新聞／多様な被害の姿「震災遺産」収集 福島の博物館、知恵絞る（3月5日記事）
- ・福島民友／ミュージアム散歩 フォーラム「震災遺産を考える次の10年へつなぐために」（3月5日記事）
- ・朝日新聞／いま語りたい震災10年 餌なき牛舎 かけられた柱（3月5日記事）
- ・みんなのジュニア情報局／「あの日」伝える震災遺産（3月7日記事）
- ・毎日新聞／インフォメーション福島 展覧会 震災遺産を考える次の10年へつなぐために（3月7日記事）

- ・ Channel News Asia (シンガポール国営放送) / Fukushima museum marks 2011 quake and tsunami with exhibition showcasing items from disaster zones (3月8日放映)
- ・ 毎日新聞 / 展示を通じて震災を伝承現場の思い (3月9日記事)
- ・ 毎日新聞 / 保存か解体か 時間かけて判断を 会津若松で震災遺産フォーラム (3月9日記事)
- ・ 福島民報 / 震災遺構在り方探る 記憶継承へ取り組み紹介 (3月10日記事)
- ・ NHK / おはよう日本 「震災遺産」を後世に (3月10日放送)
- ・ 福島民報 / 今後の10年考え視察 (3月11日記事)
- ・ 福島民報 / 取材メモ 社会の変化見つめる (3月11日記事)
- ・ 福島民友 / 編集日記 金谷清子さん (3月11日記事)
- ・ 河北新報 / 無念の思い 石碑に託す (3月12日記事)
- ・ 一般財団法人国土計画協会 人と国土 / 福島県立博物館令和2年度冬の企画展「震災遺産を考える次の10年へつなぐために」開催しました (3月15日発行)
- ・ 朝日新聞 / 向き合い伝える「災害」各地で展覧会 (3月17日記事)
- ・ 福島民友 / 震災教訓胸に刻む 県立博物館へ会頭ら (3月18日記事)
- ・ 福島民報 / 震災遺産を考える一次の10年へつなぐために一 (3月18日記事)
- ・ 福島民報 / 震災企画展の見どころ解説 若松の県立博物館 (3月18日記事)
- ・ 京都新聞 / 忘却に抗し経験を伝える (3月27日記事)
- ・ 月刊第三文明 / 何を残し何を学ぶのか 図録震災遺産を考える (4月1日記事)
- ・ 日々の新聞 / いまできることは淡々と事実を伝えること (4月15日記事)
- ・ 小学館 小学8年生 / 震災遺産 記憶を未来につなげるために (4-5月号記事)

#### (オ) テーマ展・ポイント展関連

- ・ 福島民報 / 宇都宮・会津仕置から430年 豊臣秀吉に焦点 10月まで 道中絵図など展示 (6月27日記事)
- ・ 福島民報 / 会津の武家文化に光 県立博物館「美しき刃たち」開幕 (7月19日記事)
- ・ 福島民報 / 豊臣秀吉の宇都宮・会津仕置から430年 会津 白河 栃木 博物・資料館が連携展 (8月8日記事)
- ・ 福島民報 / 肖像写真、和歌など一堂に 県立博

- 物館で「山川兄弟」展始まる (1月17日記事)
- ・ 朝日新聞 / 掲示板 テーマ展「山川浩と健次郎」 (2月25日記事)
- ・ 福島民報 / 修験道の歴史紹介 高橋家 (西会津) の収蔵品展示 (3月7日記事)
- ・ 福島民報 / みんなのおでかけナビ 会津の修験ー西会津町旧福寿院の宗教世界 (3月18日記事)
- ・ 福島民友 / どこいこ おでかけスポット情報 テーマ展「会津の修験」 (3月19日記事)
- ・ 福島民報 / 絶滅オオミツバマツの球果 塙で発見、1000万年前の化石 (3月31日記事)

#### (カ) 行事・イベント・取り組み

- ・ 福島民報 / みんなのひろば 博物館良い発想見どころ発信を (4月1日記事)
- ・ 福島民友 / 磐梯町に興福寺展図録 実行委贈る小中学校の学習に活用 (4月11日記事)
- ・ 福島民友 / 広報誌「なじよな」創刊 県立博物館 大きなサイズに (4月17日記事)
- ・ 福島民友新聞社 / YouTube動画 みんなのミュージアム散歩 福島県立博物館パート1「福島ってどんなところ?」、パート2「福島の祈りと願い」 (5月1日公開)
- ・ 福島民報 / ユーチューブ公式チャンネルを開設 若松の県立博物館 展示品など紹介 (5月11日記事)
- ・ 福島民友 / 自宅で展示品 楽しんで 県立博物館 ユーチューブに動画 (5月12日記事)
- ・ ふくしまFM / RADIO GROOVE YouTubeチャンネル開設について (5月13日放送)
- ・ 福島民友 / みんなのジュニア情報局 資料や展示品紹介 県立博物館 (5月17日記事)
- ・ 福島民友 / 忍者と恐竜 動画で活躍 県立博物館 (6月1日記事)
- ・ 福島放送 / ふくしまスーパーJチャンネル 県内ニュース YouTube動画こどもけんぱくちゃんねるについて (6月5日放映)
- ・ 福島民友 / 「あつ森」に赤べこ、三春駒 (7月10日記事)
- ・ 福島民報 / こけし 「あつ森」で使える郷土玩具のデータ提供開始 (7月11日記事)
- ・ 福島民報 / 県博が新作動画撮影 鶴ヶ城にあった屏風紹介 (7月20日記事)
- ・ 日本経済新聞 / 任天堂「あつ森」企業集まる (8月7日記事)
- ・ 福島民友 / 葵高校生ミニ屏風 県立博物館で展示 (8月23日記事)
- ・ 福島民友 / 来月12日、和合亮一さん講座 (8月27日記事)
- ・ 福島民報 / 詩人、書道家の「書く」とは 特別

- 講座開講 朗読や揮毫も (9月13日記事)
- ・福島民友／手で書く大切さ語る 福島県立博物館 和合さん講座スタート (9月18日記事)
- ・福島民友／どこいこ おでかけスポット情報 けんぱくクリスマスコンサート (12月11日記事)
- ・福島民報／詩人・和合さん×小説家・佐藤さん 31日に特別講座 (1月17日記事)
- ・福島民報／県内文化施設 動画に工夫 ユーチューブ公式チャンネルで配信 (1月22日記事)
- ・福島民友／どこいこ おでかけスポット情報 特別講座 詩人のいる博物館②「会津を語る、詩を語る」(1月29日記事)
- ・福島民報／創作の心語り合う 若松 和合さんと佐藤さん (2月1日記事)
- ・福島民友／作品づくり 思い語る 和合さん特別講座 佐藤巖太郎さん招く (2月2日記事)
- ・福島民報／詩人 和合亮一 対談in県立博物館 小説家 佐藤巖太郎 言葉を巡り思案 (2月7日記事)
- ・福島民友／窓 古里を感じる和合さんの詩 (2月18日記事)
- ・読売新聞／Thursdayふくしま 保存科学講座「博物館の舞台裏 講座バージョン」(2月25日記事)
- ・福島民友／どこいこ おでかけスポット情報 特別講座 詩人のいる博物館③「ふくしまを写す」(3月26日記事)
- ・福島民報／28日、講座 詩人と和合さんと写真家 岩根さん 福島の美しさ語る (3月26日記事)
- ・NHK福島放送局／はまなかあいづtoday コロナ関連資料について (12月9日放映)
- ・福島放送／県内ニュース コロナ関連資料について (12月10日放映)
- ・NHK福島放送局／NHKラジオ第一 こでらんに5 コロナ関連資料について (12月17日放送)
- ・福島民友／コロナ資料の散逸防ぐ (12月21日記事)
- ・福島民友／「メタセコイア」国内最古の化石 県博の猪瀬さん発見 (1月20日記事)
- ・福島民報／国内最古、広野に化石 県博学芸員の猪瀬さんが発見 8800万年前の地層から (1月20日記事)
- ・読売新聞／メタセコイア 国内最古の化石 広野で発見 白亜紀の地層から (1月20日記事)
- ・読売新聞／5年前発見の化石、国内最古8800万年前のメタセコイアと判明「進化たどる重要な標本」(1月20日夕刊記事)
- ・朝日新聞／メタセコイア 国内最古の化石 県立博物館・猪瀬さん 広野で16年に発見 (1月24日福島県版記事、1月27日宮城県版記事)
- ・TBSラジオ／森本毅郎スタンバイ コロナ関連資料について (1月27日取材)
- ・福島民報／こだま メタセコイアに義父の思い出が (2月25日記事)
- ・福島民友／窓 メタセコイアの化石見たい (3月5日記事)
- ・テレビユー福島／ふくしまSHOW 国内最古のメタセコイア (3月15日取材、4月14日放映)

#### (キ) 調査研究・資料収集

- ・福島民報／塙で発見1000万年前の地層の化石 ヒゲクジラ類全身骨格 (4月3日記事)
- ・福島民友／化石はヒゲクジラ類 塙、1000万年前の全身骨格 (4月4日記事)
- ・福島民報／「刺繍仏涅槃図」市文化財に指定 若松の妙国寺が所有 (4月25日記事)
- ・朝日新聞／モノで残す「コロナな世相」(5月28日記事)
- ・読売新聞／県最古 クジラ全身化石 塙町で06年に発見 (6月7日記事)
- ・福島民報／無病息災、新型コロナ収束 わら人形に願い込め 柳津・冨中集落で伝統行事 (11月16日記事)
- ・福島民報／県立博物館に会津唐人凧寄贈 (11月19日記事)
- ・福島民友／コロナ関係資料いち早く収集 100年後のために 県立博物館 (12月3日記事)
- ・福島民報／「震災遺産」で博物館活動奨励賞 高橋学芸員が受賞 県内初 (12月4日記事)

#### (ク) ライフミュージアムネットワーク

- ・福島民報／2019年度記録集発行 ライフミュージアムネットワーク (5月13日記事)
- ・福島民報／歴史文化の役割語る 三島から連続討論会開始 (8月14日記事)
- ・朝日新聞／浪江っ子の10年 歩み伝える「チーム嘉人」も集合 (9月25日記事)
- ・読売新聞／故郷は自分で決める 浪江も二本松も学んで (1月6日記事)
- ・福島民友／ライフミュージアムネットワーク 2020フォーラム 地の記憶を苗床に (1月9日記事)
- ・福島民報／震災・原発事故で全町避難 浪江の記憶後世に 討論会で方策探る (1月13日記事)
- ・河北新報／浪江の歴史、どう継承 避難者らがパネル討論 (1月13日記事)
- ・福島民報／郷土の歴史継承考える 若松でフォーラム (1月25日記事)
- ・福島民友／コミュニティー活用事例を解説 白

河で公開討論会（1月25日記事）

- ・福島民報／古里の学び博物館に 津島小（浪江から二本松に避難）唯一の在校生 須藤君、校内で来月から（1月29日記事）
- ・福島民報／奥の細道 遠隔操作ロボットを使った見学ツアーの実証実験（1月30日記事）
- ・福島民報／避難下10年の学び発信 3月末休校 浪江・津島小が博物館（1月30日記事）
- ・福島民報／遠隔でロボット操作 県立博物館リモート見学会（2月1日記事）
- ・NHK福島放送局／児童が浪江町伝える手作り博物館（2月25日放映）
- ・毎日新聞／教室を博物館に 古里学習の成果を展示「卒業しても思い出の場所」（2月26日記事）
- ・読売新聞／「津島小博物館」お披露目（2月26日記事）
- ・福島民報／「津島小博物館」きょう開館 二本松の仮校舎、10年の足跡紹介 館長の須藤君「成果ぜひ見て」（2月26日記事）
- ・福島民報／浪江思う学び集大成 津島小きょうから「博物館」（2月26日記事）
- ・河北新報／なみえ博物館 館長は6年生 二本松に避難 浪江・津島小に開館（2月26日記事）
- ・毎日新聞／「卒業しても思い出の場所」今春休校の浪江・津島小、唯一の在校生（2月26日記事）
- ・読売新聞／「津島小博物館」お披露目（2月26日記事）
- ・朝日新聞／12歳館長 地元解説任せて 浪江・二本松を学んだ10年（3月1日記事）
- ・福島民報／日曜論壇 赤坂憲雄 ただ、そこに共にあるために（3月7日記事）
- ・福島民報／震災・原発事故10年 復幸再盛 人が刻む「くらし」福島県立博物館学芸員 小林めぐみ氏（3月19日記事）
- ・広報なみえ／まちの話題「10年間ふるさとなみえ博物館」が完成（3月号記事）

#### （ケ）後援・共催事業

- ・福島民報／なぜ会津へやってきたのか 若松 来月1日講演会 蒲生氏郷の歴史知ろう（7月17日記事）
- ・福島民報／蒲生氏郷 入府430年 若松 墓前祭で遺徳しのぶ（8月2日記事）
- ・福島民報／氏郷築いた城下町の礎 会津まつり講演、座談会（9月22日記事）
- ・福島民報／芸術文化活動の可能性語り合う 喜多方でシンポ（12月18日記事）
- ・福島民報／カラムシ研究聞いて 民俗研究会

「会津地方の女の一生」も 14日若松で講演会（3月9日記事）

#### （コ）その他

- ・福島民報／県立美術館・県立博物館 新館長に聞く 本県の文化発信へ抱負（4月10日記事）
- ・福島民報／三面鏡 県立博物館長に就いた鈴木晶さん コロナ終息見据えて準備（4月19日記事）
- ・福島民報／論説 県立美術館・博物館 新館長の手腕に期待（4月20日記事）
- ・福島民報／県立博物館あすから休館（4月20日記事）
- ・NHK福島放送局／NHK総合 はまなかあいつ TODAY 臨時休館について（4月21日放映）
- ・福島民報／県立博物館が過去の企画展図録販売（5月21日記事）
- ・毎日新聞／震災資料の収集継続へ 県立博物館21年以降、常設展示も（7月8日記事）
- ・福島民報／過去の大災害も紹介 県立博物館設置予定の震災遺産（7月8日記事）
- ・福島民報／県立博物館など計画15件を認定 施設を観光拠点に 文化庁（11月19日記事）
- ・トラベルボイス／観光庁、「文化観光推進法」で支援する拠点・計画を新たに認定、飛鳥など15件（11月25日記事）
- ・福島民報／三つのテーマで会津の周遊促進 若松の県立博物館展示強化 名所結ぶコース設定（2月12日記事）
- ・福島民報／県立博物館入館5万2384人 2020年4月～1月 前年度同期比で半減（2月19日記事）
- ・福島民報／宿泊 24年度に140万人 県立博物館 会津文化観光拠点計画（2月19日記事）
- ・福島民報／論説 文化観光振興 県博、市の連携不可欠（2月26日記事）

## (2) 公聴活動

博物館で開催した次の行事について、利用者に対するアンケート調査を実施した。この結果を分析し、館の事業の改善に努めた。

### 令和2年度 アンケート実施事業一覧

常設展	
企画展	ふくしまの旅ー懐かしの景色を訪ねてー
	会津のSAMURAI文化
	発掘された日本列島2020
	震災遺産を考える～次の10年につなぐために～
	震災遺産を考えるーそれぞれの9年ー
講座	特別講座
	保存科学講座
	自然史講座
	民俗講座
	美術講座
	歴史講座

## (3) 出版事業

令和2年度は次の出版物を刊行した。

### ア. 企画展図録

ふくしまの旅	1,000冊
発掘された日本列島2020	350冊
震災遺産を考える	1,500冊
会津の絵画	1,000冊

### イ. 紀要

福島県立博物館紀要 第35号	600冊
----------------	------

### ウ. 年報

福島県立博物館年報 第34号	400冊
----------------	------

## 7. 地域連携とネットワークの拠点

福島県立博物館では、各種団体が主催する事業のうち、本県の文化・教育そして東日本大震災からの復興に寄与する事業に参画し、他機関と連携しながら活動を進めている。

### (1) 福島県博物館連絡協議会

#### ア. 事業の趣旨・経緯

当会は、福島県内の博物館及びこれに準ずる施設が相互の連絡、協働によってその機能を強化し、地方文化の振興に寄与することを目的とするもので、昭和54年から活動している。設立時より福島県立博物館は事務局を務め、他館と連携しながら会の運営を担っている。

#### イ. 組織

1. 理事会 郡山市立美術館（会長）、福島県立博物館（副会長）、その他10館。
2. 所属館 郡山市立美術館、その他49館。
3. 事務局 福島県立博物館

#### ウ. 事業内容

令和2年度は、下記の事業を実施した。

##### 1. 福島県博物館連絡協議会一般事業

###### (1) 第1回理事会

日時 令和2年7月1日（水）  
14時00分～

会場 郡山市立美術館

###### 第2回理事会

日時 令和3年3月26日（金）  
13時30分～

会場 郡山市立美術館

###### (2) 総会

日時 令和2年7月15日（水）  
14時00分～

会場 福島県立美術館

###### (3) 研修会①－施設見学研修（福島県内初の公立博物館と令和元年開館の複合施設見学）

日時 令和2年9月9日（水）  
11時00分～15時00分

会場 須賀川市立博物館、tette テッテ（須賀川市民交流センター）

###### (4) 研修会②－資料取扱研修（文化財防災のあり方と被災文化財保全の方法）

日時 令和2年12月16日（水）  
11時00分～16時00分

会場 福島県文化財センター白河館

（まほろん）

#### 2. 被災博物館・被災文化財救済事業

##### (1) フォーラム「博物館が地域で生きる力を育むために みんなでつくる・考える防災教育」

日時 令和2年11月9日（月）  
14時00分～16時10分

会場 東日本大震災・原子力災害伝承館

講師 金井昌信氏（群馬大学教授）



施設見学研修の様子（須賀川市立博物館）



資料取扱研修の様子

##### (2) 磐梯山ジオパーク推進事業

#### ア. 事業の趣旨・経緯

ジオパークとはヨーロッパで始まった地質や地形を見どころとする大地の公園。ユネスコが支援する活動となり、平成16年に世界ジオパークネットワーク（GGN）が設立、平成27年にはユネスコの正式な事業となった。平成29年5月現在、ヨーロッパと中国を中心に35ヶ国127地域が加盟。世界遺産は条約に

基づいて保全・保護を重要視するのに対して、ジオパークは、保全はもとより資源の活用による地域の振興を図ることを目標にしている。また、地質遺産だけではなく、それを背景とした考古資料、生態学的もしくは文化的に価値のあるものも含む。日本では平成29年5月現在43地域が日本ジオパークとして認定されており、そのうち8地域が世界ジオパークに認定されている。

平成20年から有志により磐梯山地域をジオパークにしようとする運動が始まり、平成22年3月に磐梯山周辺の3町村と関係機関を中心に、磐梯山ジオパーク協議会が設立された。平成23年9月に、日本ジオパーク委員会により、磐梯山地域が日本ジオパークとして認定された。将来的には磐梯山地域が世界ジオパークに認定され、ジオパークとしての活動を継続していくことを目指している。平成27年には、4年に1回実施される日本ジオパーク委員会による日本ジオパークの再審査が行われ、認定された。

福島県立博物館は、ジオパークの拠点施設として磐梯山ジオパーク協議会設立当初から協議会に参画し、館の正式な連携事業と位置づけて進めている。ジオパーク推進事業における当館の役割は次のとおりである。

- ・地域研究の推進と学術成果の収集による最新の研究成果の提供
- ・ジオパークの説明媒体（ガイドブック、解説板など）の制作・監修
- ・ジオパークとしての教育プログラムの開発と提供
- ・住民や児童への普及活動のための講師派遣
- ・ジオガイド養成のための講師派遣
- ・ツアーの拠点としてジオパークに関する情報提供
- ・ジオパーク普及のための各種イベントの開催

#### イ. 組織

磐梯山ジオパーク協議会は、行政団体として磐梯山周辺の猪苗代町・磐梯町・北塩原村が中心となり運営し、福島県が支援している。これに3町村の商工団体と観光協会、ガイド団体などの民間団体、文化・教育施設が加わっている。事務局は3町村の商工観光課が中心となり、北塩原村自然環境活用センターに置かれている。

#### ウ. 活動

令和2年度は次の事業を実施した。

##### 1. 調査研究事業

- (1) ジオサイト保全と利用  
ジオサイトモニタリング調査等 35回実施  
磐梯山ジオパーク協議会事務局への指導 24回
2. 啓発活動
  - (1) フォーラム・シンポジウム  
コロナウイルス感染拡大防止のため中止
  - (2) ジオツアー  
「地質の日ジオツアー」1件
  - (3) 出前講座  
山形県飯豊青年の家など2件
  - (4) 出前授業  
猪苗代町立千里小学校など21件
3. 広報活動
  - (1) イベント参画  
磐梯山ジオパークパネル展 など8件
  - (2) メディアへの情報発信  
GOTO商店街によるイベント申請
4. ガイド養成
  - (1) ガイド研修  
ジオパークガイド養成事業 関連ジオツアー 1件
5. ツアー解説媒体制作
  - (1) ジオサイト解説看板設置  
北塩原村 裏磐梯物産館を中心とした総合的看板及び五色沼湖沼群に関する看板設置

#### 磐梯山ジオパーク協議会組織

区分	機関・団体名
行政団体	猪苗代町
	磐梯町
	北塩原村
	福島県企画調整部地域振興課
	福島県会津地方振興局 環境省裏磐梯自然保護官事務所
商工団体	猪苗代町商工会
	磐梯町商工会
	北塩原村商工会
観光協会	猪苗代観光協会
	磐梯町観光協会
	裏磐梯観光協会
民間団体	猪苗代伝保人会
	猪苗代山岳会
	裏磐梯エコツーリズム協会
文化・教育施設	野口英世記念館
	磐梯山噴火記念館

磐梯山ジオパーク協議会組織

区分	機関・団体名
文化・教育施設	福島県立博物館
	国立磐梯青少年交流の家
オブザーバー	林野庁会津森林管理署
	福島県喜多方建設事務所



森林講座「石が語る裏磐梯の自然」

(3) ふくしまサイエンスぷらっとフォーム

科学の普及を目的として、平成20年に福島大学が中心となり、産官学民の様々な機関や個人が参画して結成された組織。これまで科学普及活動は、ほとんど学校教育の理科を通じて行われてきた。ふくしまサイエンスぷらっとフォーム (spff) では、多様な分野・業種の人々が集まって、市民全体を対象として、大小様々の科学イベントの開催、企画、情報活動、広報活動に取り組んでいる。特に、平成23年3月11日震災以降、復興支援活動と科学理解活動の密接な連携を模索している。福島県立博物館もこのプロジェクトに平成22年から参画して活動している。

ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携機関一覧 (令和3年3月現在)

所属機関
福島大学
福島県商工労働部産業創出課
ふくしま森の科学体験センター(ムシテックワールド)
郡山市ふれあい科学館 (スペースパーク)
磐梯山噴火記念館
福島県ハイテクプラザ
福島県農業総合センター
福島県環境創造センター
福島県林業研究センター
福島市子どもの夢を育む施設 こむこむ
(株) 福島製作所

ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携機関一覧 (令和3年3月現在)

所属機関
日東紡績(株) 福島工場
日東紡績(株) 富久山事業センター
NECプラットフォームズ株式会社 福島事業所
福島県商工会連合会
福島県鉄工機械工業共同組合
(有) 西坂製作所
福島県立博物館
いわき明星大学 エネルギー教育研究会
福島県商工会議所連合会
(株) 坂本乙造商店
福島県立図書館
ふれあい科学館支援チーム
福島県男女共生センター
(有) アピスタ
福島県立テクノアカデミー郡山
日本ベクトン・ディッキンソン(株)
相馬市教育委員会
一般社団法人産業サポート白河
一般社団法人りょうぜん振興公社 霊山こどもの村

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、ほとんどの活動が中止となった。そうした状況の中、3月16日にオンライン会議を行い、次年度以降の活動などについて意見交換した。

(4) 福島芸術計画 × Art Support Tohoku - Tokyo  
ア. 事業の趣旨・経緯

福島芸術計画 × Art Support Tohoku - Tokyoは、平成24年より、福島県、東京都、アーツカウンシル東京 (公益財団法人東京都歴史文化財団) の三者が共催し、地域の団体と協働してアートプログラムを実施していた事業。文化芸術に触れる機会や地域コミュニティの交流の場をつくり、文化芸術による地域活力の創出と心のケアという視点から復旧・復興を支援した。

令和2年度は、福島県単独主催となり福島芸術計画として実施。芸術という視点から元氣な浜通りの復活と絆、誇り、生き甲斐を取り戻す取組を全県的に行うとともに、子ども達が学校では体験できない創作活動に参加する機会を通し創造性や感性など心豊かに成長してもらうために、「アートで広げるみんなの元氣プロジェクト」及び「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」を行った。



イ. 組織

1. 主催 福島県
2. 運営委員会構成団体  
福島県文化振興課／福島県立美術館／福島県立博物館／認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島
3. 事業受託者  
認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島

ウ. 事業内容

令和2年度の福島藝術計画のうち、福島県立博物館は「アートで広げるみんなの元気プロジェクト」の一環として行った「福島こども藝術計画 わたしの好きな昭和 アトリエ しょうわのこども～しょうわの子だま」の企画運営を担った。平成29年度、平成30年度、令和元年度の福島藝術計画 × Art Support Tohoku - Tokyoの実績を活かし、新型コロナウイルス感染症の影響により講師の招聘が困難な状況での事業として下記を行った。

1. 福島こども藝術計画 わたしの好きな昭和 アトリエ しょうわのこども～しょうわの子だま
  - (1) 実施地域：昭和村
  - (2) アーティスト（講師）：  
小池 アミイゴ（イラストレーター）
  - (3) 地域パートナー：昭和村保健福祉課
  - (4) 対象：昭和村の小学生（1～6年生）  
17人
  - (5) 内容

昭和村の小学生17人と講師の小池アミイゴ氏により同数選ばれた日本全国の子だま隊が、小池氏を介した郵送でのやりとりで共同で作品を完成させていくワークショップを行った。やりとりは小池氏から送られる指令に基づき進行し、6回の指令で5種×17作品が作られた。例えば、指令1の「じぶんのかおをかいてください」を受けて昭和村の小学生が描いた絵が子だま隊に「かおのかいてある紙、じぶんのかおをかこう」という指令3と共に届き、子だま隊が自分の顔を描いた紙は「かおのまわりにたくさんの花をかいて」という指令5とともに昭和村の小学生に届けられ、完成するという流れだった。

完成した作品の一部をポストカードとし、事業の趣旨・流れを伝えるポスターとともに成果物として作成、共有した。



しょうわの子だま成果物（ポストカード・ポスター）



しょうわの子だま実施の様子

(5) ふくしま歴史資料保存ネットワーク

地域の歴史や文化を伝える歴史資料などの記録保存を進め、災害時には救出・保全をはかり、後世に伝えることを目的に、平成22年11月に発足した。現在の代表・事務局は福島大学（行政政策学類 阿部浩一教授）。近年は、古文書整理・撮影作業を福島大学で定期的に行いながら、歴史資料の保存を趣旨としたさまざまな催しを企画・支援している。

当館で震災直後から保管していた個人所蔵の古文書の一部の整理・撮影作業を、福島大学で継続して実施しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で作業が進められなかった。

(6) 会津の文化×地域振興プロジェクト協議会

ア. 事業の趣旨・経緯

福島県立博物館が行う展覧会等を観光資源として生かし、博物館と自治体、商工業団体、観光団体等との連携により地域振興、観光振興を図るとともに、文化芸術の本質的価値及び社会的・経済的価値を地域社会が文化芸術

の継承、発展及び創造に活用・好循環させることを目的として事業を実施している。

#### イ. 組織

1. 構成団体 会津若松商工会議所、(一財)会津若松観光ビューロー、福島県立博物館、会津若松市
2. 事務局 会津若松商工会議所

#### ウ. 事業内容

令和2年度福島県立博物館夏の企画展「会津のSAMURAI文化」に協力。当該企画展において会津若松市ナイトタイムエコノミー推進協議会事業との連携により行った「夜間観覧」の実現を支援した。

また、令和2年度に認定を受けた「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」の作成を支援。同計画の認定により実施となった「福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業 三の丸からプロジェクト」の支援も行った。

### (7) 県内博物館PR事業「行こう！ふくしまの博物館」

#### ア. 事業の趣旨・経緯

福島県は広い県土をもち、多様な自然環境や歴史・文化に恵まれている。そうしたことを反映して、県内各地には特色ある博物館・美術館・資料館がある。そうした施設ならではの資料や活動を展示・紹介しようと、令和元年度から本事業を始めた。令和2年度は三春町歴史民俗資料館と川内村の天山文庫・かわうち草野心平記念館について展示・紹介した。

#### イ. 展示内容

第4回 三春郷土人形館所蔵 郷土玩具展  
(会期：令和2年6月9日(火)～8月2日(日))

第5回 天山文庫・かわうち草野心平記念館  
(阿武隈民芸館) 収蔵品展 草野心平と川内



「三春郷土人形館所蔵 郷土玩具展」展示風景

(会期：令和3年1月30日(土)～3月21日(日))

### (8) 会津地方の郷土玩具「会津だるま」を活用した観光客誘致事業

#### ア. 事業の趣旨・経緯

令和2年度地域創生総合支援事業を活用し、当館(民俗分野)と福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター(産業工芸科)と連携して「会津だるま」の活用・復活に向けた事業を行った。

#### イ. 助成

会津地方振興局 令和2年度地域創生総合支援事業(県戦略事業(地域連携調整事業分))

#### ウ. 事業内容

県内のだるまとして知られながら近年廃絶した「会津だるま」の地場産品としての復活に向けて、調査研究・3D測定・委託による復元製作を行った。連携にあたっては当館が歴史的な調査研究や資料収集を担当し、ハイテク会津はデジタル製造技術による形状測定・3Dプリンタによる張子用木型製作などの技術支援を担当した。当館としては現地調査(埼玉県・群馬県・京都府)を行ったほか、市内の民芸品店に張子の会津だるま復元製作を委託し、展示資料としての2種類10体のだるまを製作した。来年度の展示公開により誘客へとつなげる。ハイテク会津では手仕事とデジタル技術を掛け合わせた会津だるまの製造工程を確立し、今後の現場への技術支援が可能となった。



復元制作された会津だるま

(9) 福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業「三の丸からプロジェクト」

ア. 事業の趣旨・経緯

令和2年5月1日に施行された文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律に基づき、文化の振興を、観光の振興と地域の活性化につなげ、これによる経済効果が文化の振興に再投資される好循環を創出する同法の目的を実現するものとして、主務大臣が定める基本方針に基づく、文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光を推進する拠点計画及び地域計画の認定が行われた。当館では、共同申請者と共に「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」を策定、申請し、令和2年11月18日に認定を受けた。同計画は、「会津のSAMURAI文化エリア（若松城跡）」「若松城下の商工文化エリア（会津若松市街地）」「雪国のくらしとものづくり文化エリア（奥会津）」の3つのエリア周遊を実現することにより、質の高い文化観光を提供しようとするものである。同計画の実現のため、令和2年度から5ヶ年にわたって「福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業『三の丸からプロジェクト』」を実施することとなった。

イ. 組織

1. 文化観光拠点施設（設置者）：  
福島県立博物館（福島県）
2. 文化観光推進事業者：  
会津若松市、一般財団法人会津若松観光ビューロー、公益財団法人福島県観光物産交流協会（地域連携DMO）、会津若松商工会議所、只見川電源流域振興協議会

ウ. 助成

令和2年度文化芸術振興費補助金（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業）

エ. 事業内容

令和2年度は、「三の丸からプロジェクト」のうち「若松城下まちなか連携事業」を実施。令和3年度福島県立博物館企画展「会津の絵画」と連携した展示を令和3年度に若松市内4か所（若松城天守閣郷土博物館、竹藤、福西本店、末廣酒造嘉永蔵）で展開するための準備として、各会場との展示案の検討、周遊促進パンフレットの作成、趣旨等説明多言語パネル（英語・中国語（簡体字）・中国語（繁体字））の作成を行った。



周遊促進パンフレット「会津の絵画・まちなかの暮らし」(中面)

## 8. 震災遺産の保全・活用による東日本大震災の共有と継承

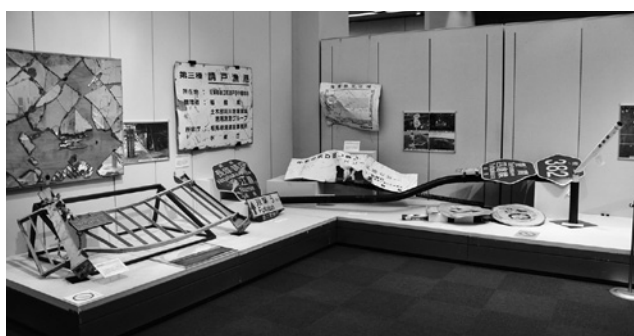
平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震とそれともなう津波・原発事故は、福島県内に甚大な被害を及ぼした。未だに多くの方々が避難生活を余儀なくされ、一方で復興や除染工事等により地域の景観は大きく変わりつつある。当館では平成26年度から28年度まで文化庁芸術振興費補助金の採択を受けて、県内の資料館や研究会とともに実行委員会を組織し「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」を推進してきた。大震災を契機に起こった様々な出来事を歴史として共有し未来へ継承するため、震災を物語る資料を「震災遺産」と位置付けて、その保全や県内外での展覧会・シンポジウム等のアウトリーチ活動を行った。平成29年度からは当館の事業として、引き続き「震災遺産」の保全や発信を行っている。

### (1) 震災遺産保全チームの組織

活動母体である実行委員会が解散後は、博物館内の「震災遺産保全チーム」が分野横断のプロジェクトチームとして活動を続けている。令和2年度は民俗2名、考古1名、歴史3名、自然1名、美術1名の計8名の学芸員が業務を担当した。震災遺産に主体的に関わる災害史担当学芸員を中心に、所蔵する資料の研究・調査を取りまとめ、企画展の実施、記録誌の編集を行った。

### (2) 震災遺産の調査・保全

震災遺産にかかわる今までの活動の経緯や、資料の来歴などを取りまとめた。特に富岡町災害対策本部跡に関係する資料の撮影を行った。プロジェクト実行委員会時のメンバーや、退職・異動された学芸員からも情報提供いただき記録紙「震災遺産を考える 次の10年へつなぐために」を編集した。記録紙は資料に関する情報のみならず、調査にあたった学芸員の思いなど記録にすることを意識した。



冬の企画展

### (3) 他団体・他機関との連携・協力

東日本大震災原子力災害伝承館、南相馬市博物館、磐梯山噴火記念館といった運営主体が異なるミュージアムと連携し防災教育に関するフォーラム「博物館が地域で生きる力を育むために みんなでつくる・考える防災教育」として、福島県博物館連絡協議会「被災博物館・被災文化財救済事業」を活用し実施した。フォーラムでは群馬大学の金井昌信教授から「博物館ができる、防災を手段とした地域教育を考える」として講演していただいた。フォーラムに先立って、会場周辺の見学会を行い、請戸小学校など参加者とともに巡検した。本フォーラムを通じて、被災地域の自治体、博物館関係者との連携がより緊密にとれるようになったと考えている。また、講座の実施にあたっては、地域人材の活用等意識して、地域の防災士や行政の防災担当職員、教育委員会の防災担当指導主事などとも連絡を取りあい、連携した運営を行うことができた。

例年協力体制をとってきた筑波大学との海外視察は、次年度以降へ延期となった。

### (4) 普及事業

コロナ禍で来館者は大きく減ったが、防災講座は感染症対策を先方と協議しながらなるべく実施することとした。相談を受け、授業を学校とともに考えることに注力した。異動した先からも講座依頼が来るなど、評価を得たものと考えている。また新たに国立磐梯青少年交流の家と連携し猪苗代高校・湖南高校に対して防災教育プログラムを実施した。福島県高校生新聞部県大会にて講演をおこなったことで、郡山東高校、郡山北工業高校、白河高校の新聞部から取材を受け、各校が発行する新聞に震災遺産について掲載された。高校との連携として新しい手段を見出すことができた。今後も継続的な連携を続けていきたい。

企画展を開催しイベントも行った。とくに今後博物館がどのように災害と向き合っていくのかをテーマとしたフォーラムには、アーカイブズ学、博物館学、社会学といった様々な研究分野から参加を頂き、今後の調査・研究への展開に先鞭をつけることができた。

小学校2件、中学校6件、高校2件、公民館3件のゲストティーチャー及び講師派遣の対応を行った。指導者講習等にて防災教育の指導方

法や学校のビジョンに沿った授業提案などが効果的であったと考えている。また指導者講習の反響として公民館からの依頼を複数頂くことにつながった。震災10年ということもあって、ニーズとマッチしたものと考えている。



会津若松市北公民館防災デーにて防災講座

## 9. 新たな博物館の役割・機能の創出

### (1) 文化財・自然資料レスキュー

#### ア. 平成23年3月の東日本大震災に伴う活動

平成23年3月11日に起きた東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故により被災した文化財・自然資料のレスキュー・保全作業を、福島県被災文化財等救援本部（以下「救援本部」、当館は副代表・幹事・事務局）に参画して実施してきた。前年度に設置要綱が一部改正された後、今年度は幹事会1回（10月28日）が行われたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、被災地域の資料への対応などの活動は低調であった。これまでの活動を報告書としてまとめることも次年度へ持ち越しとなった。

当館が新規で関わった被災地域の資料の調査や受け入れはなかった。また平成23年度から様々な事情によって当館で受け入れた資料のうち、所蔵先の避難状況の変化によって返還できるようになった場合は、順次対応するようにしているが、今年度の該当はなかった。

#### イ. 令和元年10月の東日本台風（台風19号）被害に伴う活動

令和元年10月12日の令和元年東日本台風（令和元年台風19号）によって、県内の資料館・博物館等の文化財収蔵施設が被災し、文化財等の水損被害が各地で発生した。県文化財課が中心となって、被災した市町村からの救援応援要請を受けて、被災資料の保全作業のために各機関が職員等を派遣する体制がつけられ、当館でも学芸員が交替で作業に参加した。また当館は、文化財課や美術館、福島県文化財センター白河館（まほろん）、ふくしま歴史資料保存ネットワーク（福島大学）と連絡をとりながら、被害状況に関する情報収集や現況確認調査にも携わった。

今年度は、6月20日に本宮市内の個人宅の蔵の解体に伴う調査及び本宮市歴史民俗資料館の状況確認に当館学芸員が参加したが、コロナ禍により資料保全作業支援などは実施されなかった。

#### ウ. 令和3年2月の福島県沖地震被害に伴う活動

令和3年2月13日に福島県沖を震源とする地震が起き、県内でも被害が発生した。文化財の被害は、県北・県中・相双地域に多いが、ほぼ県内全域に及んだ。とくに建造物や史跡の被害が多いことが特徴的である。当館では、新地町の個人宅の資料レスキュー作業を宮城資料保存ネットワーク・ふくしま史料保存ネットワークが合同で実施した際に、学芸員1名が参加した。

令和元年度末に福島県文化財保存活用大綱が策定され、災害発生時に文化財・自然資料レスキューを実施するしくみが整えられたが、今回の地震では市町村からの救援応援要請は出されなかったため、相互応援協定による支援・応援の作業は行われなかった。

なお、11月25日には文化財に係る災害時の相互応援に関する協定連絡会議が三春町で行われ、当館学芸員も出席した。



資料レスキュー作業の様子

### (2) ライフミュージアムネットワーク2020

#### ア. 事業趣旨

福島県立博物館は、平成23年の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故後、文化庁の支援を受けた「はま・なか・あいつ文化連携プロジェクト」「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」の事務局を務め、さまざまな文化芸術による復興支援事業を実施してきた。その過程で浮かび上がって来た課題は、福島、東北、被災地に限らず、日本各地に共通するものであり、解決方法を導き出すべく、広く共有されるべきものだった。

それらの課題は、【いのち】【くらし】に集

約される。これらは各地の博物館・美術館・資料館・記念館を含むミュージアムの活動の核となっているものであり、ミュージアムに限らず、様々な団体、機関も大切にしていることである。

東日本大震災後、新たに浮上してきたミュージアムの使命。それは【いのち（ライフ）】と【くらし（ライフ）】に再び誠実に向き合うことと捉え、同じ志を共有するネットワークを強化・拡大することでミュージアムの社会的使命を拡張することを目指して平成30年度よりライフミュージアムネットワーク実行委員会を設立、活動を行った。

## イ. 組織

1. 主催：ライフミュージアムネットワーク  
実行委員会
2. 構成団体：南相馬市博物館  
はじまりの美術館  
三島町生活工芸館  
一般社団法人ふくしま連携復興センター  
原爆の図丸木美術館  
福島県立博物館
3. 委員長：鈴木晶（福島県立博物館長）
4. 事務局：福島県立博物館

## ウ. 実施期間

1. 実施期間：  
令和2年4月1日～令和3年3月31日
2. プロジェクト活動期間：  
令和2年5月21日～令和3年3月31日

## エ. 助成

文化庁令和2年度地域と共働した博物館創造活動支援事業

## オ. 事業内容

リサーチ、オープンディスカッション、スタディツアー、フォーラム、プログラム開発を実施し、記録集（『ライフミュージアムネットワーク2020活動記録集』700部、プログラム開発「多様なニーズに応えるミュージアムの利活用プログラム」記録集700部、プログラム開発「生活資料を活用したミュージアムの連携プログラム」記録紙700部、プログラム開発「地域資源の活用による地域アイデンティティの再興プログラム」記録集700部、奥会津スタディツアー記録集700部）を作成した。

## 令和2年度ライフミュージアムネットワーク実施行事一覧

実施日	行事名	参加者数
8月8日	スタディツアー・連続オープンディスカッション「奥会津の周り方」第1回「文化の泉を掘る～三島町歴史文化基本構想について～」	14
9月19日	スタディツアー・連続オープンディスカッション「奥会津の周り方」第2回「清の眼 根っこの眼 それぞれの地域学」	14
10月24日	スタディツアー・連続オープンディスカッション「奥会津の周り方」第3回「奥会津の森を活かす」	9
11月14日	スタディツアー・連続オープンディスカッション「奥会津の周り方」第4回「民具整理から見えてくる奥会津のくらし」	13
12月19日	スタディツアー・連続オープンディスカッション「奥会津の周り方」第5回「奥会津をつなぐ」	8
1月11日	オープンディスカッション「浪江の記憶の残し方・伝え方」	16
1月17日	オープンディスカッション「場を編む 人を結ぶ」	22
1月24日	フォーラム「地の記憶を苗床に～空知・島ヶ原・舞鶴に学ぶ「ミュージアム的」なこと」	48
	合計	144



スタディツアー・連続オープンディスカッション  
「奥会津の周り方」



フォーラム「地の記憶を苗床に～空知・島ヶ原・舞鶴に学ぶ「ミュージアムの」なこと」



プログラム開発「地域資源の活用による  
地域アイデンティティの再興プログラム」

### (3) 歴史博物館・自然史博物館・美術館における認知症対応プログラム実践事業

#### ア. 事業趣旨

認知症に関する試算によると、2025年までに日本の高齢者の5人に一人は認知症になる見込みである。また、そのための社会的コストは2025年で19.4兆円に達すると推定されている。こうした状況を踏まえ、政府は昨年「認知症施策推進大綱」をまとめ、その中で「70歳代での発症を10年間で1歳遅らせることを目指す」という参考値を設定している。

上述の通り、認知症に対処する社会的コストは膨大な規模で増加しつつあり、もはや従来型の手法だけでは公助・自助共に限界に達しつつある。また、コロナ禍においては、医療機関において面会の制限等も発生しており、親族とのコミュニケーションも限定的となっていると推測される。

こうした背景のもと、認知症の予防および初期認知症の進行緩和に関して、「回想法」など、脳の認知機能の活性化を目的に文化面でのアプローチをニューノーマル、アフター・コロナの時代をふまえて試みる。そして、これらの取り組みが、博物館・美術館にとっ

て、新たな社会的サービスになることを目的に事業の実施と検証を行う。

#### イ. 組織

1. 主催：株式会社乃村工藝社  
福島県立博物館
2. 協力団体：特別養護老人ホーム桐寿苑
3. 事務局：株式会社乃村工藝社

#### ウ. 実施期間

令和2年10月20日～令和3年3月31日

#### エ. 助成

博物館等における「新しい関係性の構築」による収益確保・強化事業

#### オ. 事業内容

##### ①リモート研修

実施日：令和2年12月26日（土）  
10:00～16:00  
令和2年12月27日（日）  
10:00～16:00

場所：三島町I O R I 倶楽部（講師のみオンライン。ロールプレがあるため、ワークショップ参加者は同一会場で実施）

講師：来島修志氏（NPO法人シルバー総合研究所、日本福祉大学）



参加者：

秦千代栄氏（特別養護老人ホーム桐寿苑施設長）

秦千香子氏（にしあいづ地域包括支援センター主任介護支援専門員）

海老名千深氏（三島町地域包括支援センター社会福祉士）

江川トヨ子（福島県立博物館学芸員）

山口拓（福島県立博物館学芸員）

大里正樹（福島県立博物館学芸員）＊26日のみ参加

## ②回想法の実施

実施日：1回目 令和3年2月4日（木）  
10:15～11:30

2回目 令和3年2月11日（木）  
10:15～11:30

3回目 令和3年2月18日（木）  
10:15～11:30

場所：特別養護老人ホーム桐寿苑

参加者：5名（特別養護老人ホーム桐寿苑の入所者様。90代の男性1名・女性2名、80代の男性2名）

リーダー：

1回目～3回目 施設長 秦千代栄氏

コ・リーダー：

1回目 介護員 斎藤慎司氏

2回目 介護員 鈴木翔太氏

3回目 介護員 生江駿氏

＊新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、福島県立博物館学芸員の江川・山口は別室でモニターにより観察を行った。

各回とも約45分の回想の後、リーダー、コ・リーダー、江川、山口で30分ほど振り返りを行う。

シルバー総合研究所担当者および株式会社乃村工藝社担当者他関係者は、ライブ・録画で視聴できるように撮影した。

## ③各回の振り返り

実施日：1回目 令和3年2月6日（土）  
11:00～12:00

2回目 令和3年2月13日（土）  
11:00～12:00

3回目 令和3年2月20日（土）  
11:00～12:00

場所：zoomによるリモート会議

指導者：来島修志氏

参加者：

秦千代栄氏、江川トヨ子、山口拓（その他シルバー総合研究センター担当者、株式会社乃村工藝社担当者も観覧）

＊各回の2日後に来島氏に指導をいただき、振り返りを行った。実施の様子を記録視聴した来島氏からの批評・アドバイスを受け、次回計画の改善を行った。

## ④ハンドブックおよび映像の製作

成果をまとめたハンドブックを製作した。また、比較的簡易的な回想法に利用できる映像を製作した。

＊事業の記録という側面もあって製作した。また、本事業の協力者に送付し、活用していただくようお願いした。当館の活動としては、事業運営の計画を立て今後回想法事業のPRとしても活用したい。

## カ. 事業成果

### ①桐寿苑の反応

- ・プログラム全体を通してプラスの評価。
- ・「予想以上に参加者が積極的・自発的に会話をして驚いた」「普段はできない会話、普段はみれない一面がみれて非常によかった」という感想が毎回出た。
- ・秦施設長からは、「今後も苑として継続していきたい」という希望も出た。

### ②当館にとっての成果

- ・研修～振り返りまで専門家の研修の下で行うことができた。  
→ 手探り・独自の試行ではなく、きちんとした手順で正しい知識と経験を得られた。
- ・現場では施設側に主体となっていただくことで、職員の労力を軽減しながら実施できた。  
→ 今後の継続性ある事業を立案する上で参考になった。
- ・高齢者、高齢者福祉施設に対するプログラムの一つとして有益であることを実感できた。



回想法ハンドブック

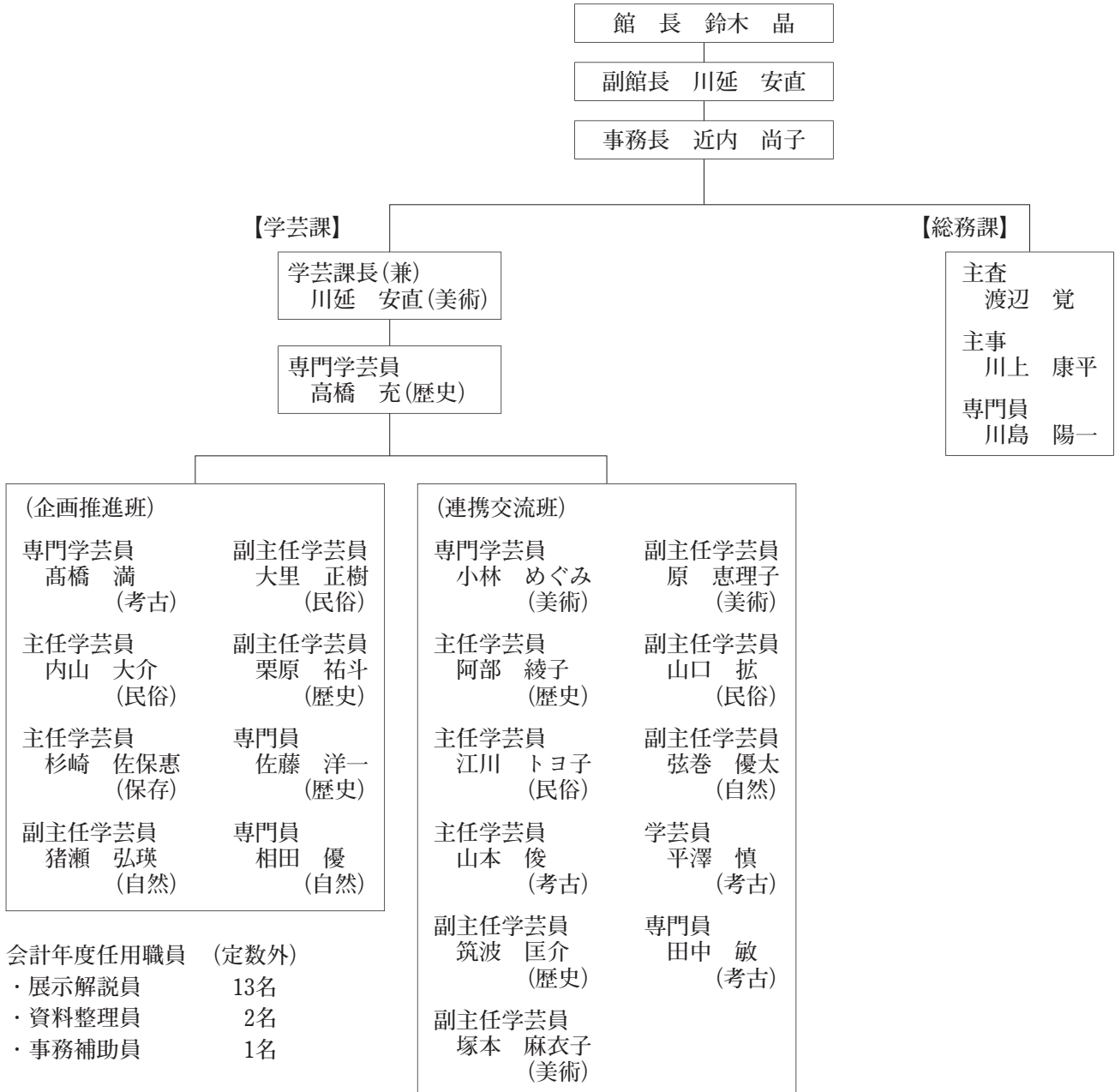
# II 管理運営

## 1. 組織・職員

福島県立博物館の組織

(令和2年4月1日現在)

管理運営



### 会計年度任用職員名簿

職名	氏名
展示解説員	渡部 知香
	岩崎 萌
	穴澤 由美子
	佐藤 聖華
	及川 敏康
	松本 光生
	日下部 順子
	和田 光
三浦 裕子	

職名	氏名
展示解説員	湯田 守
	小原 由起
	山村 葵
	遠藤 彩楓
資料整理員	長澤 宏子
	小川 敦子
臨時事務補助員	佐藤 祥 令和2年9月30日まで
	鈴木 ゆみ子 令和2年12月1日から

## 2. 予 算

令和2年度は、下表のとおり予算を執行した。

### 令和2年度予算執行状況

歳 入

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)				金 額
使用料及び手数料				11,337
	使 用 料			11,337
		行政財産使用料		374
			建 物 使 用 料	374
		教育使用料		10,963
			博 物 館 使 用 料	10,963
財 産 収 入				2,182
	財産売払収入			2,182
		物品売払収入		2,182
			その他物品売払代金	2,182
諸 収 入				517
	雑 入			517
		雑 入		517
			雑 入	517
		合 計		14,036

歳 出

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)				金 額
総 務 費				289
	企 画 費			289
		地域振興費		289
			旅 費	91
			委 託 料	198
教 育 費				216,974
	教育総務費			3,750
		事務局費		2,615
			報 酬	437
			職 員 手 当 等	895
			共 済 費	1,275
			旅 費	8
		財務管理費		1,135
			委 託 料	1,135
	社会教育費			213,224
		社会教育総務費		2,011
			需 用 費	1,065
			備 品 購 入 費	946
		博物館費		211,213
			報 酬	24,035
			職 員 手 当 等	3,192
			共 済 費	4,420
			報 償 費	588
			旅 費	2,575
			需 用 費	46,071
			需 用 費 (食糧費)	4
			役 務 費	6,292
			委 託 料	100,246
			使用料及び賃借料	1,285
			工事請負費	21,991
			備 品 購 入 費	422
			負担金、補助及び交付金	62
			公 課 費	30
		合 計		217,263

### 3. 運営協議会の開催

#### (1) 福島県立博物館運営協議会

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関である。

##### ア. 運営協議会委員

学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者10名に委嘱している。平成13年1月からは、委員の選考に一部公募方式を導入した。

##### 運営協議会委員名簿

区分	氏名	役職名
学校教育	鈴木 廣美	いわき市立小名浜東小学校校長
	伊藤 俊幸	福島県立会津支援学校校長
社会教育	会長 長野 隆人	いわき芸術文化交流館 経営総務課広報グループチーフ
	岡部 兼芳	社会福祉法人安積愛育園 はじまりの美術館館長
家庭教育	滝澤 玲子	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会 会津さざなみの会会員
学識経験者	副会長 佐藤 公	磐梯山噴火記念館館長
	川口 立喜	公立大学法人会津大学 グローバル推進本部国際戦略室長・准教授
	四家 久央	合名会社四家酒造店代表社員
	大越 章子	日々の新聞社記者
	岩崎 和美	公募委員

#### イ. 会議

第1回 令和2年7月7日（火）

##### 議題

- ①令和元年度博物館入館者数について
- ②令和2年度当初予算について
- ③令和2年度事業計画について
- ④企画展について
- ⑤中期目標の進捗状況について
- ⑥震災遺産プロジェクトの今後のあり方について
- ⑦ライフミュージアムネットワーク2020について
- ⑧新型コロナウイルス対策について

第2回 令和3年2月18日（木）

##### 議題

- ①令和2年度博物館入館者数（令和3年1月末現在）について
- ②新型コロナウイルス感染症対策（令和2年度の取り組み）について
- ③福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画について
- ④福島県立博物館第3期中期目標（令和2年12月末現在）について
- ⑤令和3年度事業計画（案）について

# Ⅲ 利用状況

## 1. 入館者統計

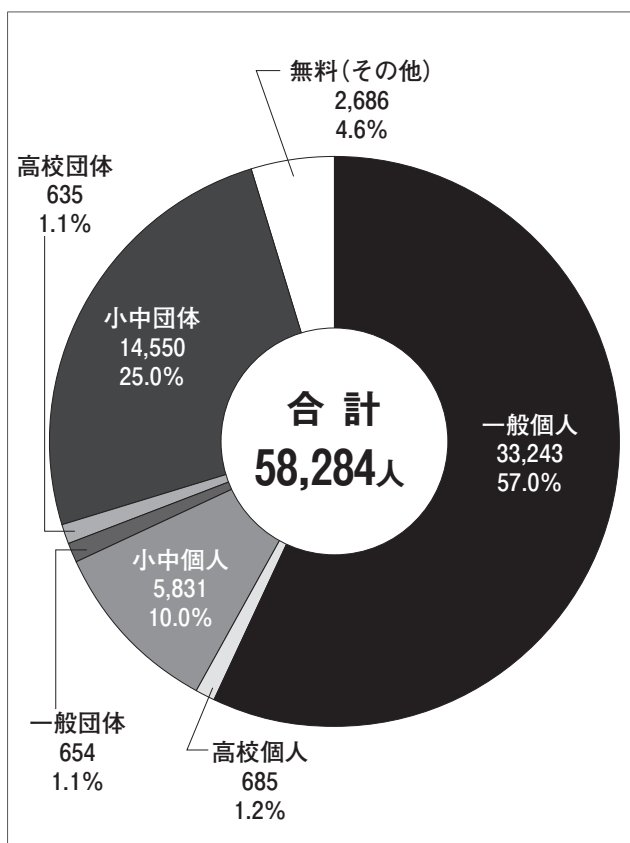
### (1) 令和2年度入館者統計

#### 月別区分別入館者数

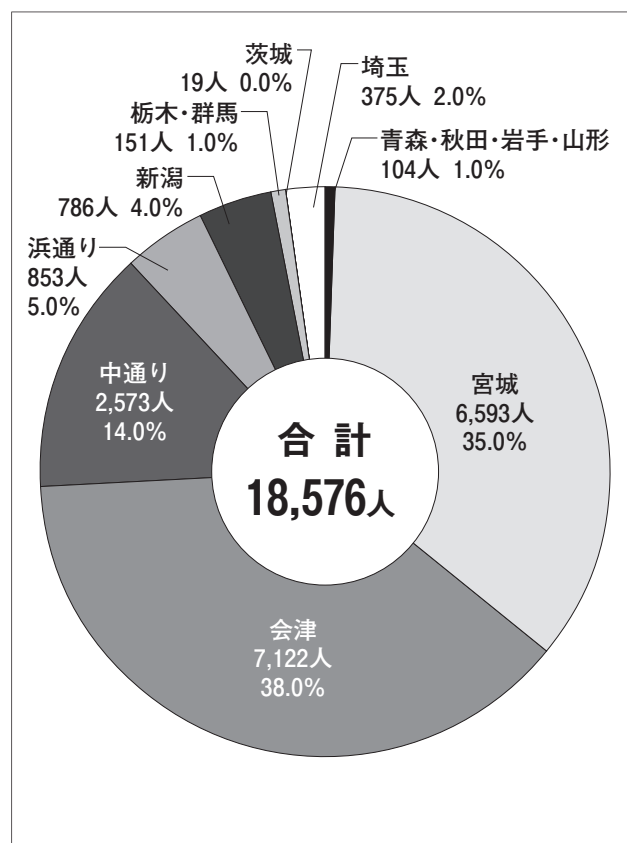
月別	常設展				企画展			合計		構成比
	日数	有料 人数	無料		日数	有料 人数	無料 人数	日数	人数	
			小中高 人数	その他 人数						
4	17	236	66	249	0	0	0	17	551	0.9%
5	14	234	35	32	14	235	73	14	609	1.0%
6	24	963	408	152	24	796	227	24	2,546	4.4%
7	27	1,424	532	276	0	0	0	27	2,232	3.8%
8	27	3,187	598	646	27	2,930	801	27	8,162	14.0%
9	27	2,207	6,539	1,424	20	1,651	1,398	27	13,219	22.6%
10	27	2,982	5,688	758	19	2,369	951	27	12,748	21.9%
11	25	2,169	4,242	849	13	1,694	1,142	25	10,096	17.3%
12	23	468	327	80	0	0	0	23	875	1.5%
1	24	571	90	80	14	479	126	24	1,346	2.3%
2	22	969	69	143	22	826	270	22	2,277	3.9%
3	26	1,552	300	207	18	1,059	505	26	3,623	6.2%
合計	283	16,962	18,894	4,896	171	12,039	5,493	283	58,284	100.0%

※4/21～5/15まで新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため臨時休館

#### 令和2年度入館者内訳



#### 地域別学校団体入館申込者数



## (2) 入館者の推移

### 入館者の推移（年度別・月別）

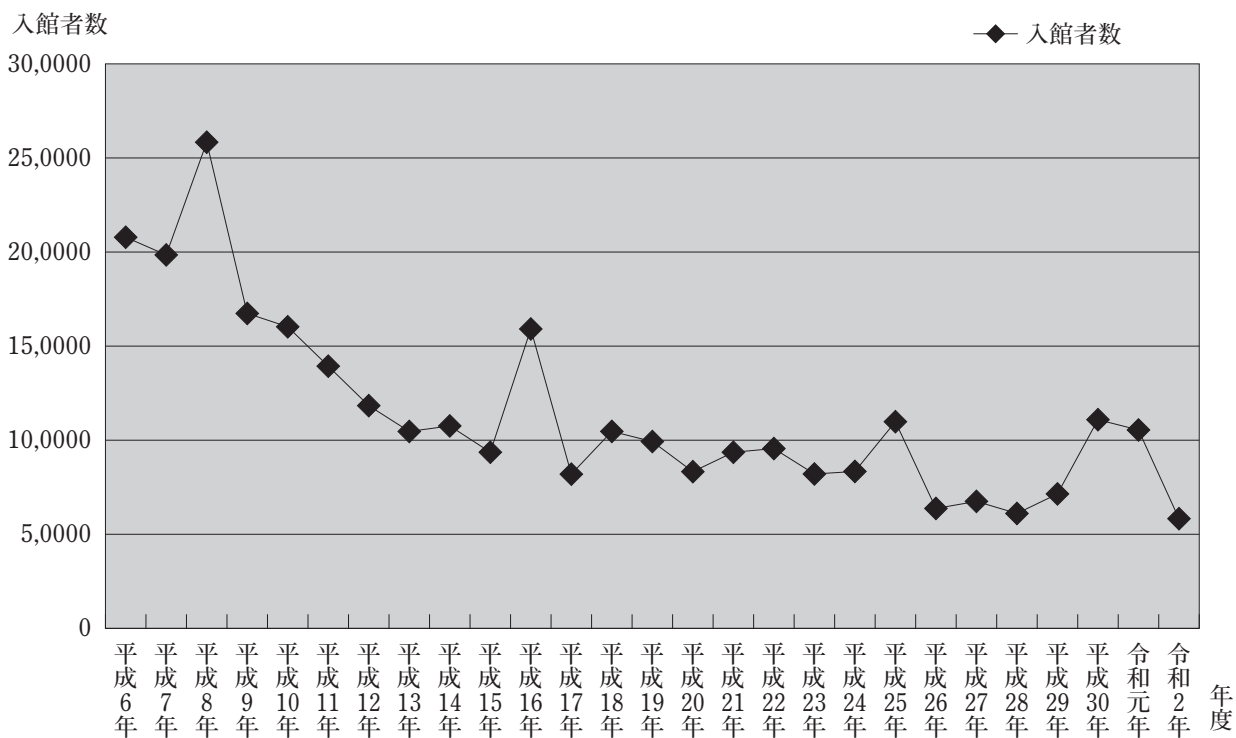
（単位：人）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	日数	日平均	月平均	累計	
昭和61年																		
62年	25,919	48,367	17,831	23,356	40,749	24,259	31,758	49,868	8,860	6,531	13,614	11,850	122,481	133	921	20,414	122,481	
63年	20,561	35,853	14,823	22,651	32,396	20,198	29,648	21,234	5,548	4,010	7,653	7,878	259,751	297	875	21,646	382,232	
平成元年	25,699	52,872	20,356	18,456	31,127	18,248	26,832	16,058	3,369	4,048	6,986	4,405	217,590	296	735	18,133	599,822	
2年	22,750	50,265	19,043	24,050	34,218	17,008	34,201	18,482	2,303	3,813	5,982	7,115	239,230	299	800	19,936	828,746	
3年	22,851	52,723	23,592	20,340	33,257	21,882	21,851	15,682	3,618	8,675	7,006	6,530	238,007	298	799	19,834	1,305,983	
4年	16,637	56,983	23,841	22,800	37,431	20,334	18,565	17,592	4,028	5,073	9,096	7,606	239,986	297	808	19,999	1,545,969	
5年	17,975	50,452	29,319	21,138	28,490	18,285	20,022	15,629	6,989	4,993	9,137	8,640	231,069	293	789	19,256	1,777,038	
6年	15,320	38,693	20,737	12,328	25,837	16,551	28,034	19,857	7,839	4,732	9,197	8,742	207,867	296	702	17,322	1,984,905	
7年	16,571	42,832	28,622	15,340	23,785	16,428	20,252	15,096	2,048	2,701	7,631	7,160	198,466	298	666	16,539	2,183,371	
8年	12,433	40,138	18,185	9,725	21,495	15,879	64,772	50,811	9,473	3,141	6,700	5,616	258,368	294	879	21,531	2,441,739	
9年	13,521	39,844	22,279	8,036	15,803	13,082	26,015	10,290	2,125	2,111	7,578	6,686	167,370	295	567	13,948	2,609,109	
10年	14,922	34,430	24,933	9,541	16,208	13,794	18,431	9,061	2,395	3,218	9,770	3,575	160,278	295	474	13,357	2,769,387	
11年	13,456	30,999	23,659	9,051	13,607	12,175	15,696	7,937	1,582	2,714	4,795	3,676	139,347	294	393	11,612	2,908,734	
12年	10,539	21,341	18,775	7,127	13,184	12,794	15,609	8,120	1,801	829	5,353	2,897	118,369	301	393	9,864	3,027,103	
13年	8,473	20,267	16,475	5,682	8,451	13,423	12,192	5,825	5,797	1,412	3,836	2,818	104,651	303	345	8,721	3,131,754	
14年	8,028	19,242	17,211	4,706	14,702	19,901	10,688	5,265	1,078	1,196	3,183	2,386	107,586	306	352	8,966	3,239,340	
15年	4,899	13,884	12,884	8,732	10,630	12,525	13,000	7,693	1,665	1,235	3,733	2,734	93,614	302	310	7,801	3,332,954	
16年	8,770	19,287	16,768	20,318	34,732	35,813	11,227	5,440	2,192	855	2,019	1,690	159,111	302	527	13,259	3,492,065	
17年	8,440	14,548	12,008	7,507	7,157	8,787	11,972	4,374	926	1,159	2,815	2,262	81,955	305	269	6,830	3,574,020	
18年	7,019	11,381	14,151	5,246	10,548	13,405	25,464	9,029	1,989	1,468	2,928	2,058	104,686	310	338	8,724	3,678,706	
19年	7,419	12,271	25,016	6,808	7,148	10,084	12,495	8,261	1,938	1,627	2,943	3,290	99,300	306	325	8,275	3,778,006	
20年	6,521	10,730	13,011	7,401	8,582	10,326	11,388	6,798	1,558	1,037	2,193	3,730	83,275	306	272	6,940	3,861,281	
21年	7,977	13,060	11,912	7,356	14,280	16,864	9,211	6,761	1,383	1,127	1,815	1,850	93,596	306	306	7,800	3,954,877	
22年	11,669	15,085	16,283	10,472	11,658	9,513	8,522	6,280	1,637	1,947	1,796	694	95,556	293	326	7,963	4,050,433	
23年	2,292	6,582	4,990	5,557	11,047	15,972	9,465	6,399	3,159	4,280	7,087	5,218	82,048	305	269	6,837	4,132,481	
24年	8,940	9,350	6,912	7,532	12,764	10,702	10,683	6,438	2,316	1,551	3,173	3,040	83,401	306	273	6,950	4,215,882	
25年	6,523	11,722	25,363	9,013	20,966	12,299	11,802	4,025	2,736	1,617	1,463	2,309	109,838	309	355	9,153	4,325,720	
26年	4,972	7,374	7,677	4,250	5,845	7,457	4,549	8,878	3,815	1,036	3,765	4,121	63,739	309	206	5,312	4,389,459	
27年	5,215	12,117	10,507	3,520	4,873	7,621	5,375	4,543	1,552	2,492	4,502	5,173	67,490	309	218	5,624	4,456,949	
28年	5,006	7,101	9,290	4,037	5,551	14,131	5,014	2,792	1,082	886	2,512	3,671	61,073	303	202	5,089	4,518,022	
29年	5,020	8,018	10,104	4,156	8,932	9,709	7,339	4,774	2,555	3,716	3,365	3,775	71,463	306	234	5,955	4,589,485	
30年	4,898	8,589	13,353	14,686	24,285	22,000	10,084	4,762	1,416	915	2,090	3,825	110,903	306	362	9,242	4,700,388	
令和元年	5,208	8,390	9,519	26,572	25,878	10,974	6,739	5,325	1,135	1,094	2,314	2,291	105,439	307	343	8,787	4,805,827	
2年	551	609	2,546	2,232	8,162	13,219	12,748	10,096	875	1,346	2,277	3,623	58,284	283	206	4,857	4,864,111	
平均	11,088	24,276	16,529	11,462	18,346	15,166	17,393	12,187	3,066	2,673	5,047	4,509	138,975	297	474	11,873		

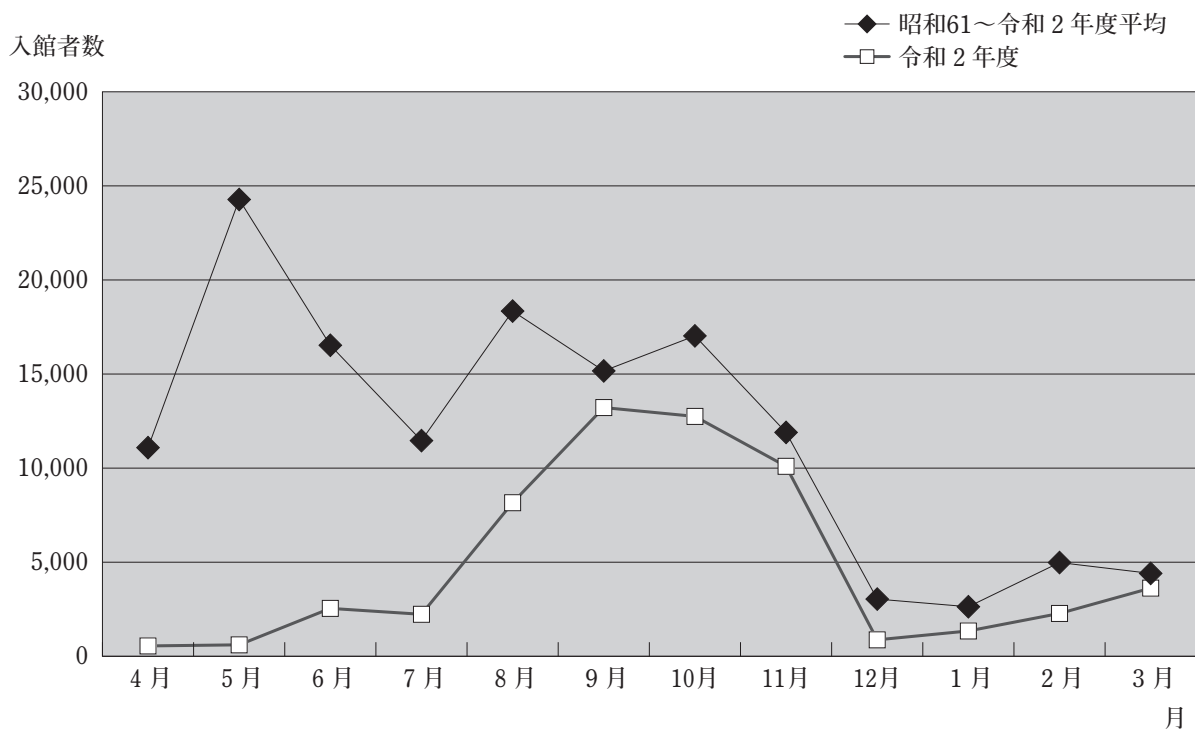
入館者の推移グラフ（年度別月別）

利用  
状況

入館者数の推移 年度別



月別入館状況



### (3) 企画展入館者統計

#### 企画展入館者数

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	合計
61	武家の文化	61.10.18～61.11.16	27日	18,806人	1,967人	4,474人	25,247人
	福島のまつり	62. 1.17～62. 3. 1	37	6,302	456	755	7,513
	計		64	25,108	2,423	5,229	32,760
62	福島の顔	62. 4.18～62. 6.14	48	13,008	510	7,077	20,595
	植物化石展	62. 7.18～62. 9.15	51	14,116	1,267	7,149	22,532
	会津の仏像	62.10.17～62.12.13	49	14,670	440	904	16,014
	陸奥の古瓦	63. 1.23～63. 3.21	50	4,069	151	291	4,511
	計		198	45,863	2,368	15,421	63,652
63	境の神・風の神	63. 4.16～63. 6.12	49	9,804	1,046	5,668	16,518
	江戸時代の流通路	63. 7.16～63. 9.11	50	16,240	1,502	5,729	23,471
	東国の埴輪	63.10. 8～63.12.11	54	15,585	1,472	4,702	21,759
	鋳物の世界	元. 1.21～元. 3.19	49	4,160	470	2,653	7,283
	計		202	45,789	4,490	18,752	69,031
元	縄文の四季	元. 4.18～元. 6.11	48	13,246	2,293	27,743	43,282
	町の成立とにぎわい	元. 7. 4～元. 9. 3	54	16,611	1,151	8,120	25,882
	中通りの仏像	元. 9.22～元.11.26	55	15,356	1,895	6,486	23,737
	東北の陶磁史	2. 1.20～ 2. 3.18	50	5,058	151	1,532	6,741
	計		207	50,271	5,490	43,881	99,642
2	亜欧堂田善とその系譜	2. 4.21～ 2. 6.10	44	12,274	2,507	22,522	37,303
	太古の生きものたち	2. 7. 6～ 2. 9. 2	51	17,519	1,407	10,681	29,607
	秀吉・氏郷・政宗	2. 9.22～ 2.11.25	55	18,273	2,481	8,516	29,270
	日本の音色	3. 1.19～ 3. 3.21	53	5,567	149	1,731	7,447
	計		203	53,633	6,544	43,450	103,627
3	シルクロード紀行	3. 4.16～ 3. 6. 9	48	13,878	3,319	27,384	44,581
	縄文絵巻	3. 7.20～ 3. 9.23	57	21,276	1,734	10,548	33,558
	浜通りの仏像	3.10.10～ 3.12. 8	51	12,293	1,030	3,528	16,851
	ふくしま鋳山のあゆみ	4. 1.18～ 4. 3.15	49	7,626	138	2,043	9,807
	計		205	55,073	6,221	43,503	104,797
4	マンガ文化の源流	4. 4.18～ 4. 6. 4	49	12,151	2,192	27,981	42,324
	恐竜のあるいた道	4. 7.18～ 4. 9.23	57	22,049	1,459	11,772	35,280
	定信と文晁	4.10.17～ 4.12. 6	43	10,333	1,083	2,549	13,965
	発掘ふくしま	5. 1.16～ 5. 3.21	55	7,004	338	1,831	9,173
	計		204	51,537	5,072	44,133	100,742
5	明治はじめて物語	5. 4.17～ 5. 6.13	48	12,810	1,542	28,085	42,437
	稲とくらし	5. 7.17～ 5. 9.23	58	19,467	1,195	8,349	29,011
	東北からの弥生文化	5.10.16～ 5.12. 5	42	12,436	936	3,178	16,550
	会津の自然史	6. 1.22～ 6. 3.21	51	6,928	418	2,350	9,696
	計		199	51,641	4,091	41,962	97,694
6	玉堂と春琴・秋琴	6. 4.23～ 6. 6. 5	37	8,816	346	16,330	25,492
	げんき・病・元気	6. 7.23～ 6. 9.18	49	14,075	1,027	6,232	21,334
	会津大塚山古墳の時代	6.10. 8～ 6.12. 4	48	18,285	751	7,095	26,131
	村芝居の世界	7. 1.21～ 7. 3.26	55	7,676	268	2,445	10,389
	計		189	48,852	2,392	32,102	83,346
7	探検員化石ワールド	7. 4.22～ 7. 6.11	44	9,187	1,608	26,208	37,003
	海のまくあけ	7. 7.22～ 7. 9.17	50	14,101	1,003	5,889	20,993
	福島1000年時のかたち	7.10. 7～ 7.11.26	43	9,379	1,342	3,417	14,138
	いにしえの木匠	8. 1.20～ 8. 3.24	55	5,760	74	1,907	7,741
	計		192	38,427	4,027	37,421	79,875
8	福島の山岳信仰	8. 4.20～ 8. 6. 9	44	8,931	976	12,432	22,339
	地震・火山・津波	8. 7.20～ 7. 9.16	51	11,671	443	6,176	18,290
	秀吉と桃山文化	8.10. 5～ 8.11.24	43	45,643	1,583	8,929	56,155
	近代子どもの世界	9. 1.18～ 9. 3.23	54	3,733	130	2,427	6,290
	計		192	69,978	3,132	29,964	103,074



企画展入館者数

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	合計
9	縄文たんけん	9. 4.19～9. 6. 8	43日	5,282人	1,164人	23,052人	29,498人
	日本の魚学・水産学事始め	9. 7.19～9. 9.15	51	6,396	396	4,082	10,874
	染める	9.10.10～9.12. 7	51	6,165	118	7,372	13,655
	遠澤と探幽	10. 1.24～10. 3.15	43	5,854	433	775	7,062
	計		188	23,697	2,111	35,281	61,089
10	戦国の城	10. 4.18～10. 6.14	49	8,731	600	19,452	28,783
	発掘ふくしま2	10. 7.18～10. 9.13	50	7,930	484	5,954	14,368
	天の絹絲	10.10.10～10.12.13	55	6,521	133	3,009	9,663
	日本の美	11. 1.26～11. 2.21	23	5,055	101	567	5,723
	計		177	28,237	1,318	28,982	58,537
11	氷河時代	11. 4.17～11. 6.13	49	6,351	680	20,052	27,083
	新弥生紀行	11. 7.17～11. 9.15	43	6,128	409	3,438	9,975
	生の中の死	11.10. 9～11.12.12	54	5,826	225	2,103	8,154
	豊かなる世界へ	12. 1.22～12. 3.20	51	3,426	103	448	3,977
	計		197	21,731	1,417	26,041	49,189
12	集古十種	12. 4.22～12. 6.11	44	4,843	81	7,960	12,884
	海獣パレオパラドキシア	12. 7.15～12. 9.10	49	6,013	363	4,074	10,450
	英雄たちの系譜	12.10. 7～12.12.10	55	5,838	139	3,326	9,303
	安積良斎と門人たち	13. 1.20～13. 3.20	51	2,963	73	115	3,151
	計		199	19,657	656	15,475	35,788
13	食と考古学	13. 4.21～13. 6.10	44	3,330	281	8,964	12,575
	肖像に見る福島を築いた人々	13. 7. 7～13. 8.26	44	3,630	118	1,148	4,896
	武者たちが通る	13. 9.22～13.11.11	44	4,437	385	2,675	7,497
	計		132	11,397	784	12,787	24,968
14	化石芸術	14. 4.27～14. 6.30	56	3,921	552	6,928	11,401
	雪村展	14. 8.10～14. 9.23	39	11,362	169	1,149	12,680
	計		95	15,283	721	8,077	24,081

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	無料	合計
15	発掘された日本列島2003	15. 7.15～15. 8.13	26日	2,473人	386人	647人	1,424人	4,930人
	発掘ふくしま3	15. 8.20～15. 9.23	30	1,833	40	479	432	2,784
	《笑い》の想像力	15.10.11～15.12. 7	50	3,190	47	456	769	4,462
	計		106	7,496	473	1,582	2,625	12,176
16	戊辰戦争といま	16. 4.17～16. 6.13	49	6,451	190	3,191	1,048	10,880
	アートオブスター・ウォーズ展	16. 7. 3～16. 9.26	75	46,019	5,631	11,234	1,552	64,436
	ふくしまの工芸	16.10.23～16.12. 5	36	2,524	65	182	626	3,397
	計		160	54,994	5,886	14,607	3,226	78,713
17	老い	17. 4.23～17. 6. 5	39	1,732	80	414	814	3,040
	婚礼	17. 9.23～17.11. 6	39	2,480	45	233	1,020	3,778
	計		78	4,212	125	647	1,834	6,818
18	馬と人との年代記	18. 4.22～18. 6.11	45	1,679	24	801	615	3,119
	布の声をきく	18. 7.22～18. 9. 3	40	2,137	53	284	464	2,938
	徳川將軍家と会津松平家	18. 9.30～18.11. 5	36	14,879	126	1,918	2,560	19,483
	計		121	18,695	203	3,003	3,639	25,540
19	樹と竹	19. 7.21～19. 9.17	52	1,987	44	429	619	3,079
	わくわく!化石大集合	19.10. 6～19.11.25	44	2,611	21	1,593	2,233	6,458
	計		96	4,598	65	2,022	2,852	9,537
20	宝の山2008	20. 7.19～20. 9.23	58	3,943	66	1,131	1,070	6,210
	遠藤香村	20.10.11～20.11.24	41	1,619	131	106	973	2,829
	計		99	5,562	197	1,237	2,043	9,039
21	岡本太郎の博物館	21.10.10～21.11.23	40	1,905	9	95	1,371	3,380
	計		40	1,905	9	95	1,371	3,380

## 企画展入館者数

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	無料	合計
22	千少庵と蒲生氏郷	22. 4.17~22. 5.30	39日	6,077人	27人	489人	985人	7,578人
	森に生き山に遊ぶ	22. 6.26~22. 8.22	51	12,588				12,588
	漆のチカラ	22.10. 9~22.11.28	43	2,564	31	159	1,259	4,013
	計		133	21,229	58	648	2,244	24,179
23	保科正之の時代	23.10. 8~23.11.27	43	4,908	28	188	0	5,124
	小さなもの集まれ	24. 2.18~24. 3.31	36	2,523	21	271	0	2,815
	計		79	7,431	49	459	0	7,939
24	小さなもの集まれ	24. 4. 1~24. 5.13	38	4,264	82	493	875	5,714
	恐竜時代のふくしま	24. 7.14~24. 9.17	54	6,985	128	4,055	2,648	13,816
	会津の寺宝	24.10. 6~24.11.25	44	6,668	16	72	872	7,628
	計		136	17,917	226	4,620	4,395	27,158
25	八重の桜	25. 4.17~25. 7. 3	46	13,146	130	5,462	875	19,613
	対決！恐竜展	25. 7.27~25. 9.16	46	9,948	273	5,033	2,648	17,902
	考古学からの挑戦	25.10. 5~25.12. 1	50	1,955	11	85	872	2,923
	計		142	25,049	414	10,580	4,395	40,438
26	東北-風土・人・暮らし	26. 4.19~26. 5.18	26	1,094	30	102	360	1,586
	アイヌの工芸	26. 7.19~26. 9.15	52	2,841	62	531	702	4,136
	みちのくの観音さま	26.11. 1~26.12.14	38	6,441	18	73	1,419	7,951
	計		116	10,376	110	706	2,481	13,673
27	ふるさと会津の人と四季	27. 5. 2~27. 6.21	44				5,992	5,992
	被災地からの考古学	27. 7.18~27. 9.13	51	1,518	39	221	362	2,140
	相馬中村藩の人びと	27.10.10~27.11.29	38	1,406	8	34	317	1,765
	計		133	2,924	47	255	6,671	9,897
28	大須賀清光の屏風絵と番付	28. 4.23~28. 6.12	45	2,254	14	201	486	2,955
29	自然をうつす	29. 4.29~29. 6. 4	32	1,291	45	620	483	2,439
	ふくしま5億年の自然史	29. 7.15~29. 9.18	59	3,457	138	2,037	1,005	6,637
	発掘ふくしま4	29.10. 7~29.11.26	44	1,305	455	1,475	506	3,741
	山水憧憬	30. 1.13~30. 2.18	32	3,012	42	209	433	3,696
	計		167	9,065	680	4,341	2,427	16,513
30	匠のふるさと会津	30. 4.28~30. 6.24	50	2,004	134	4,294	625	7,057
	美しき刃たち	30. 7.13~30. 8.19	34	21,581	841	2,853	2,006	27,281
	戊辰戦争150年	30. 9. 1~30.10.14	38	10,544	179	5,412	1,310	17,445
	日本のわざと美	30.10.27~30.12. 2	32	2,298	36	357	486	3,177
	計		154	36,427	1,190	12,916	4,427	54,960
元	とりもどすぎすなつながるみらい	31. 4.27~元. 6. 9	39	1,138	44	2,920	608	4,710
	興福寺と会津	元. 7. 6~元. 8.18	39	35,926	353	1,807	3,125	41,211
	あにまるず	元. 9. 7~元.11.17	63	3,511	345	4,009	843	8,708
	計		141	40,575	742	8,736	4,576	54,629
2	ふくしまの旅	2. 4.29~ 2. 6.28	38	1,031	14	85	201	1,331
	会津のSAMURAI文化	2. 8. 1~ 2. 9.22	47	4,581	109	1,037	1,053	6,780
	発掘された日本列島2020	2.10.10~ 2.11.15	32	4,063	169	882	1,042	6,156
	震災遺産を考える	3. 1.16~ 3. 3.21	54	2,364	49	462	390	3,265
	計		171	12,039	341	2,466	2,686	17,532

※平成16年度のアート オブ スター・ウォーズ展については高校生の区分は中学生・高校生、小・中学生の区分は小学生と読替え

## 2. 出版物販売

出版物売上表

書籍名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
武家の文化	600	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	1,200
ふくしまの顔	500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陸奥の古瓦	400	0	0	1	0	0	0	1	2	0	0	0	3	7	2,800
鉱物の世界	400	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	1	4	1,600
縄文の四季	500	0	0	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	4	2,000
まちの成立とにぎわい	500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
垂欧堂田善とその系譜	1,000	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2	2,000
太古の生きものたち	500	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1,500
日本の音色	800	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	800
シルクロード紀行	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
縄文絵巻	800	0	0	1	0	1	0	2	2	0	0	0	1	7	5,600
浜通りの仏像	500	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1,000
ふくしま鉱山のあゆみ	800	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	3,200
マンガ文化の源流	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
恐竜のあるいた道	500	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1,500
定信と文晁	1,000	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	6	6,000
明治はじめて物語	500	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1,000
稲とくらし	800	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3	2,400
東北からの弥生文化	800	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	4	3,200
会津の自然史	800	0	0	1	3	0	0	0	1	0	0	0	0	5	4,000
玉堂と春琴・秋琴	1,100	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	5	5,500
げんき・病・元気	800	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1,600
村芝居の世界	900	0	0	2	1	0	2	0	0	1	0	0	1	7	6,300
探検具化石ワールド	800	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2,400
海のまくあけ	800	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	3	2,400
福島1000年時のかたち	900	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いにしえの木匠	600	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	3	1,800
福島の山岳信仰	800	1	0	1	0	1	0	3	3	1	0	0	8	18	14,400
地震・火山・津波	500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	1,000
近代子どもの世界	900	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	4	3,600
縄文たんけん	900	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	2	5	4,500
日本の魚学・水産学事始め	500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
染める	600	0	0	1	1	2	1	0	0	0	0	1	1	7	4,200
遠澤と探幽	1,300	1	0	0	0	2	1	1	0	1	0	2	1	9	11,700
天の絹絲	1,300	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2,600
日本の美	800	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
氷河時代	700	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1,400
新弥生紀行	1,100	0	0	0	0	1	0	3	1	0	0	0	0	5	5,500
生の中の死	900	0	0	0	0	0	2	1	0	0	1	0	0	4	3,600
豊かなる世界へ	600	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	600
集古十種	1,100	2	1	1	0	1	1	2	2	2	1	2	0	15	16,500
海獣パレオパラドキシア	600	0	0	0	3	0	1	0	0	0	1	0	0	5	3,000
英雄たちの系譜	500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	500
食と考古学	500	0	0	2	0	1	0	1	1	0	0	0	0	5	2,500
肖像にみる福島を築いた人々	900	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	900
武者たちが通る	400	2	1	1	0	3	2	0	0	0	0	0	0	9	3,600
発掘ふくしま3	600	0	0	0	1	0	0	8	3	0	0	0	1	13	7,800
笑いの想像力	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1,000
老い	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
婚	800	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
馬と人との年代記	800	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2,400

出版物売上表

書籍名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
布の声をきく	700	0	0	1	0	0	1	0	0	3	0	0	0	5	3,500
樹と竹	600	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1,800
わくわく!化石大集合	400	0	0	1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	4	1,600
会津磐梯山	500	0	1	1	0	0	1	39	0	0	0	0	0	42	21,000
遠藤香村	800	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	4	3,200
岡本太郎の博物館	500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
千少庵と蒲生氏郷	250	1	1	0	2	26	9	3	1	0	0	0	0	43	10,750
漆のチカラ	400	0	0	2	0	0	1	1	0	0	0	1	1	6	2,400
保科正之の時代	1,000	1	2	1	0	10	5	0	1	0	0	0	1	21	21,000
恐竜時代のふくしま	500	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1,500
会津の寺宝	1,000	0	2	1	0	1	1	9	2	0	0	0	2	18	18,000
八重の桜	2,000	0	0	1	0	1	3	0	0	0	1	5	0	11	22,000
対決!恐竜展ガイドブック	300	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	900
恐竜展2011 ポプラディア完全ガイド	500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
恐竜博2011 公式図録	2,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2,000
考古学からの挑戦	900	0	0	3	0	1	0	1	2	0	0	1	1	9	8,100
アイヌの工芸	1,000	0	0	1	1	1	0	1	0	0	1	3	0	8	8,000
被災地からの考古学1	200	1	0	1	0	0	0	3	4	0	1	5	3	18	3,600
相馬中村藩の人びと	700	1	0	0	0	2	1	2	0	0	1	0	2	9	6,300
大須賀清光の屏風絵と番付	700	2	1	0	0	7	5	0	2	1	1	0	0	19	13,300
自然をうつす	900	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	900
ふくしま5億年の自然史	600	0	0	1	3	2	1	0	2	0	0	0	2	11	6,600
発掘ふくしま4	900	0	0	3	1	2	1	17	10	0	0	0	1	35	31,500
山水憧憬	1,000	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	2,000
匠のふるさと会津	800	0	0	1	0	1	2	0	4	0	0	1	1	10	8,000
日本のわざと美	2,000	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2,000
あにまるず	500	2	0	1	5	3	3	27	19	2	2	8	5	77	38,500
ふくしまの旅	800	0	41	79	9	9	5	7	5	0	3	3	3	164	131,200
小松安弘氏寄贈刀剣図録	2,000	0	0	0	0	61	32	2	0	0	0	0	0	95	190,000
発掘された日本列島2020	1,980	0	0	0	0	0	12	190	145	0	0	0	0	347	687,060
震災遺産を考える	800	0	0	0	0	0	0	0	0	0	115	114	231	460	368,000
あにまるず野帳	300	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1,200
ふくしまの仏像(仏像図説)	1,300	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	4	5,200
福島の古墳	1,200	1	1	0	4	3	3	16	4	0	0	2	1	35	42,000
福島の化石	1,500	0	0	0	3	0	0	0	1	0	1	0	0	5	7,500
戦時下の福島	800	0	0	0	0	2	0	1	4	0	1	2	3	13	10,400
福島の年中行事	1,100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1,100
手引き(小)	700	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	2	6	4,200
常世原田遺跡	600	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ふくしまの農具	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	2,000
文化の力	1,500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ポケットミュージアム	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
絵葉書	50	0	0	0	0	26	40	0	13	26	8	6	23	142	7,100
遠藤香村クリアホルダー	200	0	0	1	2	2	0	7	2	2	0	0	3	19	3,800
一筆箋	350	0	0	0	0	1	1	3	2	0	0	0	2	9	3,150
齋藤清絵はがきセット	350	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
体験学習材料	200	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	20	4,000
報告書(数量)		42	6	9	15	14	19	32	18	4	8	23	21	211	
報告書(金額)		21,900	4,800	5,300	11,800	13,800	21,900	31,700	20,400	4,500	6,900	17,700	20,700		181,400
紀要(数量)		63	7	12	7	4	9	13	12	5	2	0	29	163	
紀要(金額)		33,200	5,360	10,800	5,800	3,400	10,560	12,560	14,360	7,100	1,600	0	38,800		143,540
合計		133	68	142	89	205	171	402	274	50	152	186	386	2,258	2,182,400

利用状況

# IV 法 規

## 福島県立博物館条例

(昭和61年 3 月25日 条例第30号)

(設 置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第18条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条及び地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条第1項の規定に基づき、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、福島県立博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

(位 置)

第2条 博物館は、会津若松市城東町8番地に置く。

(業 務)

第3条 博物館において行う業務は、次のとおりとする。

- 1 歴史、考古、民俗、美術工芸、自然等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- 4 博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行うこと。
- 5 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務を行うこと。

(観覧料)

第4条 博物館の展示品(以下「展示品」という。)を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。

(観覧料の免除)

第5条 知事は、公益上の必要があると認めるときは、規則で定めるところにより、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

(観覧料不返還の原則)

第6条 既納の観覧料は、返還しない。ただし、規則で定める場合は、その全部又は一部を返還することができる。

(遵守事項)

第7条 博物館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 1 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 2 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 3 展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 4 所定の場所以外において、喫煙及び飲食を行わないこと。
- 5 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- 6 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(入館の規制等)

第8条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- 1 前条の規定に違反した者
- 2 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者
- 3 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(職 員)

第9条 博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(委 任)

第10条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理その他この条例の施行に関して必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則(平成9年条例第52号)

この条例は、平成9年4月1日から施行する。

附 則(平成11年条例第93号)

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成15年条例第53号)

この条例は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成25年条例第119号)

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(平成28年条例第53号)

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成30年条例第46号)

この条例は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（平成31年条例第48号）

この条例は、平成31年10月1日から施行する。

附 則（令和2年条例第25号）

この条例は、令和2年4月1日から施行する。

別表（第4条関係）

区 分	普通観覧料の額 （一人当たり）		特別観覧料の額	年間観覧料の額（同一人が 有効期間内に利用する場合）
	個人	団体		
一般（大学生を含む。）	280円	220円	その都度知事が定める額	3,300円の範囲内で知事が定める額
高校生及びこれに準ずる者			その都度知事が定める額	1,980円の範囲内で知事が定める額
中学生、小学生及びこれらに準ずる者			その都度知事が定める額	1,320円の範囲内で知事が定める額

備考

- 1 「普通観覧料」とあるのは常設展の展示品を観覧する場合の観覧料をいい、「特別観覧料」とあるのは企画による展示品を観覧する場合（常設展の展示品を併せて観覧する場合を含む。）の観覧料をいい、「年間観覧料」とあるのは年間利用に係る普通観覧料及び特別観覧料をいう。
- 2 「団体」とあるのは、20人以上の団体をいう。

## 福島県立博物館運営協議会条例

（昭和61年3月25日 条例第31号）

（設 置）

第1条 博物館法（昭和26年法律第285号）第20条第1項の規定に基づき、福島県立博物館（以下「博物館」という。）の適正な運営を図るため、福島県立博物館運営協議会（以下「協議会」という。）を置く。

（組 織）

第2条 協議会の委員（以下「委員」という。）の定数は、10人以内とする。

（委員の任命及び任期）

第3条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

（会長及び副会長）

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会 議）

第5条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

（庶 務）

第6条 協議会の庶務は、博物館において処理する。

（雑 則）

第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則（平成24年条例第43号）

- 1 この条例は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行の際現に改正前の福島県立博物館運営協議会条例第3条第1項の規定により任命されている福島県立博物館運営協議会の委員は、その残任期間中は、改正後の福島県立博物館運営協議会条例第3条第1項の規定により任命された福島県立博物館運営協議会の委員とみなす。

## 福島県立博物館条例施行規則

（昭和61年3月25日 教育委員会規則第5号）

（休館日）

第1条 福島県立博物館（以下「博物館」という。）の定期の休館日は、次のとおりとする。

- 1 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（次号において「休日」という。）に当たるときを除く。

- 2 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。
  - 3 1月1日から同月4日まで
  - 4 12月28日から同月31日まで
- 2 博物館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

（開館時間）

第2条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、館長は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

（観覧手続）

第3条 館長は、福島県立博物館条例（昭和61年福島県条例第30号。以下「条例」という。）第4条の規定により観覧料を納入した者（年間観覧料を納入した者（以下「年間観覧者」という。）を除く。）に対し、観覧券（様式第1号）を交付するものとする。

- 2 館長は、年間観覧者に対し年間観覧券（様式第1号の2）を交付するものとし、その有効期間は、年間観覧券の交付の日から起算して1年とする。
- 2 年間観覧者は、入館する際に有効な年間観覧券を提示するものとする。
- 3 年間観覧券の利用は、同一人に限るものとする。

（観覧料の免除及びその手続）

第4条 館長は、条例第5条の規定により、次の表の上欄に掲げる場合における普通観覧料について、同表の下欄に掲げる額を免除するものとする。

普通観覧料を免除する場合	免除する額
1 大学生（これに準ずる者として福島県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が別に定める者を含む。）及びその引率者並びに高校生、中学生及び小学生（これらに準ずる者として教育長が別に定める者を含む。）の引率者が、学校教育に基づく活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
2 県、又は市町村が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の100分の50に相当する額（引率者にあつては全額）
3 国民の祝日に関する法律第2条に定めるこどもの日、敬老の日及び文化の日に観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
4 知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証の交付を受けている者が観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
5 その他免除することが公益上適当と認めるとき。	教育長が別に定める額

2 観覧料の免除を受けようとする者（前項の表の第3号又は第4号のいずれかに該当する場合に観覧料の免除を受けようとする者を除く。）は、前項の表の第1号又は第2号に該当する場合にあつては観覧しようとする日の3日前まで、第5号に該当する場合にあつては10日前までに観覧料免除申請書（様式第2号）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の規定により観覧料の免除を承認したときは、観覧料免除承認書（様式第3号）を交付するものとする。

（観覧料の返還）

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、それぞれ当該各号に定めるところにより、観覧料の全部又は一部を返還するものとする。

- 1 観覧しようとする者の責めによらない理由により観覧することができなくなったとき。全額
  - 2 その他やむを得ない理由があると認めるとき。教育長が別に定める額
- 2 観覧料の返還を受けようとする者は、観覧料返還申請書（様式第4号）に観覧券を添えて、館長に提出しなければならない。

（博物館資料の特別利用）

第6条 博物館が所蔵し、又は寄託を受けている博物館資料を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、館長の承認を受けなければならない。

（教育長への委任）

第7条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

- 1 この規則は、昭和61年4月1日から施行する。（令2教委規則8・旧附則・一部改正）
- 2 第3条の2第1項の有効期間中に工事により休館する期間がある場合は、その期間を1年に加算した期間を同項の有効期間とする。（令2教委規則8・追加）

附 則（昭和63年教委規則第9号）

この規則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則（平成4年教委規則第14号）

この規則は、平成4年9月1日から施行する。

附 則（平成7年教委規則第15号）

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則（平成8年教委規則第16号）

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則（平成8年教委規則第20号）

この規則は、平成8年10月1日から施行する。

附 則（平成12年教委規則第16号）

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成14年教委規則第14号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成15年教育委員会規則第3号）

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則（平成30年教育委員会規則第7号）

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（令和2年教委規則第8号）

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

様式第1号（第3条関係）

観 覧 券 （観覧者の区分） （金 額）  福島県立博物館	観 覧 券 （観覧者の区分） （金 額）  福島県立博物館
---	---

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

様式第1号の2（第3条の2関係）  
（表）

年間観覧券  福島県立博物館
----------------------

（裏）

（交付番号）	（観覧者の区分）
（ 有 効 期 間 ）	
御利用に際して	
1 福島県立博物館が主催する展覧会のみ有効です。	
2 下記に署名された御本人以外の方は使用できません。	
3 御購入後の紛失等による再発行はいたしません。	
（ 氏 名 ）	
（ 学 校 名 ） （ 学 年 ）	
福島県立博物館	

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。



様式第2号(第4条関係)

年 月 日

福島県立博物館長

住所又は所在地  
申請者 氏名又は名称及  
び代表者の氏名  
観覧料免除申請書

印

次の理由により観覧料を免除してください。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日		時 分から 分まで	
観覧者の種別 及び人数	一般	人	その他( )	人
	大学生		( )	
	高校生			
	中学生		引率者	
	小学生		合計	
免除申請の理由				
引率者の職及び氏名	職	氏名		
連絡先及び電話番号	電話 ( )			
観覧料	免除率	免除金額	免除の根拠	
※ 円 ※		※ 円 ※		
上記のとおり承認してよろしい。				第 年 月 日
館長	副館長	総務課長		主任

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

様式第3号(第4条関係)

第 号  
年 月 日

観覧料免除承認書

福島県立博物館長

印

観覧料の免除について、次のとおり承認します。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日		時 分から 分まで	
観覧者の種別 及び人数	一般	人	その他( )	人
	大学生		( )	
	高校生			
	中学生		引率者	
	小学生		合計	
免除申請の理由				
注意事項				
観覧料	免除率	免除金額		
円		円		

様式第4号(第5条関係)

年 月 日

福島県立博物館長

住所又は所在地  
申請者 氏名又は名称及  
び代表者の氏名  
観覧料返還申請書

印

次の理由により観覧料を返還してください。

展覧会の名称				
観覧料の納入月日	年 月 日			
既納観覧料の 区分及び金額	区	分	人数	金額
			人	円
	合計			
返還を申請する理由				
連絡先及び電話番号	電話 ( )			
観覧料	返還率	返還金額	返還の根拠	
※ 円 ※		※ 円 ※		
上記のとおり返還してよろしい。				
館長	副館長	総務課長		主任
受付月日	・	・	決裁月日	・

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

# 福島県立博物館組織規則

(昭和61年3月25日 教育委員会規則第6号)

(目的)

第1条 この規則は、福島県立博物館（以下「博物館」という。）の組織に関して必要な事項を定めることを目的とする。

(課)

第2条 博物館に次の課を置く。

総務課

学芸課

(事業分掌)

第3条 総務課においては、次の事務を行う。

- 1 館内事務の総合調整及び企画調査に関すること。
- 2 公印の管理に関すること。
- 3 人事に関すること。
- 4 文書の收受、発送、編集及び保存に関すること。
- 5 予算の編成、経理及び執行に関すること。
- 6 物品の調達及び処分に関すること。
- 7 財産の管理に関すること。
- 8 観覧料の徴収に関すること。
- 9 福島県立博物館運営協議会に関すること。
- 10 前各号に掲げるもののほか、他課の所掌に属しない事務に関すること。

2 学芸課においては、次の事務を行う。

- 1 博物館資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。
- 2 博物館資料に関する調査及び研究に関すること。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- 4 博物館資料に関する解説書、年報、調査研究報告書等の作成に関すること。
- 5 博物館資料に関する相談、情報提供その他博物館資料に関する教育の普及に関すること。
- 6 国立博物館、公立博物館その他の教育機関及び関係団体との連絡提携に関すること。
- 7 前各号に掲げるもののほか、博物館資料に関する専門的事項に関すること。

(館長)

第4条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は、上司の命を受け、博物館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

(副館長)

第5条 博物館に副館長を置く。

- 2 副館長は、館長を補佐し、博物館の事務を整理する。

(課長)

第6条 博物館の課に課長を置く。

- 2 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理し、所属職員を指揮監督する。
- 3 前項に規定するもののほか、課長は、課の事務を点検する。

第7条 削除

(学芸員等)

第8条 博物館に主任専門学芸員、専門学芸員、主任学芸員、副主任学芸員及び学芸員を置く。

- 2 主任専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の高度な学芸事務を処理する。
- 3 専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の学芸事務を処理する。
- 4 主任学芸員は、上司の命を受け、担任の学芸事務を処理する。
- 5 副主任学芸員は、上司の命を受け、高度な学芸事務をつかさどる。
- 6 学芸員は、上司の命を受け、学芸事務をつかさどる。

(その他の職)

第9条 博物館に、第4条から前条までに規定する職のほか、必要に応じ、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職の職務は、それぞれ同表の当該下欄に掲げるとおりとする。

職	職務
主 幹	上司の命を受け、特に指示された事務を掌理する。
事 務 長	上司の命を受け、副館長を補佐し、博物館の事務を処理する。
主 任 主 査	上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理し、並びに担当する事務を取りまとめ、及び整理する。
主 査	上司の命を受け、担任の事務を処理する。
副 主 査	上司の命を受け、高度な事務をつかさどる。
主 事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
専 門 員	上司の命を受け、担任の専門的業務に従事する。

附 則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則（平成6年教委規則第4号）

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則（平成13年教委規則第6号）

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則（平成14年教委規則第18号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成25年教委規則第8号）

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成25年教委規則第11号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（令和2年教委規則第5号）

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

## 福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則

（昭和61年3月25日 福島県規則第11号）

福島県立博物館条例（昭和61年福島県条例第30号）第5条、第6条ただし書き及び別表に規定する知事の権限は、福島県教育委員会に委任する。

附則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

## 福島県立博物館収集展示委員会設置要綱

（設 置）

第1条 福島県立博物館に収蔵する博物館資料（以下「資料」という。）の収集並びに展示計画について審議するため、福島県立博物館収集展示委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（組織等）

第2条 委員会は12人以上の委員を持って構成する。

- 2 委員は学識経験者のうちから福島県立博物館長（以下「館長」という。）が委嘱する。
- 3 委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長及び副委員長は委員の互選により選出する。
- 4 委員長は委員会を代表し、会務を掌握する。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

（会 議）

第3条 委員会は必要のつど館長が招集する。

- 2 委員会は資料収集の適否及び展示計画等について審議し、その結果を館長に報告する。
- 3 委員会は特に必要がある場合、委員以外の専門的分野に関する学識経験者の指導及び助言を求めることができる。

（展示計画作成委員）

第4条 委員会は展示計画原案作成のため、委員のうちから6人の展示計画作成委員（以下「展示委員」という。）を選任する。

- 2 展示委員は次の任務を遂行する。
  - （1）展示計画原案の作成
  - （2）展示計画作成のための基礎的資料の収集
  - （3）展示計画作成に関する専門的指導

（任 期）

第5条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（庶 務）

第6条 委員会の庶務は、福島県立博物館において処理する。

（その他）

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員長が定める。

附 則

この要綱は、昭和56年5月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正

## 福島県立博物館資料所在調査要領

### 1) 調査の目的

福島県内に散在する考古、歴史、民俗美術工芸等の資料について、その所在及び内容を把握し、県立博物館の活動のための基礎データを得ることを目的とする。

### 2) 調査の実施

#### (1) 調査員

- イ) 調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から館長が委嘱する。
- ロ) 委嘱期間は、4月1日から3月31日までの1年間とする。

#### (2) 調査の内容

資料の種類、形状、用途、数量、由来、時代、保存状況、所有者等について調査する。

#### (3) 調査の時期

4月1日から3月31日とする。

#### (4) 調査カードの作成・提出

調査員は、調査資料についてカードを作成し、福島県立博物館に提出する。

## 福島県立博物館資料調査員設置要綱

### (設 置)

第1条 福島県立博物館の収集、展示、研究等に関する基礎データを得るため福島県立博物館資料調査員（以下「資料調査員」という。）を置く。

### (選 任)

第2条 資料調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から、福島県立博物館館長（以下「館長」という。）が委嘱する。

### (職 務)

第3条 資料調査員は、福島県内に散在する考古、歴史、民俗、美術工芸等の資料について、所在及び内容を調査し、その結果を館長に報告する。

### (任 期)

第4条 資料調査員の任期は1年とする。

- 2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

### (補 足)

第5条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

### 附 則

この要綱は、昭和55年4月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正。

## 福島県立博物館友の会規約

### (名 称)

第1条 本会の名称は、福島県立博物館友の会という。

### (目 的)

第2条 本会は、博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

### (事 業)

第3条 本会は次の事業を行う。

- 1 広報活動
- 2 講演会・研修会等の開催
- 3 博物館に関連する事業への協力
- 4 図書等の斡旋等の事業
- 5 その他必要な事業

### (会員及び会費)

第4条 会員の種類は次のとおりとし、会員には会員証を交付する。

- ① 個人会員 本会の目的に賛同し、年額2,000円を納めた個人。
  - ② 家族会員 本会の目的に賛同し、年額3,000円を納めた生計を一にする家族。
  - ③ 高校生会員 本会の趣旨に賛同し、年額500円を納めた高校生個人。
  - ④ 賛助会員 本会の目的に賛同し、特に会の発展に協力するため、年間10,000円を納めた個人及び団体。
- 2 会員の期間は、入会の年4月1日から翌年の3月31日までの1年間とする。
  - 3 会員が退会した場合であっても、既に納入した会費はこれを返還しない。

### (会員の特典)

第5条 会員は次の特典を受けることができる。

- 1 博物館の展示を観覧する場合に、特別な便宜を受けることができる。
- 2 会報、博物館だより、博物館の各種催しの案内等の情報の提供を受けることができる。

- 3 会の事業に参加することができる。
- 4 会員が歴史や文化等の研究に際し、指導を受けることができる。

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く

会 長	1名
副 会 長	若干名
幹 事 長	1名
会 計	2名
幹 事	若干名(各サークルの代表者は、本会の幹事となる。)
監 事	2名

- 2 幹事のうち1名は、福島県立博物館学芸課長の職にある者を充てる。

(役員を選出及び任期)

第7条 役員は総会において選出し、任期は2年とする。ただし再任は妨げない。

- 2 補欠のため任ぜられた役員は、前任者の残任期間とする。

(役員職務)

第8条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。
- 3 幹事長は、本会の会務並びに実務を主となって処理する。
- 4 幹事は、本会の会務を運営し、その実務に携わる。
- 5 監事は、本会の会計を監査する。
- 6 会計は、本会の会計業務一切を主務とする。

(会議)

第9条 総会は、毎年1回会長が招集し、事業計画、予算、決算、役員選任、その他重要事項をはかるものとする。

- 2 役員会は、必要のつど会長が招集する。
- 3 総会及び役員会の議長は、会長があたるものとする。
- 4 議事は、出席者の過半数により決する。

(顧問)

第10条 本会は、顧問をおくことができる。顧問は、役員会の承認を得て、会長が委嘱する。

(会計年度)

第11条 本会の会計年度は、毎年3月1日に始まり、翌年2月末日に終わるを原則とする。

- 2 本会の経費は、会費、寄付金、事業収入等をもってあてるものとする。

(事務局)

第12条 本会の事務を処理するための事務局を、福島県立博物館内に置くものとする。

- 2 本会の事務局員は会長が委嘱する。

(その他)

第13条 本規約に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項については、会長が別に定める。

附 則

- 1 この規約は、平成元年4月1日から施行する。
- 2 この規約は、平成3年4月1日から施行する。(第6条第2項関係)
- 3 この規約は、平成5年4月1日から施行する。(第4条第1項②関係)
- 4 この規約は、平成7年4月1日から施行する。(第11条第1項、第12条第1項関係)
- 5 この規約は、平成8年4月1日から施行する。(第4条第1項③関係)
- 6 この規約は、平成11年4月1日から施行する。(第6条第1項関係)
- 7 この規約は、平成23年3月1日から施行する。(第11条第1項関係)
- 8 この規約は、平成27年3月26日から施行する。(第6条、第8条第3項・4項関係)
- 9 この規約は、平成28年4月1日から施行する。(第6条第1項関係・第8条3項関係)
- 10 この規約は、平成30年3月17日から施行する。(第6条第1項・第8条第6項関係)
- 11 この規約は、令和2年3月22日から施行する。(第11条、第12条、第14条関係)

# V 施設の概要

## 1. 建築概要

設計者	(株)佐藤武夫設計事務所
工事監理	福島県会津若松建設事務所 (株)佐藤武夫設計事務所
施工者	建築本体工事 福島県立博物館(本体)工事 清水建設(株)・会津土建(株)・秋山建設(株)共同企業体 電気設備工事 福島県立博物館建設(電気設備)工事 六興電機(株)・吉田電工(株)共同企業体 空気調和設備工事 福島県立博物館建設(空気調和設備)工事 新日本空調(株)・若松ガス工業(株)共同企業体 火災報知その他設備工事 福島県立博物館建設(火災報知その他設備)工事 (株)富士工業商会 給排水衛生設備工事 福島県立博物館建設(給排水衛生設備)工事 (株)共立配管工業所 昇降機設備工事 福島県立博物館建設(昇降機設備)工事 ダイコー(株)
面積	敷地面積 37,269.6㎡ 建築面積 10,986.23㎡ 延面積 11,071.44㎡ 1階 9,980.45㎡ 2階 1,090.99㎡
建築事業費	6,451,641千円 内訳 建物本体 4,623,714 展示工事 1,257,500 外構工事 368,688 その他庁用備品等 201,739
規模	地上2階
最高の高さ	20.6m
最高の軒高	13.6m
地域地区	住居地域 風致地区第1種

構造	主体構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 基礎構造 場所打ちコンクリート杭
外部仕上げ	屋根 厚0.6硫化銅板 特殊一文字葺 外壁 特焼磁器質タイル打込プレキャストコンクリート板 建具 アルミ断熱サッシ電解着色仕上げ
内部仕上げ	(エントランスホール・展示ロビー) 床 花崗岩ジェットバーナー仕上げ 壁 凝灰岩リブ付厚40m/m 天井 練付合板 クリアラッカー仕上げ(総合展示室) 床 カーペットタイル 壁 プラスターボード厚12m/m 天井 アルミ特殊ルーバー天井(講堂) 床 カーペットタイル 壁 凝灰岩 リブ付 天井 練付合板 アクリルラッカー仕上げ(第1・3・6収蔵庫) 床 ブナフローリングボード厚12m/m 壁 杉板厚12m/m ヒブクラハギ張 天井 杉板厚12m/m 本実張(第2収蔵庫) 床 コンクリート塗り床 壁 化粧珪酸カルシウム板 天井 化粧珪酸カルシウム板(第4収蔵庫) 床 ブナフローリングボード厚12m/m 壁 化粧珪酸カルシウム板 天井 化粧珪酸カルシウム板(第5収蔵庫) 床 コンクリート塗り床 壁 プラスターボード 天井 化粧珪酸カルシウム板
工期	着工 昭和59年7月7日 完成 昭和61年3月25日

施設の概要

## 2. 設備

### 電気設備

1. 電気設備 受電電圧 3相3線式 6.6KV 50Hz  
変圧器容量(業務用) 1575KVA  
(冬季用) 400KVA
2. 非常用電源 発電機 3相3線式 6.6KV 50Hz  
400KVA 蓄電池 密閉型アルカリ  
AH-PE200AH86セル
3. その他 電話設備、インターホン設備、TV共同  
視聴設備、自動火災報知器設備、防火戸  
等制御設備、ガス漏警報設備、非常用放  
送設備、I T V監視設備
4. 視聴設備 TVカメラ、ビデオ調整卓、ビデオデッキ、音響総合ラック

### 空調設備

1. 空調方式 各室ユニット型空調機 17系統ファンコ  
イル ユニット方式
2. 熱源設備 ガス直焚冷温水発生器(150RT)×2 ガス  
焚鉄銹セクショナルボイラー(396.00Kcal/H)  
水冷式チーリングユニット(120RT)

### 衛生設備

1. 給水 市水道 受水槽：50㎡
2. 消火設備 (屋内)スプリンクラーとハロン消火設備  
の併用、(屋外)野外消火栓

### 昇降機設備

油圧式エレベーター定格荷重：3 t 1基 油圧  
式リフト 定格荷重：2 t 1基

### 融雪設備

ロードヒーター・屋根ヒーター、陸屋根ヒーター・  
ドレンヒーター、外気温度地面温度・降雪  
感知器・乾地面温度・湿地面温度センサーの組  
み合わせにより自動運転または手動運転。

### 監視設備

分散形総合監理制御システムにより、受電設  
備・防災設備・熱源設備・空調設備・融雪設備・  
庭園設備等を遠方発停制御及び計測監視を行う。

### 電話設備

電子交換外線3回線 内線64回線

### 火災報知設備

受信盤P型1級 60回線(自火報)33回線(防排  
煙設備)、煙感知機274箇所、熱感知機93箇所、  
排煙区画8系統、平面地図盤(照光式)により表  
示

### 防犯設備

電波センサー・電子サイン・I T Vを必要箇所に  
設置し、監視制御システムと併用



各室面積表

室名	面積(㎡)	備考	室名	面積(㎡)	備考
収蔵スペース	2,294.8 (㎡)		応接室	36.5	
荷受場	90.5		第1会議室	34.8	
荷解場	164.0		第2会議室	70.7	
荷受人控室	25.1		更衣室	13.2	
一時収蔵庫	30.4		湯沸室	5.0	
燻蒸室	30.7		印刷室	16.2	
民俗作業室	39.6		救護室	13.2	
写真室	57.0	スタジオと暗室	警備員室	30.0	
第1収蔵庫	614.2	歴史・民俗	宿直室	25.1	
第2収蔵庫	617.7	考古・地質	倉庫A	29.4	
第3収蔵庫	393.6	古美術	倉庫B	43.6	収集用 (1)
第4収蔵庫	75.6	剥製・植物標本	車庫	55.8	
第5収蔵庫	104.9	液浸	展示準備室(1)(2)	31.7	総合展示室用
第6収蔵庫	51.5	金属	展示準備室(3)(4)	71.1	部門・企画・ 収蔵資料用
研究スペース	788.3 (㎡)		機械スペース	1,253.1 (㎡)	
研究室	238.4		空調機室 1 F	393.2	
自然作業室	37.6		空調機室 2 F	479.4	
保存科学室	77.2		電気室	132.5	
考古作業室	72.3		中央監視室	52.8	
薬品庫	8.8		発電気室	50.2	
図書室	300.0		バッテリー室	14.4	
歴史作業室	54.0		受水槽室	66.7	
展示スペース	2,815.1 (㎡)		ハロンボンベ室	31.7	
総合展示室	1,536.9		E V 機械室	17.1	
部門展示室	585.8		電話交換機室	6.3	
企画展示室	484.1		V T R 機械室	8.8	
収蔵資料展示室	208.3		サービス・共用スペース	2,507.54 (㎡)	
教育普及スペース	693.1 (㎡)		エントランス・ホール	461.1	
講堂	257.8		レストラン	83.7	厨房含む
講堂倉庫	15.0		売店・相談コーナー	73.3	ロッカー含む
体験学習室	173.5		便所(展示)	32.6	
視聴覚室	65.6		便所(中央)	68.8	
効果室	32.1		便所(管理)	31.3	
実習室	128.3		展示ロビー	513.8	ビデオブース・ワーク ショップを含む
実習準備室	20.8		レストコーナー	40.3	
管理スペース	719.5 (㎡)		その他	1,202.64	
事務室	166.1		計	11,071.44	
館長室	45.6				
副館長室	31.5				



## 4. 施設の修理・改築

平成 7年 8月 9日	消防施設整備工事（スプリンクラー設備修繕）（～10.31）
平成 8年10月 1日	博物館地域福祉推進特別対策事業（誘導表示等設置 段差解消スロープ 車椅子 駐車場 2 台分）（～9.3.19）
平成12年10月27日	給水ポンプ取替工事（～13.1.9）
平成14年 9月12日	博物館東・北面外壁タイル補修工事（～12.16）
平成15年 9月19日	非常用蓄電池取替工事（～11.20）
10月21日	吸収冷温水機真空部取替工事（～16.1.8）
平成16年10月 5日	屋根補修工事（～12.17）
12月21日	吸収冷温水機真空部取替他工事（～17.3.18）
平成17年 7月22日	屋根補修工事（～10.4）
平成18年 1月 6日	熱源コントローラー交換工事（～3.17） スプリンクラーヘッド交換工事（～3.17）
平成19年 1月 5日	スプリンクラー設備修繕工事（～3.23）
平成19年 2月 1日	1階床張替え補修工事（～3.23）
平成19年 2月21日	ウォシュレット取付け工事（～3.19）
平成21年 1月21日	高圧引込設備改修工事（電柱立替外）（～3.24）
平成21年 6月 3日	冷却塔ヘッダー管交換 2 回（～12.25）
平成21年12月18日	消防設備修繕（呼水槽、消火栓ホース、ハロゲン非常用電源設備外）（～22.2.26）
2月17日	企画展示室改修工事（～3.29）
11月16日	中央監視システム更新工事（～23.4.25）
11月26日	空調熱源機器改修工事（～23.4.22）
平成23年 1月20日	空調設備改修工事（～4.25）
平成27年 9月 1日	冷房暖房設備改修工事（～11.24）
平成27年 9月 2日	シャッター撤去・新設工事（～10.15）
平成28年 9月13日	冷却塔外改修工事（～29.3.10）
平成29年11月 1日	非常用電気設備触媒栓交換修繕（～12.27）
平成30年 3月27日	屋根等改修工事（～30.12.14）
平成30年 9月11日	温水ボイラー修繕（～30.9.27）
平成30年 9月15日	中央監視システム修繕（～30.11.1）
令和元年 8月19日	自動火災報知器設備更新工事（～2.1.9）
令和 2年11月11日	非常放送設備更新工事（～3.3.5）
令和 2年11月17日	点字ブロック改修工事（～3.3.30）

## 5. 沿革

### 《開館にいたるまで》

昭和52年	5月13日	文化を考える県民会議の設置
	6～8月	文化に関する県民意識調査の実施
昭和53年	1月24日	文化を考える県民会議から県の文化振興について知事に報告
	7月26日	第1回文化振興会議開催
昭和54年	2月2日	文化振興会議から文化振興の具体策について知事に報告
	3月19日	文化施設等整備基金条例制定
	4月1日	福島県教育庁文化課内に文化施設班を設置
	2月24日	福島県美術品等取得基金条例制定
昭和55年	4月1日	福島県教育庁文化課内文化施設整備室を設置
昭和56年	1月26日	県立博物館基本構想検討委員会から建設基本構想の報告を受ける
	2月3日	県立博物館の建設地を「会津若松市」と決定
昭和57年	2月18日	県立博物館収集展示委員会より「県立博物館総合展示及び部門展示計画」の報告
昭和58年	7月30日	建築実施設計を委託（株式会社佐藤武夫設計事務所） 展示実施設計を委託（株式会社トータルメディア開発研究所）
昭和59年	6月8日	建設工事契約（株清水建設仙台支店・株会津土建・株秋山建設による共同企業体）
	7月7日	県立博物館建築工事着工（～61.3.25）
	7月10日	展示工事委託契約（株トータルメディア開発研究所・株乃村工藝社・株丹青社による共同企業体）
	7月13日	展示工事着工（～61.9.10）
昭和61年	3月25日	県立博物館条例 同施行規則 同運営協議会条例及び組織規則制定（61.4.1施行）
	3月31日	県立博物館公所開設にともない文化施設整備室を廃止
	4月1日	県立博物館公所開設 高橋富雄が初代館長として就任 運営協議会委員10名委嘱
	10月1日	展示解説員19名採用
	10月18日	県立博物館開館

### 《開館してから》

昭和61年	11月28日	登録博物館の指定（第10号）
昭和63年	8月21日	入館者50万人達成
平成元年	3月10日	友の会設立
平成2年	10月7日	入館者100万人達成
平成4年	3月31日	日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等の指定（文部大臣）
平成5年	4月1日	展示解説員22名となる
平成7年	5月5日	入館者200万人達成
平成8年	10月5日	開館10周年記念式典を催す
平成12年	10月15日	入館者300万人達成
平成13年	1月25日	博物館リニューアル事業に伴い、新基本構想検討委員会により「福島県立博物館新基本構想」が策定される
平成14年	3月25日	博物館リニューアルの新基本構想に基づいて「展示替え基本計画」を策定
平成15年	3月24日	博物館条例第4条改正により小・中学生及び高校生の普通観覧料を無料とする
	3月28日	高橋富雄館長「金曜講座」第393回目開催
	3月31日	高橋富雄館長退任
	4月1日	赤坂憲雄が県立博物館長に就任 前館長高橋富雄に県立博物館名誉館長の称号授与
平成16年	4月8日	赤坂憲雄館長・学芸員「木曜の広場」第1回開催
平成17年	5月6日	入館者350万人達成
平成18年	9月29日	博物館開館20周年を祝う会「おめでとう20歳の博物館」開催
平成19年	7月	福島県立博物館の使命を策定し公表

平成19年 7月21日	当館と鹿児島県歴史資料センター黎明館との共同企画で企画展「樹と竹 一列島の文化 北から南から」を開催
平成20年 7月19日	磐梯山噴火記念館および野口英世記念館と連携して共同企画展「会津磐梯山」を開催
平成22年 6月26日	県内の5つの文化施設（福島県立博物館、福島県文化センター、文化財センター白河館、アクアマリンふくしま、ふくしま県民の森フォレストパークあだたら）が連携して夏の企画展「山に生き森に遊ぶーふくしまの森林文化ー」を開催
平成23年 3月11日	宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生。会津若松市は震度5強。博物館では設備および資料に若干の被害があり、展示室の安全性の確認と修繕工事のため4月10日まで休館
平成24年 5月15日	「福島県被災文化財等救援本部」が発足。当館は、福島県教育庁文化財課、福島大学、福島県文化振興財団とともに幹事として参画。8月～11月にかけて、東京電力福島第1原発事故による警戒区域内に所在する双葉町歴史民俗資料館、富岡町歴史民俗資料館、大熊町民俗伝承館に収蔵されている資料の梱包、搬出、一時保管場所への搬入作業を実施。
平成25年 5月17日	2013年NHK大河ドラマ特別展「八重の桜」を開催
11月27日	「博物館ニュース」創刊から400号達成
平成27年 5月 2日	福島県立博物館と福島県立美術館が美術館移動展示「ふるさと会津の人と四季ー福島県立美術館名品展ー」を共催
平成28年10月15日	博物館開館30周年記念式典を開催 開館30周年記念特集展「収蔵庫からこんにちは」を開催
平成29年 3月26日	福島県財務規則の改訂により博物館資料「震災遺産類」追加される
令和元年10月12日	令和元年東日本台風（令和元年台風19号）
令和 2年 3月19日	赤坂憲雄館長 最後の「館長講座」開催
3月31日	赤坂憲雄館長退任
4月 1日	鈴木晶が県立博物館長に就任
4月21日	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため臨時休館開始
5月16日	臨時休館から再開館

## VI 利用案内

### ●開館時間

午前9時30分～午後5時（最終入館は午後4時30分まで）

### ●休館日

◎毎週月曜日（祝祭日にあたる場合は開館）

◎祝祭日の翌日（土・日・祝祭日にあたる場合は開館）

◎年末年始（12月28日～1月4日）

◎その他、館内メンテナンスのために臨時に休館することがあります。

※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館（4月21日～5月15日）

### ●観覧料

◎常設展（ ）内は、団体20人以上の料金

一般・大学生280円（220円） 高校生以下は無料

◎企画展 そのつど定めます。

◎年間パスポート（購入日より1年間有効）

一般・大学生1,500円

★学校の引率者、大学の教育活動、公民館等の団体は事前の申請により常設展料金の減免を受けることができます。

★身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は無料

また1種（精神障害者保健福祉手帳にあっては1級）の認定を受けている方に限り、介護者1名が無料。

★知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証を交付されている方は常設展のみ無料。

★展示室以外の入館は無料。

### ●常設展無料開放日

5月5日（子供の日）／8月21日（県民の日）／9月21日（敬老の日）／11月3日（文化の日）

### ●交通案内



◎会津若松駅より約3km

◎市内バス利用の場合

①まちなか周遊バス「ハイカラさん」鶴ヶ城三ノ丸口下車徒歩1分

②まちなか周遊バス「あかべえ」鶴ヶ城三ノ丸口下車徒歩1分

●体の不自由な方へ スロープ・専用トイレなどを備えたほか、車いすも用意しています。

●講座・講演など 博物館では講演会・実技講座・実演などを行っています。

## 福島県立博物館年報 第35号

---

令和3年10月29日 発行

編集・発行 福島県立博物館

〒965-0807 会津若松市城東町1-25

TEL (0242) 28-6000

FAX (0242) 28-5986

<https://general-museum.fcs.ed.jp/>

印刷 北斗印刷株式会社

〒965-0052 会津若松市町北町大字始字深町67-2

TEL (0242) 32-2366

---

この年報の本文は再生紙を使用しています。

